

Groupmax Version 6i サーバ環境設定ガイド

解説・操作書

3020-3-B73-30

■ 対象製品

P-2446-5154 Groupmax Groupware Server 07-82 (適用 OS:Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012)

P-2446-5254 Groupmax Workflow Server 07-82 (適用 OS:Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Word は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■ 発行

平成 12 年 12 月 (第 1 版) 3020-3-B73(廃版)

平成 14 年 7 月 (第 2 版) 3020-3-B73-10(廃版)

平成 22 年 4 月 (第 3 版) 3020-3-B73-20(廃版)

平成 27 年 3 月 (第 4 版) 3020-3-B73-30

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2000, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-B73-30) Groupmax Server Setup Wizard Version 6 06-82

追加・変更内容	変更箇所
前提 OS 及び関連プログラムの説明を変更しました。	9.2.1
サーバプログラムの前提プログラムの説明を変更しました。	9.2.2
Windows Server 2012 使用時の注意事項を追加しました。	付録 B
オンラインヘルプに関する注意事項を追加しました。	付録 C

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容(3020-3-B73-20) Groupmax Server Setup Wizard Version 6 06-80

追加・変更内容
文書実体ディレクトリ名称の説明を変更しました。
データベース作成ディレクトリの説明を変更しました。
Groupmax サーバの起動・停止の説明を変更しました。
前提 OS 及び関連プログラムの説明を変更しました。
Setup Wizard のアンインストールの説明に注釈を追加しました。
ファイアウォールの設定の説明を追加しました。
一般文書データベースと文書実体ファイルの説明を変更しました。
Windows Server 2008 使用時の注意事項を追加しました。

変更内容(3020-3-B73-10) Groupmax Server Setup Wizard Version 6 06-50

追加・変更内容
Groupmax WWW V6 の表記を Groupmax WWW に変更しました。
ワークフローの詳細項目の説明に項目を追加しました。
[ワークフロー詳細] ダイアログボックスの説明に項目を追加しました。
ワークフローの設定（構成変更）の説明に項目を追加しました。
前提 OS 及び関連プログラムの説明を変更しました。

はじめに

このマニュアルは、Groupmax Version 7 のサーバ環境設定方法、及び Groupmax Server Setup Wizard Version 6 の機能と使い方について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは、Groupmax のサーバ環境を設定する方を対象としています。また、Groupmax の各サーバプログラムについて理解している方を対象としています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第1章 サーバ環境設定の概要

サーバ環境設定の流れ及びサーバ環境設定に使用できる機能の概要について説明しています。

第2章 Setup Wizard での環境設定の項目

Setup Wizard で環境設定のできる項目について説明しています。

第3章 Setup Wizard での環境設定

Setup Wizard を使用して新規導入時の環境設定をするときの操作について説明しています。

第4章 Setup Wizard での構成変更

Setup Wizard を使用して構成変更時の環境設定をするときの操作について説明しています。また、各サーバプログラムで構成変更をする場合の注意事項について説明しています。

第5章 Setup Wizard での Groupmax WWW の環境設定

Setup Wizard を使用して Groupmax WWW の環境設定をするときの操作について説明しています。

第6章 Setup Wizard でのマルチサーバの環境設定

Setup Wizard を使用してマルチサーバの環境設定をするときの操作について説明しています。

第7章 Setup Wizard での環境設定の初期化

Setup Wizard で設定した内容を初期化する操作について説明しています。

第8章 各サーバプログラムでの設定

Setup Wizard など初期設定が完了した環境で、各サーバプログラムの基本的な利用環境を構築するための設定について説明しています。また、Groupmax サーバの起動・停止方法について説明しています。

第9章 Setup Wizard の運用

Setup Wizard の運用方法について説明しています。

付録A システムが算出する値

環境設定の操作時に入力した値に応じてシステムが算出する値について説明しています。

付録B 各 OS 使用時の注意事項

各 OS で使用する場合の注意事項について説明しています。

付録C オンラインヘルプ

オンラインヘルプについて説明しています。

付録D 用語解説

このマニュアルで使用する用語について説明しています。

■ 関連マニュアル

このマニュアルは、次に示すマニュアルと関連がありますので、必要に応じてお読みください。



- Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド(3020-3-B56)
- Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編(3020-3-D10)
- Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド ユティリティ編(3020-3-D11)
- Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド(3020-3-B54)
- Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド(3020-3-B59)
- Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド(3020-3-D15)
- Windows NT Groupmax Agent Version 5 システム管理者ガイド(3020-3-A76)
- Groupmax Mail - SMTP Version 7 運用ガイド(3020-3-D13)
- Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 システム管理者ガイド(3020-3-B60)
- Windows NT Groupmax System Manager -TCP/IP /System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド(3020-3-A82)
- SEWB+/REPOSITORY 運用ガイド(3020-3-697)
- Groupmax Workflow Version 6 ビジュアル定義・シミュレータ・運用モニタ ユーザーズガイド(3020-3-B43)

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択してお読みいただけます。利用目的別に、次に示す流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)

 : 必ず読む項目
  : 必要に応じて読む項目

■ マニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	ウィンドウ、ダイアログボックス、又はプッシュボタンの名称を表します。
< >	キーの名称を表します。
< > + < >	一方のキーを押しながらもう一方のキーを押す操作を表します。

■ マニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称又は総称を次に示す略語で表記します。

製品名称又は総称	略称
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address Server
Groupmax Agent Server Version 5	Groupmax Agent Server
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager
Groupmax Facilities Manager Version 7	Groupmax Facilities Manager
Groupmax Form Client - Design Version 6	Groupmax Form
Groupmax High-end Document Manager Version 6	Groupmax High-end Document Manager
Groupmax High-end Object Server Version 6	Groupmax High-end Object Server
Groupmax High-end Workflow Server Version 6	Groupmax High-end Workflow Server
Groupmax Integrated Desktop Version 7	Groupmax Integrated Desktop
Groupmax Mail Server Version 7	Groupmax Mail Server
Groupmax Mail - SMTP Version 7	Groupmax Mail - SMTP
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server
Groupmax Scheduler Server Version 7	Groupmax Scheduler Server
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5	Groupmax System Agent - TCP/IP
Groupmax System Manager - TCP/IP Version 5	Groupmax System Manager - TCP/IP
Groupmax Workflow Multi-Server Version 6	Groupmax Workflow Multi-Server
Groupmax Workflow Server Version 6	Groupmax Workflow Server
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6	Groupmax WWW
Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6	Groupmax WWW for Scheduler
Groupmax Server Setup Wizard Version 6	Setup Wizard
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版及び Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版	Windows Server 2003

製品名称又は総称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版及び Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版または、Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版または、Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版または、Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版	Windows Server 2012
Microsoft(R) Word	Word

Windows Server 2003 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows Server 2003」と読み替えてください。

Windows Server 2008 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows Server 2008」と読み替えてください。

Windows Server 2012 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows Server 2012」と読み替えてください。

■ マニュアルで使用する英略語

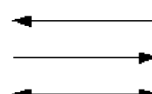
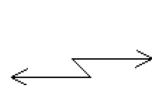
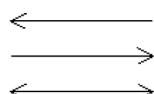
このマニュアルでは、次に示す英略語を使用します。

正式名称	英略語
Application Program	AP
Domain Name System	DNS
Operating System	OS
World Wide Web	WWW

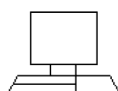
■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

- 入出力の動作
- 制御の流れ
- 通信の流れ
- その他の流れ



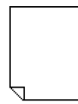
- サーバ



- データベース



- 文書



■ Setup Wizard のマニュアルとオンラインヘルプの使い分け

Setup Wizard では、オンラインヘルプを提供しています。マニュアルとオンラインヘルプはそれぞれの用途に応じて使い分けてください。

注※ Windows 2012 以降ではオンラインヘルプを使用できません。詳しくは、「付録 C オンラインヘルプ」を参照してください。

次の場合は、マニュアルを参照してください。

- Setup Wizard の機能の概要を知りたいとき
- Setup Wizard の操作手順を知りたいとき
- Setup Wizard の運用方法を知りたいとき

次の場合は、オンラインヘルプを参照してください。

- Setup Wizard の操作中に表示される、ウィンドウやダイアログボックスの操作方法を知りたいとき
- Setup Wizard の操作中に表示される、メッセージの内容や対処を知りたいとき

■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としておりますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先（あてさき）、個所（かしよ）、桁（けた）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

目次

1	サーバ環境設定の概要	1
1.1	環境設定の流れ	2
1.1.1	サーバプログラムの環境設定	2
1.1.2	Groupmax WWW 環境の設定	3
1.2	Setup Wizard の概要	5
1.2.1	Setup Wizard とは	5
1.2.2	Setup Wizard で設定できるサーバプログラム	5
1.2.3	Setup Wizard の利用方法	6
1.3	その他の初期設定	9
2	Setup Wizard での環境設定の項目	11
2.1	共通設定の項目	12
2.1.1	システム環境の設定	12
2.1.2	データベースの作成	12
2.1.3	通信環境の設定	12
2.1.4	簡易ジャーナルファイルの作成	12
2.1.5	High-end Object Server の設定	13
2.2	電子アドレス帳／メール	14
2.2.1	電子アドレス帳／メールの基本項目	14
2.2.2	電子アドレス帳／メールの詳細項目	14
2.3	SMTP	16
2.3.1	SMTP の基本項目	16
2.3.2	SMTP の詳細項目	16
2.4	文書管理	17
2.4.1	文書管理の基本項目	17
2.4.2	文書管理の詳細項目	17
2.5	ワークフロー	19
2.5.1	ワークフローの基本項目	19
2.5.2	ワークフローの詳細項目	19
2.6	スケジューラ／施設予約管理	21
2.7	エージェント	22
2.7.1	エージェントの基本項目	22
2.7.2	エージェントの詳細項目	22
2.8	Groupmax WWW	24
2.8.1	共通項目	24
2.8.2	連携サーバのホスト名称／IP アドレス	24
2.8.3	ログ出力指定	24

2.8.4 環境情報の標準値	24
----------------	----

3

Setup Wizard での環境設定	25
---------------------	----

3.1 環境設定の操作の流れ	26
3.2 Setup Wizard 環境設定の起動	27
3.3 サーバプログラムの選択	28
3.4 設定種別の選択	29
3.5 共通設定 (新規導入)	31
3.5.1 [共通設定] プロパティページ	31
3.5.2 [ポート番号設定] ダイアログボックス	33
3.5.3 [High-end Object Server の設定] ダイアログボックス	34
3.6 電子アドレス帳／メールの設定 (新規導入)	41
3.6.1 [電子アドレス帳／メール] プロパティページ	41
3.6.2 [電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックス	42
3.7 SMTP の設定 (新規導入)	45
3.7.1 [SMTP] プロパティページ	45
3.7.2 [SMTP 詳細] ダイアログボックス	46
3.7.3 SMTP の固定値	46
3.8 文書管理の設定 (新規導入)	48
3.8.1 [文書管理] プロパティページ	48
3.8.2 [文書管理詳細] ダイアログボックス	49
3.9 ワークフローの設定 (新規導入)	52
3.9.1 [ワークフロー] プロパティページ	52
3.9.2 [ワークフロー詳細] ダイアログボックス	53
3.10 スケジューラ／施設予約管理の設定	57
3.11 エージェントの設定 (新規導入)	58
3.11.1 [エージェント] プロパティページ	58
3.11.2 [エージェント詳細] ダイアログボックス	59
3.12 設定確認 (新規導入)	62
3.13 メール ID の設定	63
3.13.1 最上位組織の設定	63
3.13.2 メール登録ユーザの設定	63
3.14 Setup Wizard 環境設定の終了	65

4

Setup Wizard での構成変更	67
---------------------	----

4.1 構成変更の操作の流れ	68
4.2 共通設定 (構成変更)	69
4.3 電子アドレス帳／メールの設定 (構成変更)	70
4.4 SMTP の設定 (構成変更)	71
4.5 文書管理の設定 (構成変更)	72

4.6	ワークフローの設定 (構成変更)	73
4.7	エージェントの設定 (構成変更)	74
4.8	設定確認 (構成変更)	75
4.9	サーバプログラムで構成変更をする場合	76
5	Setup Wizard での Groupmax WWW の環境設定	77
5.1	Groupmax WWW の環境設定の操作の流れ	78
5.2	Setup Wizard for WWW 環境設定の起動	79
5.3	Groupmax WWW の環境設定の操作	80
5.3.1	[WWW Server 環境設定] ダイアログボックス	80
5.3.2	[WWW Server 環境情報の標準値] ダイアログボックス	83
6	Setup Wizard でのマルチサーバの環境設定	85
6.1	マルチサーバ環境設定の操作の流れ	86
6.2	Setup Wizard セットアップ管理デーモンの起動	87
6.3	接続状態の表示	88
6.4	マルチサーバ環境設定後の作業	89
7	Setup Wizard での環境設定の初期化	91
7.1	Setup Wizard 設定初期化の起動	92
7.2	初期化の実行	93
8	各サーバプログラムでの設定	95
8.1	ユーザの登録	96
8.1.1	最上位組織/組織の登録	96
8.1.2	ユーザの登録	97
8.1.3	グループの登録	97
8.1.4	Groupmax Address Server 以外でのユーザの管理	97
8.2	掲示板の作成	98
8.2.1	最上位掲示板の作成	98
8.2.2	掲示板の作成	98
8.3	文書管理の設定	99
8.3.1	一般文書	99
8.3.2	フォーム文書	100
8.4	スケジュール・施設管理の設定	102
8.4.1	利用ユーザの取り込み	102
8.4.2	利用環境の設定	102
8.5	ワークフローの運用環境の設定	104
8.5.1	利用ユーザのトレーの作成	104

8.5.2	管理ユーザの登録	105
8.5.3	利用環境の定義	105
8.6	Groupmax サーバの起動・停止	107
8.6.1	システム統合管理機能を利用した起動と停止	107
8.6.2	サービス名を指定した起動と停止	107

9

Setup Wizard の運用	109	
9.1	必要なハードウェア	110
9.1.1	ハードウェア構成	110
9.1.2	メモリ及びディスクの容量	110
9.2	必要なソフトウェア	111
9.2.1	前提 OS 及び関連プログラム	111
9.2.2	サーバプログラムの前提プログラム	112
9.2.3	Setup Wizard のインストール	114
9.2.4	Setup Wizard のアンインストール	114
9.3	障害対策	115
9.3.1	トレースファイルの取得	115
9.3.2	イベントログファイルの取得	115
9.4	ファイアウォールの設定	116
9.4.1	ポート番号の設定	116

付録

付録	117	
付録 A	システムが算出する値	118
付録 A.1	電子アドレス帳／メールの算出値	118
付録 A.2	文書管理の算出値	120
付録 A.3	ワークフローの算出値	121
付録 B	各 OS 使用時の注意事項	127
付録 B.1	ファイアウォール	127
付録 B.2	ユーザアカウント制御	127
付録 B.3	オンラインヘルプ	127
付録 B.4	スタートメニューの表記	127
付録 C	オンラインヘルプ	128
付録 C.1	はじめに	128
付録 C.2	Setup Wizard の概要	129
付録 C.3	Setup Wizard 設定初期化	133
付録 C.4	Setup Wizard 環境設定	134
付録 C.5	Setup Wizard for WWW 環境設定	164
付録 C.6	Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン	167
付録 C.7	メッセージ	169

付録 C.8 使用上の注意	247
付録 C.9 用語について	256
付録 D 用語解説	259

索引	261
----	-----

1

サーバ環境設定の概要

この章では,サーバ環境設定の流れ及びサーバ環境設定に使用できる機能の概要について説明します。

1.1 環境設定の流れ

Groupmax の各サーバプログラムの初期設定の流れ, 及び Groupmax WWW の環境設定の流れについて説明します。

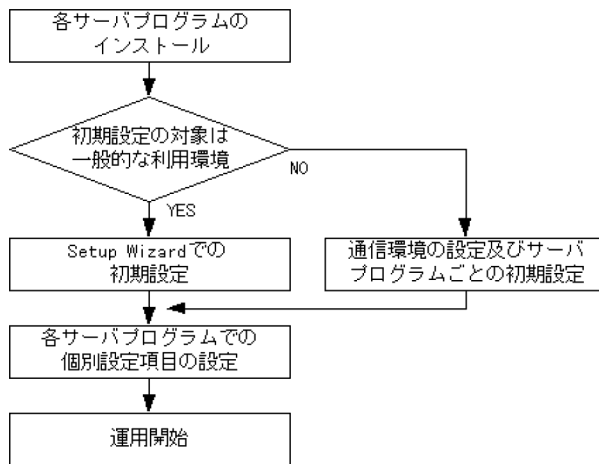
1.1.1 サーバプログラムの環境設定

Groupmax の各サーバプログラムの環境を設定するには, 次に示す方法があります。

- サーバ環境設定用ウィザードである Setup Wizard を利用する。
- 各サーバプログラムの環境設定プログラムを利用する。

各サーバプログラムの初期設定の流れを, 図 1-1 に示します。

図 1-1 各サーバプログラムの初期設定の流れ



(1) Setup Wizard での初期設定

一般的な利用環境での初期設定をする場合, Setup Wizard を利用できます。Setup Wizard では, 各サーバプログラムの環境に必要な項目を対話的に設定できます。この方法で設定すると, 次に示す機能が利用できるようになります。

- 初期登録ユーザでのクライアントからのユーザ認証
- メールの送受信
- エージェントの利用

Setup Wizard の概要については, 「1.2 Setup Wizard の概要」を参照してください。

なお, Setup Wizard は, 新規導入時の設定及び同一バージョン内での設定値の変更に利用できます。導入済みのシステムのバージョンアップ後に, 設定値の変更やサーバプログラムの追加はできません。また, クラスタ環境での Groupmax 環境の初期設定にも利用できません。これらの作業には, 各サーバプログラムの環境設定プログラムを利用してください。

(2) 各サーバプログラムの環境設定プログラムを利用した初期設定

Groupmax の利用環境として, 一部の機能を重点的に利用する場合や, 大規模な環境でより詳細な設定を初期設定の段階から実施したい場合があります。この場合は Setup Wizard を使用しないで, 通信環境を

設定してから、各サーバプログラムの環境設定プログラムを利用して必要な設定をします。作業の概要については、「1.3 その他の初期設定」を参照してください。

(3) 各サーバプログラムでの個別設定項目の設定

初期設定を完了すると、各サーバプログラムは起動できる状態となります。起動後に、各サーバプログラムの運用環境に合わせて必要な項目を設定します。設定項目の概要を次に説明します。

- 組織及びユーザの登録
Groupmax では、日本型組織に合った、階層的及び組織横断的なユーザ管理の環境を設定できます。ユーザ管理のための組織、ユーザ、グループを登録、更新及び削除するには、運転席などを利用します。
- 掲示板の利用
掲示板機能では、掲示板を目的に合わせて階層化することで検索性を向上できます。また、読み、書き、削除などのアクセス権限を設定することで、利用者別に利用範囲を制限し、運用環境に合わせた掲示板システムを構築できます。アクセス権限の単位となる最上位掲示板は運転席で作成します。それより下の掲示板は運転席で作成するか、又は権限が与えられたユーザがクライアント環境で作成します。アクセス権限は、運転席などで設定します。
- 階層化した文書管理
文書管理機能では、一般的なデータファイルを登録文書として階層化して管理できます。また、参照形態に合わせて、ドキュメント格納階層とは別の、参照用の階層を利用する環境を設定できます。登録文書の階層は、権限の与えられたユーザがクライアント環境で作成します。
- スケジュール及び施設管理
スケジュール及び施設管理では、行先区分や休日など業務に合わせて設定する項目や、管理する施設の付属設備などの関連情報を設定することで、エンドユーザにとってより使いやすい操作環境を設定できます。さらに、スケジュールの参照権限の制限など、さまざまな運用状況に合わせた利用環境を設定できます。スケジュール及び施設管理の利用環境は、管理ツールで設定します。
- ワークフロー運用環境
ワークフローでは、業務運用の前に管理者を設定します。管理者は、業務の流れを定義するビジネスプロセスを作成してサーバに登録し、業務情報(案件)の運用管理をします。また、エンドユーザの環境を整えることもできます。
管理者の設定は、ワークフローユーザ定義 (Workflow Definer) などで行います。
- エージェントサーバの設定
Agent Server に、利用するエージェントアプリケーションを設定できます。

なお、Groupmax のサーバプログラムに関するその他の機能については、各サーバプログラムのマニュアルを参照してください。

1.1.2 Groupmax WWW 環境の設定

Groupmax を WWW ブラウザから利用する場合は、各サーバプログラムの環境を設定した後に、Groupmax WWW の環境を設定します。Groupmax WWW の環境設定は、WWW サーバの環境設定が完了した状態で実行します。設定する内容を次に示します。

- WWW サーバ環境への Groupmax WWW の登録
- Groupmax WWW の定義ファイルの編集

1 サーバ環境設定の概要

設定方法の詳細については、マニュアル「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

1.2 Setup Wizard の概要

Setup Wizard の機能概要及び利用方法について説明します。

1.2.1 Setup Wizard とは

Setup Wizard は、Groupmax のサーバプログラムの環境設定をウィザード方式で実行するプログラムです。

Groupmax を導入するときには多くの項目について設定が必要であり、データベース容量の計算など、専門知識が必要な作業もあります。Setup Wizard を使うと、ユーザ数などの設定項目を画面上で順に入力していくだけで、必要最小限の環境設定ができます。

Setup Wizard の機能の概要について次に説明します。

(1) サーバプログラムの新規導入時の環境設定

サーバプログラムを新規導入するときの環境設定ができます。Setup Wizard で設定した内容は、各サーバの環境設定ファイルに反映されます。また、環境設定ファイルへの反映と同時に、各サーバの起動もします。

(2) サーバプログラムの構成変更

Setup Wizard での環境設定が完了した後に、データベースの拡張やサーバの追加などが必要となった場合、構成変更ができます。ただし、構成変更をする前に、各サーバの環境設定ファイルのバックアップを採取する必要があります。

シングルサーバ構成のシステムの場合だけ構成変更ができます。

(3) Groupmax WWW の環境設定

Groupmax WWW サーバプログラムである Groupmax WWW の環境設定ができます。Setup Wizard で設定した内容は、Groupmax WWW の環境設定ファイルに反映されます。また、環境設定ファイルへの反映と同時に、Groupmax WWW の起動もします。

(4) マルチサーバの環境設定

マルチサーバ構成の子サーバの環境設定をするときに、子サーバから親サーバに対してサイト、サーバ及びユーザの情報を登録できます。

(5) 環境設定の初期化

Setup Wizard で設定した内容を初期化して、環境設定前の状態に戻すことができます。

1.2.2 Setup Wizard で設定できるサーバプログラム

Setup Wizard で環境設定のできるサーバプログラムを、次に示します。

- Groupmax Address Server
- Groupmax Agent Server
- Groupmax Document Manager
- Groupmax High-end Document Manager

- Groupmax Facilities Manager
- Groupmax Mail Server
- Groupmax Mail - SMTP
- Groupmax Object Server
- Groupmax High-end Object Server
- Groupmax Scheduler Server
- Groupmax Workflow Server
- Groupmax High-end Workflow Server
- Groupmax Workflow Multi-Server
- Groupmax WWW
- Groupmax WWW for Scheduler

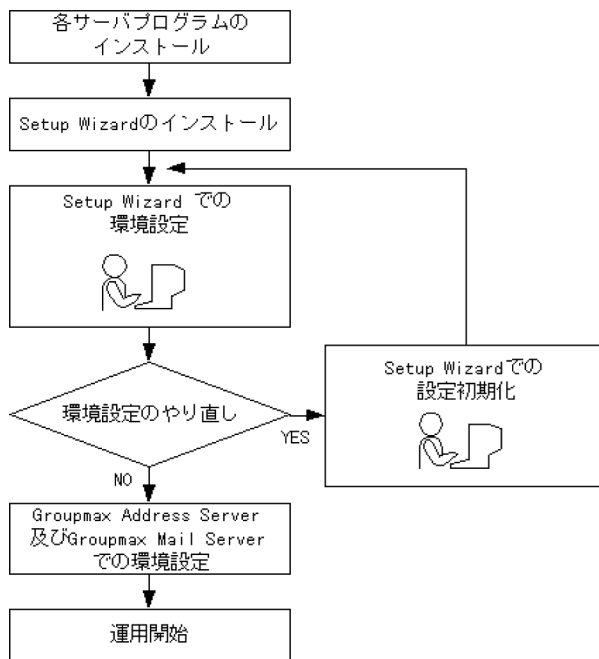
1.2.3 Setup Wizard の利用方法

Setup Wizard には、環境設定の目的によって複数の利用方法があります。利用方法及び利用時の注意事項について次に説明します。

(1) 新規導入の場合

新規導入時の環境設定に利用する場合の作業の流れを、図 1-2 に示します。

図 1-2 新規導入の環境設定の流れ



組織情報については、Setup Wizard での環境設定の後に Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server で設定します。

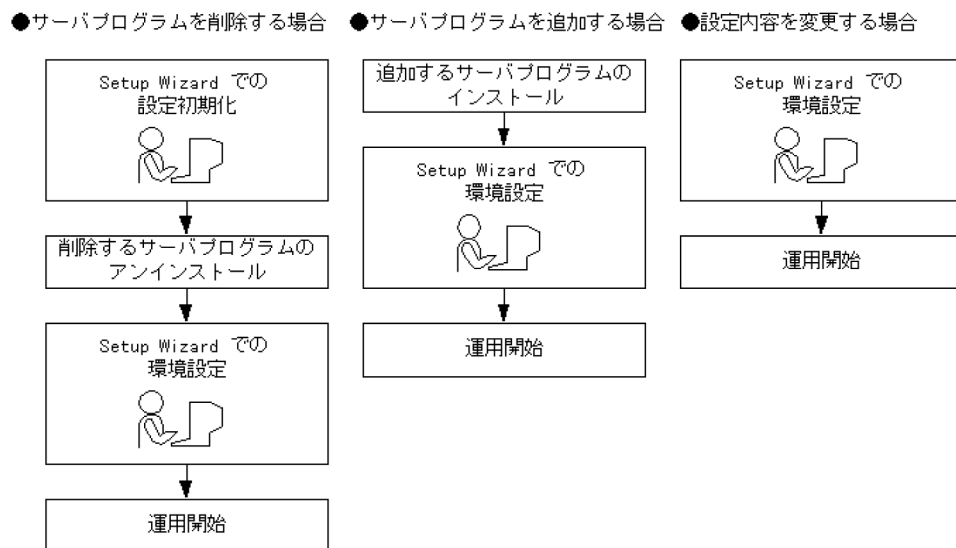
(2) 構成変更の場合

構成変更の場合は次に示す利用方法があります。

- サーバプログラムを削除する
- サーバプログラムを追加する
- 設定内容を変更する

構成変更を利用する場合の作業の流れを、図 1-3 に示します。

図 1-3 構成変更の環境設定の流れ



(3) Groupmax WWW の環境設定の場合

WWW サーバ全般の環境設定をしてから、Setup Wizard を利用して Groupmax WWW の環境設定をします。

Groupmax WWW の環境設定に利用する場合の作業の流れを、図 1-4 に示します。

図 1-4 Groupmax WWW の環境設定の流れ



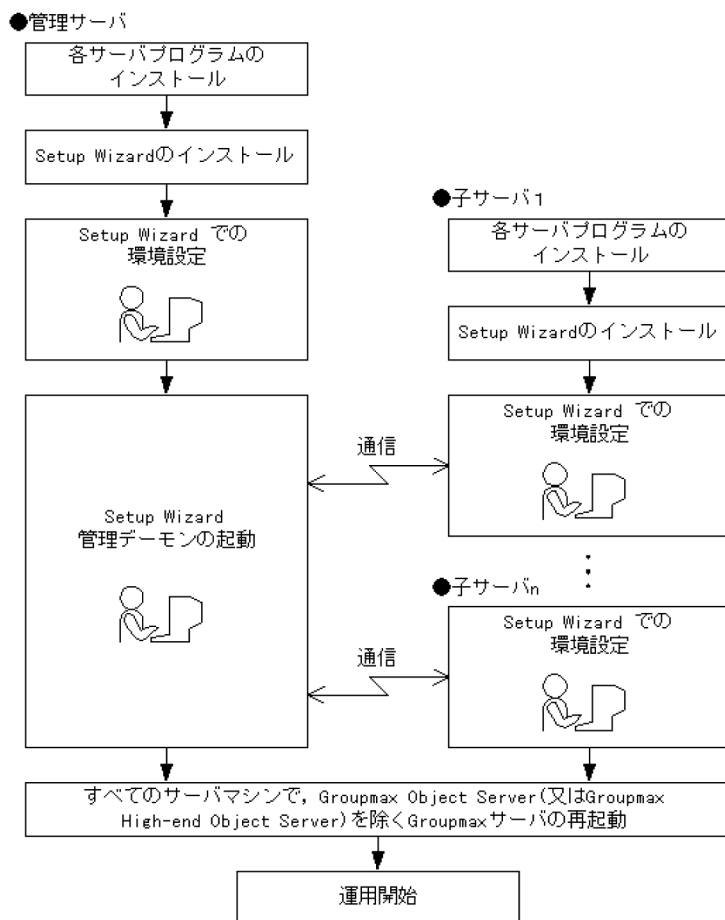
(4) マルチサーバの環境設定の場合

マルチサーバの場合、すべてのサーバに Setup Wizard をインストールして管理サーバ、子サーバの順で環境を設定します。

- 管理サーバの環境設定
新規導入の場合と同じ方法で環境を設定します。
- 子サーバの環境設定
管理サーバ上でマルチサーバ設定用の管理デーモンを起動してから、子サーバ上の Setup Wizard で環境を設定します。

マルチサーバの環境設定に利用する場合の作業の流れを、図 1-5 に示します。

図 1-5 マルチサーバの環境設定の流れ



(5) 利用時の注意

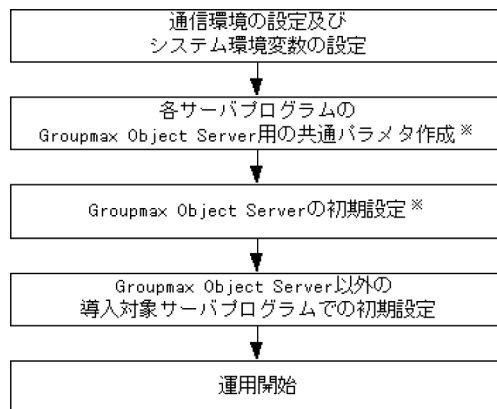
Setup Wizard の利用時の注意事項を次に示します。

- Setup Wizard を起動する前に、すべての AP を終了させてください。
- 環境設定中は、Groupmax サーバの起動及び停止をしないでください。
- Setup Wizard で設定する項目は、各サーバプログラムが動作するために最小限必要な項目です。組織情報などの個々の情報は、各サーバプログラムで設定してください。

1.3 その他の初期設定

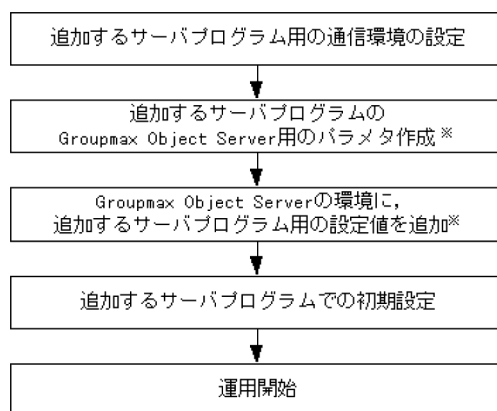
Setup Wizard を環境の初期設定に適用しない場合、各サーバプログラムで設定します。各サーバプログラムの環境設定プログラムを利用した初期設定の流れについて、新規導入の流れを図 1-6 に、サーバプログラムの追加の流れを図 1-7 に示します。

図 1-6 各サーバプログラムでの初期設定の流れ(新規導入)



注※ Groupmax Agent ServerやGroupmax Scheduler Serverなど、Groupmax Object Serverを前提としないサーバプログラムでは必要ありません。

図 1-7 各サーバプログラムでの初期設定の流れ(サーバプログラムの追加)



注※ Groupmax Agent ServerやGroupmax Scheduler Serverなど、Groupmax Object Serverを前提としないサーバプログラムでは必要ありません。

次に示す項目について標準的な設定をする場合は、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを利用して作業を簡略化できます。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

- 通信環境の設定
- サーバ毎の共通パラメタの作成
- 追加するサーバプログラム用のパラメタの作成

導入・追加するサーバで実行する主な設定操作を次に示します。

- Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server

Address_Mail セットアップによる初期設定

運転席によるサイト及びサーバの登録

- Groupmax Document Manager
文書管理管理ツールによる環境設定及び環境初期化
文書配布機能を利用する場合、運転席からの配布用管理ユーザの登録
- Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager
SchedulerServer コンフィグレーション又は FacilitiesManager コンフィグレーションによる初期設定
SchedulerServer コンフィグレーション又は FacilitiesManager コンフィグレーションの画面からの、ユーザ情報再作成の手動実行
- Groupmax Workflow Server
Workflow 管理ツールによる環境設定及び初期設定
サーバ間連携を使用する場合、連携用ユーザの登録
- Groupmax Agent Server
Agent Server 管理ツール(agmgr コマンド)によるメール環境の設定とシステム情報の初期化

利用環境に合わせた詳細な設定方法については、各サーバプログラムのマニュアルを参照してください。

2

Setup Wizard での環境設定の項目

この章では，Setup Wizard で環境設定のできる項目について説明します。

2.1 共通設定の項目

各サーバプログラムの共通設定の項目について説明します。

2.1.1 システム環境の設定

システム内の全ユーザ数

Groupmax システム全体のユーザ数です。

このサーバに登録するユーザ数

このサーバをホームサーバとするユーザ数です。

システム停止時のデバッグ情報の出力先

システムで指定した、システム停止時のデバッグ情報の出力先ディレクトリです。

性能優先モード(共有メモリ上限拡大)

共有メモリの上限を拡大して性能を優先するかどうかの指定です。

2.1.2 データベースの作成

データベース名称(スキーマ名称)

使用するデータベースのスキーマ名称です。

データベース作成ディレクトリ

データベースを作成するディレクトリの名称です。

プログラム毎の設定

プログラム毎に異なるデータベースを作成するかどうかの指定です。

構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ

サーバの構成変更時にデータベースを更新するための一時ファイルを格納するディレクトリの名称です。

2.1.3 通信環境の設定

ホスト名称

使用しているホストの名称です。DNS のホスト名が表示されます。

IP アドレス

ホスト名称に対応する IP アドレスです。

ポート番号

各サーバプログラムのサービス名称に対応したポート番号です。

2.1.4 簡易ジャーナルファイルの作成

簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ

Groupmax Object Server で使用する簡易ジャーナルファイルを作成するディレクトリのパス名です。

2.1.5 High-end Object Server の設定

(1) ステータスファイルの設定

論理ファイル名

ステータスファイルの論理ファイル名です。

A系ファイル名

論理ファイルを構成する A 系ステータスファイル名です。

B系ファイル名

論理ファイルを構成する B 系ステータスファイル名です。

(2) システムジャーナルファイルの設定

ファイルグループ名

システムジャーナルファイルのグループ名です。

物理ファイル名

ファイルグループを構成する物理ファイル名です。

作成サイズ

システムジャーナルファイルの作成サイズです。

オンライン開始と同時にオープンする

このファイルグループをオンライン開始と同時にオープンするかどうかの指定です。

アンロードされていないファイルを交代選択先の対象とする

交代先を選択するときに、アンロードされていないファイルであっても交代選択時の対象とするかどうかの指定です。

システム再開時にジャーナルをスワップする

システム再開時にジャーナルをスワップするかどうかの指定です。

チェックポイントを取得する間隔

チェックポイントを取得する間隔(ジャーナルブロック数)です。

2.2 電子アドレス帳／メール

電子アドレス帳／メールの設定項目について説明します。

2.2.1 電子アドレス帳／メールの基本項目

サイト名

ドメイン内のサーバを管理するためのサイト名です。

サーバ名

マスタ管理サーバ、アドレスサーバ及びメールサーバのサーバ名です。

プリンタ名

メール運転席の印刷機能を使用する場合の、出力先になるプリンタの名称です。

管理サーバ名

アドレスサーバとして設定する場合の、マスタ管理サーバのサーバ名称です。

回覧を使用する

メール送信時に回覧を使用するかどうかの指定です。

2.2.2 電子アドレス帳／メールの詳細項目

全組織数

1人以上のユーザから構成される集まりが組織であり、会社の構造に例えると部や課に相当します。この組織の総数です。

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均

見出し(項目)の数を指定します。

ユーザ任意情報を使用しない場合は1を指定します。

送信メール1通あたりの宛先数の平均

メールを送信する場合の宛先数の平均値です。

全マスタ掲示板数

マスタ掲示板の総数です。

アクセス権限を持つユーザが記事を掲示したり、閲覧した記事に対してコメントを付けたりできる機能が掲示板です。掲示板システムは、1つのマスタ掲示板から、複数のレプリカ掲示板に記事や定型文書を配布する機能を持ちます。

1つのメールボックスが保持する受信メールの平均

メールボックスは、組織又はユーザ単位に作成します。このメールボックス1つあたりに保持する受信メールの平均数です。

1人が1日に送信するメール数

1人のユーザが1日に送信するメールの平均数です。

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均

1台のサーバが1日に受信するメールの平均数です。

E-mail アドレスの平均長

E-mail アドレスの平均長です。

ディレクトリ名称

データベースを作成するディレクトリの名称です。

2.3 SMTP

SMTP の設定項目について説明します。

2.3.1 SMTP の基本項目

INTERNET ドメイン名

Groupmax Mail - SMTP の環境に割り当てられているドメインのサブドメイン名です。このドメインにはメールの送信はできません。

sendmail の実行ファイル名称

SMTP のメールの送受信機能である sendmail を実行するファイルの名称です。

2.3.2 SMTP の詳細項目

ログファイルの最大サイズ

ログを採取する場合の、ログファイルの最大サイズです。

ログファイルのバックアップ数

ログファイルのバックアップの作成数です。

2.4 文書管理

文書管理の設定項目について説明します。

2.4.1 文書管理の基本項目

文書実体ディレクトリ名称

文書実体ファイルを格納するディレクトリの名称です。

文書実体ファイルとは、一般文書として一般文書データベースで管理する、Word などの AP で作成したファイルです。

作業領域ディレクトリ名称

作業領域を格納するディレクトリの名称です。

作業領域とは、文書を編集するための領域です。

スプールディレクトリ名称

スプールを格納するディレクトリの名称です。

2.4.2 文書管理の詳細項目

(1) 文書管理

一般文書データベース数

システム文書データベースとユーザが作成する一般文書データベースの総数です。

一般文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。システム文書データベースの属性として定義されている文書の情報を定義します。また、ユーザが、文書群に共通な情報をユーザ定義情報として個別に定義できます。

1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数

一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ定義属性の平均数です。

一般文書データベースには、ユーザが決めた属性を定義できます。この属性を、ユーザ定義属性と呼びます。例えば、「会議録」データベースに「開催日」という属性を定義できます。

全一般文書数

一般文書データベースに格納する一般文書の総数です。

フォーム文書データベース数

作成するフォーム文書データベースの数です。

フォーム文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。定型文書の種類ごとにフォーム文書データベースを定義して使用します。定型文書固有の情報は、ユーザ定義情報として定義します。属性の登録には、Groupmax Form で作成したフォーム(電子帳票)を使用します。アプリケーションファイルは添付ファイルとして操作できます。

1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数

フォーム文書データベースに登録する可変長文字列型のユーザ定義属性の平均数です。フォーム文書の項目の定義にはリッチテキストも含まれます。

全フォーム文書数

フォーム文書データベースに格納するフォーム文書の総数です。

フォーム文書とは、Groupmax Form で作成した定型文書(フォーム)を基にして作成したファイルです。

フォルダ数

サーバ上に作成されるフォルダの総数です。

フォルダとは、一般文書を分類する体系の1つです。1つのサーバに1つのフォルダ体系が存在します。通常、Groupmax Integrated Desktop の共用キャビネット下に表示されます。フォルダは、物理的格納位置との対応付けができます。

分類、分類索引の総数

作成する分類と分類索引の総数です。

分類索引とは、一般文書を分類する分類体系の1つです。サーバに対して複数の分類索引を定義できます。分類とは、分類索引を構成する節のことです。

文書あたりに保持するバージョン数

更新前の文書と更新後の文書を管理するために付けるバージョン(版)の数です。

1 ユーザあたりの同時アクセス文書数

1人のユーザがログイン中に参照・編集などの操作をする文書数の上限です。

同時ログインユーザ数

同時にログインするユーザの最大数です。

複数グループアクセス機能を使用する

複数グループアクセス機能を使用するかどうかの指定です。

ディレクトリ名称

データベースファイルを作成するディレクトリの名称です。

(2) High-end Document Manager

文書管理データベースへの同時アクセス数

Groupmax High-end Document Manager から Groupmax Object Server への同時アクセス数です。

2.5 ワークフロー

ワークフローの設定項目について説明します。

2.5.1 ワークフローの基本項目

(1) ワークフロー

文書実体ディレクトリ名称

文書実体を格納するディレクトリの名称です。

ワークエリアディレクトリ名称

ワークエリアとして作成したディレクトリの名称です。

ログ情報エリアディレクトリ名称

ログ情報エリアとして作成したディレクトリの名称です。

(2) マルチサーバ関連

管理サーバ名称

Workflow サーバとして設定する場合の、Workflow 管理サーバのホスト名称です。

2.5.2 ワークフローの詳細項目

(1) ワークフロー

1日あたりのワーク数

1日に発生するワークの数です。

ワーク処理日数

ソースノードから投入した回覧データがシンクノードで終了するまでの平均処理日数です。

ワーク保存日数

終了したワークを保存する日数です。

保存日数を過ぎたワークは、ワーク削除ユティリティで削除できます。

1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数

1つのビジネスプロセス上の平均ノード数です。

ノードとは、ビジネスプロセス上でユーザ又はシステムが処理をする場所です。

ビジネスプロセス定義数

ビジネスプロセス定義の総数です。

ビジネスプロセスとは、基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れです。

ワーク内のケース数

ワークに投入される平均ケース数です。

ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物をケースと呼びます。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケース及びシステムが生成するルートケースがあります。

ケース内の文書数

ケースに格納する平均文書数です。

2 Setup Wizard での環境設定の項目

ケースに格納して送付する書類を文書と呼びます。文書は、各アプリケーションプログラムで固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。

ロール数

割り当てるロールの総数です。

ロールはワークを処理する上での役割です。複数のユーザをロールとしてグループ化し、ビジネスプロセス定義のノード上の作業員として割り当てられます。

最大ログインユーザ数

同時にログインするユーザ数の最大値です。

ユーザ内履歴数

ユーザのユーザ履歴取得最大数を指定します。

ユーザ履歴は、ユーザ単位に取得する案件の投入、遷移、相談、回答、差し戻し、引き戻しの作業履歴です。一つの操作ごとに一つのユーザ履歴が取得され、ユーザ履歴取得最大数の数だけ保持されます。

ワーク下のオブジェクト数(最大値)

ワーク下のオブジェクト数(最大値)を指定します。

ワーク下のオブジェクト数は、次の計算式で求めてください。ワーク内ケース定義数×(ケース内文書数+データメモ数)×複写ノードでの送付先総数

[注]複写ノードがない場合、複写ノードでの送付先総数は1としてください。複写ノードをループする場合も考慮して加算してください。

ディレクトリ名称

データベースファイルを作成するディレクトリの名称です。

(2) High-end Workflow Server

ワークフローデータベース同時アクセス数

Groupmax High-end Workflow Server からワークフローデータベースへの同時アクセス数です。

(3) マルチサーバ関連

マルチサーバの総サーバ数

Workflow 管理サーバ及び Workflow サーバの総数です。

2.6 スケジューラ／施設予約管理

スケジューラ／施設予約管理の設定項目について説明します。

親サーバ名称

子サーバとして設定する場合の、親サーバのホスト名です。

2.7 エージェント

エージェントの設定項目について説明します。

2.7.1 エージェントの基本項目

(1) E-Mail の設定

E-Mail を使用する

E-Mail を使用するかどうかの指定です。

E-Mail のサーバ名

E-Mail サーバのホスト名又は IP アドレスです。

送信者名称

E-Mail を送信するエージェントを動作させた場合の、メール送信元のユーザ名です。

(2) Groupmax Mail の設定

Groupmax Mail を使用する

Groupmax Mail を使用するかどうかの指定です。

Groupmax Mail のサーバ名

Groupmax Mail サーバのホスト名又は IP アドレスです。

ログインユーザ名称

エージェントサーバが Groupmax Mail にログインするためのユーザ ID です。

2.7.2 エージェントの詳細項目

(1) スケジューラ関連

エージェント生存期間の監視インターバル値

エージェント生存期間中の監視時間間隔です。

PP サーバ未起動時のリトライ間隔

PP サーバ未起動時の、エージェントサーバからのリトライ間隔です。

PP サーバとは、エージェントの機能を利用するサーバプログラムです。

クライアント未起動時の最大保留メッセージ数

クライアント未起動時にメッセージダイアログボックスを表示する処理があった場合、保留するメッセージの最大数です。

クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間

クライアント未起動時にメッセージダイアログボックスを表示する処理があった場合、保留するメッセージの生存期間です。

クラス別スレッド数

ジョブクラス別のスレッド数です。

エージェントサーバのスケジューラでは、登録されたエージェントをジョブクラスという単位で管理します。各ジョブクラスで同時に起動できるエージェントがどのくらい必要になるかによって、この値を決めます。

クラス別動作期限監視時間

ジョブクラス別の動作期限監視時間です。

動作期限とは、アクション実行にかかる時間の上限です。アクションが実行されたときに動作期限を過ぎた場合は、強制的にアクション実行を終了して、スレッドを解放します。

(2) 上限値関連

登録するエージェントの最大数

登録できるエージェントの最大数です。

接続する PP サーバの最大数

接続できる PP サーバの最大数です。

同時にログインできるユーザの最大数

同時にログインできるユーザの最大数です。

同時に接続できるユーザの最大数

同時に接続できるユーザの最大数です。

無通信監視時間

クライアントとエージェントサーバとの通信で、無通信状態になってから TCP コネクションを切断するまでの時間です。

(3) フォルダ関連

テンプレート格納ディレクトリ

クライアントがエージェント生成で使用するテンプレートを格納するディレクトリ(ユーザカスタマイズ用フォルダ)の名称です。

ファイル転送用ファイル格納ディレクトリ

クライアント・サーバ間でのファイル転送用ファイルを格納するディレクトリの名称です。

エージェント情報格納ディレクトリ

エージェントサーバに登録されている、クライアントが生成したエージェント情報の格納ディレクトリの名称です。

活動ログファイル格納ディレクトリ

活動ログを格納するディレクトリの名称です。

永続メモリファイル格納ディレクトリ

永続メモリを格納するディレクトリの名称です。

永続メモリとは、各エージェントの情報を格納しておくメモリのことです。

2.8 Groupmax WWW

Groupmax WWW の設定項目について説明します。

2.8.1 共通項目

最大ユーザ数

Groupmax WWW を同時に使用できるユーザの最大数です。

ログアウトし忘れ監視時間

Groupmax WWW にログインした後、アクセスがないユーザに対して自動ログアウトするまでの経過時間です。

ログインリトライ回数

ログイン時のリトライ回数の上限です。

パスワード有効期限の通知日数

パスワードの有効期限についての通知を、有効期限の何日前に行うかの指定です。

ニックネームログイン機能を使用する

ニックネームログイン機能を使用するかどうかの指定です。

ニックネームログイン機能を使用すると、ニックネームでログインできます。使用しない場合は、ユーザ ID でのログインとなります。

2.8.2 連携サーバのホスト名称/IP アドレス

Address/Mail Server

Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスです。

Scheduler Server/Facilities Manager

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスです。

ポート番号

Groupmax WWW と連携するサーバプログラムで使用するポート番号です。

2.8.3 ログ出力指定

アクセスログを出力する

アクセスログを出力するかどうかの指定です。

エラーログを出力する

エラーログを出力するかどうかの指定です。

2.8.4 環境情報の標準値

着信監視の指定

着信監視機能を利用するかどうかの指定です。

画面表示の指定

画面表示に関する標準値の設定を変更します。

3

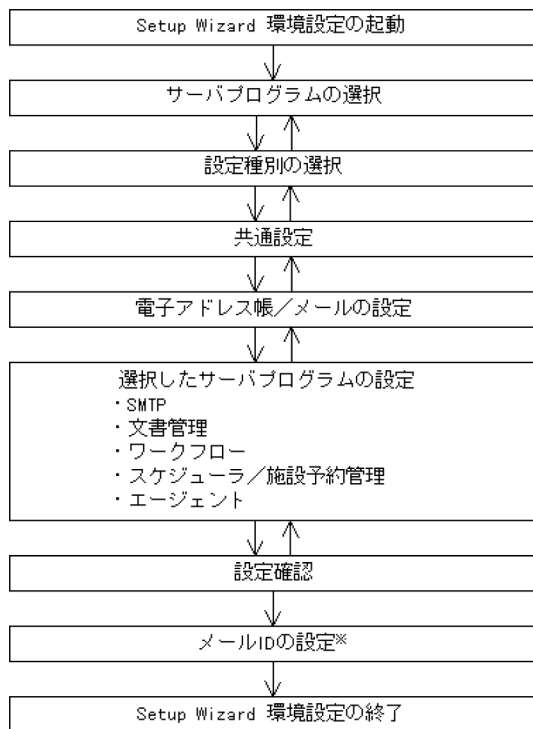
Setup Wizard での環境設定

この章では, Setup Wizard を使用して新規導入時の環境設定をするときの操作について説明します。

3.1 環境設定の操作の流れ

Setup Wizard を使用した新規導入時の環境設定操作の流れを、図 3-1 に示します。

図 3-1 Setup Wizard 環境設定の操作の流れ



注※ 子サーバの設定をする場合は省略されます。

3.2 Setup Wizard 環境設定の起動

[スタート] – [プログラム] – [Groupmax サーバ] – [Server Setup Wizard 環境設定] をクリックすると、Setup Wizard 環境設定プログラムが起動します。



また、Setup Wizard 環境設定の起動時に、次に示すポート番号が自動的に登録されます。

```
sswdaemon 20145/tcp # Groupmax Server Setup Wizard
```

3.3 サーバプログラムの選択

Setup Wizard 環境設定プログラムが起動すると、図 3-2 に示す [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページが表示されます。

図 3-2 [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページ



Setup Wizard の対象となるプログラムのうち、インストール済みのサーバプログラムの一覧が表示されます。「バージョン」と「状態」の内容を確認し、環境を設定するサーバプログラム名称のチェックボタンをオンにします。

[次へ] ボタンをクリックすると、[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページが表示されます。

3.4 設定種別の選択

Groupmax サーバの構成に合わせて設定種別を選択する操作について説明します。

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページを、図 3-3 に示します。

図 3-3 [セットアップサーバ種別の選択] プロパティページ



サーバプログラム名称には、[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで選択したサーバプログラムの一覧が表示されます。

設定種別には、各サーバプログラムの設定種別が表示されます。

- シングルサーバ
シングルサーバとして設定します。
- マスタ管理サーバ※1
Groupmax Address Server をマスタ管理サーバとして設定します。
- アドレスサーバ※2
Groupmax Address Server をアドレスサーバとして設定します。
- Workflow 管理サーバ
Groupmax Workflow Server を Workflow 管理サーバとして設定します。
- Workflow サーバ
Groupmax Workflow Server を Workflow サーバとして設定します。
- 親サーバ

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager を親サーバとして設定します。

- 子サーバ

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager を子サーバとして設定します。

- -----

このサーバプログラムには、設定種別はありません。

注※1 Groupmax Address Server をマスタ管理サーバとして設定する場合とシングルサーバとして設定する場合の違いを次に示します。

- システム内の全ユーザ数
マスタ管理サーバの場合：[共通設定] プロパティページで値を指定できます。
シングルサーバの場合：「このサーバに登録するユーザ数」と同じ値が設定されます。
- オブジェクトサーバのノード ID
マスタ管理サーバの場合：設定されます。
シングルサーバの場合：設定されません。

注※2 あらかじめ管理サーバ上で [Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン] アイコンを起動しておく必要があります。

設定種別を変更するには、変更するサーバプログラム名を選択して [設定種別の変更] ボタンをクリックするか、又は変更するサーバプログラム名をダブルクリックしてください。[セットアップ種別の変更] ダイアログボックスが表示されます。

Groupmax Address Server を選択した場合の [セットアップ種別の変更] ダイアログボックスを、図 3-4 に示します。

図 3-4 [セットアップ種別の変更] ダイアログボックス



セットアップの種別をラジオボタンで選択して [OK] ボタンをクリックすると、設定種別が変更されます。

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで [次へ] ボタンをクリックすると、[共通設定] プロパティページが表示されます。

3.5 共通設定（新規導入）

共通設定の操作について説明します。

3.5.1 [共通設定] プロパティページ

[共通設定] プロパティページを、図 3-5 に示します。

図 3-5 [共通設定] プロパティページ

The screenshot shows the 'Groupmax Server Setup Wizard - 共通設定' dialog box. It is organized into four main sections:

- システム環境の設定 (System Environment Settings):**
 - システム内の全ユーザ数(U): 1~100
 - このサーバに登録するユーザ数(U): 1~10
 - システム停止時のデバッグ情報の出力先(O): E:\NT40SV
 - 性能優先モード(共用メモリ上限拡大(M))
- データベースの作成 (Database Creation):**
 - データベース名称(スキーマ名称(S)): gmax
 - データベース作成ディレクトリ(D): E:\OBJECTSV\DATABASE
 - プログラム毎の設定(P)
 - 構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ(O): E:\Win32app\HITACHI\Groupmax\ObjectSV\spool\work
- 通信環境の設定 (Communication Environment Settings):**
 - ホスト名称(H): pc0g18
 - IPアドレス(I): 172.16.17.84
 - ポート番号(P):
- 簡易ジャーナルファイルの作成 (Simplified Journal File Creation):**
 - 簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ(D): E:\Win32app\HITACHI\Groupmax\Object

At the bottom, there are navigation buttons: '< 戻る(B)', '次へ(N) >', 'キャンセル', and 'ヘルプ'. A 'Highend Object Serverの設定(G)...' button is also present.

(1) システム環境の設定

システム内の全ユーザ数

Groupmax システム全体のユーザ数を指定します。

次に示す範囲のユーザ数をリストボックスで選択できます。

- 1~100
- 101~1,000
- 1,001~5,000
- 5,001~10,000
- 10,001~20,000
- 20,001~32,500

また、ユーザ数を 1~32,500 の範囲で直接入力することもできます。

デフォルトは、1~100 です。

Groupmax Address Server をシングルサーバとして設定する場合、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

このサーバに登録するユーザ数

このサーバをホームサーバとするユーザ数を指定します。
次に示す範囲のユーザ数をリストボックスで選択できます。

- 1～10
- 11～50
- 51～100
- 101～500
- 501～1,000
- 1,001～2,000
- 2,001～3,000
- 3,001～4,000
- 4,001～5,000

また、ユーザ数を 1～5,000 の範囲で直接入力することもできます。
デフォルトは、1～10 です。

システム停止時のデバッグ情報の出力先

システムで指定した、システム停止時のデバッグ情報の出力先ディレクトリを指定します。このディレクトリは、[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] で表示される [起動/シャットダウン] の画面で [デバッグ情報を次へ書き込む] の項目に指定したディレクトリです。

このディレクトリには、実装メモリ分の空き容量が必要です。

デフォルトは、Windows NT のインストール先ディレクトリです。

性能優先モード(共有メモリ上限拡大)

共有メモリの上限を拡大して性能を優先するかどうかを、チェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックボタンはオフ(優先しない)に設定されています。

(2) データベースの作成

データベース名称(スキーマ名称)

使用するデータベースのスキーマ名称を、63 バイト以内の文字列で指定します。英大文字、英小文字、数字、_(アンダーバー)、及び 2 バイトコードが使用できます。ただし、「IS_」、「WF_」、「」で始まる文字、「MASTER」を含む文字列、及び空白は指定できません。

デフォルトは、「gmax」です。

データベース作成ディレクトリ

データベースを作成するディレクトリのパス名を、175 バイト以内の文字列で指定します。ただし、ネットワークドライブは指定できません。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

このディレクトリは、性能及び運用の観点から、Windows NT 及びサーバプログラムのインストール先とは別の独立したボリュームに作成することをお勧めします。

デフォルトは、「E:¥OBJECTSV¥DATABASE」です。ただし、ドライブ E がない又は固定ディスクでない場合、デフォルトは「Groupmax Object Server のインストール先のドライブ¥OBJECTSV ¥DATABASE」となります。

プログラム毎の設定

プログラム毎に異なるデータベースを作成するかどうかを、チェックボタンで指定します。チェックボタンをオンにした場合、該当するサーバプログラムの [詳細] ダイアログボックスでディレクトリ名を指定します。

デフォルトでは、チェックボタンはオフ(作成しない)に設定されています。

構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ

構成変更の場合に、一時ファイルを格納するディレクトリを指定します。この項目は、新規導入時には非活性表示となります。指定内容については、「4.2 共通設定 (構成変更)」を参照してください。

(3) 通信環境の設定

ホスト名称

使用している DNS のホスト名が表示されます。変更はできません。

IP アドレス

ホスト名称に対応する IP アドレスが表示されます。IP アドレスが複数登録されている場合、ドロップダウンリストボックスに一覧が表示され、使用する IP アドレスの選択ができます。

(4) 簡易ジャーナルファイルの作成

簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ

Groupmax Object Server で使用する簡易ジャーナルファイルを作成するディレクトリのパス名を、145 バイト以内の文字列で指定します。

パス名にネットワークドライブは指定できません。また、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名」下にディレクトリを作成する場合は、パス名を指定しないでデフォルトを使用してください。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名*spool」です。

Groupmax High-end Object Server がインストールされている場合、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

[ポート番号] ボタンをクリックすると、[ポート番号設定] ダイアログボックスが表示されます。

Groupmax High-end Object Server の設定をする場合、[High-end Object Server] ボタンをクリックすると、[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、[電子アドレス帳/メール] プロパティページが表示されます。

3.5.2 [ポート番号設定] ダイアログボックス

[ポート番号設定] ダイアログボックスを、図 3-6 に示します。

図 3-6 [ポート番号設定] ダイアログボックス

Service Name	Port Number
p1am_top	7800
x400cfg_srv	7801
x400cfg_agt	7802
x400cfg_mng	7803
adrshd	20141
popcfg	106
pop3	110
imap	143
上記以外(先頭桁のみ)	9 000 ~ 9999
ikisaki	20013
appoman	20014
appoarea	20102
roomman	20103
agosoom	20027
agavroon	20028
aggml	20039
infoshare	40005
workflow	40076

各サーバプログラムのサービス名称に対応したポート番号を、5,001～49,999の範囲で指定します。

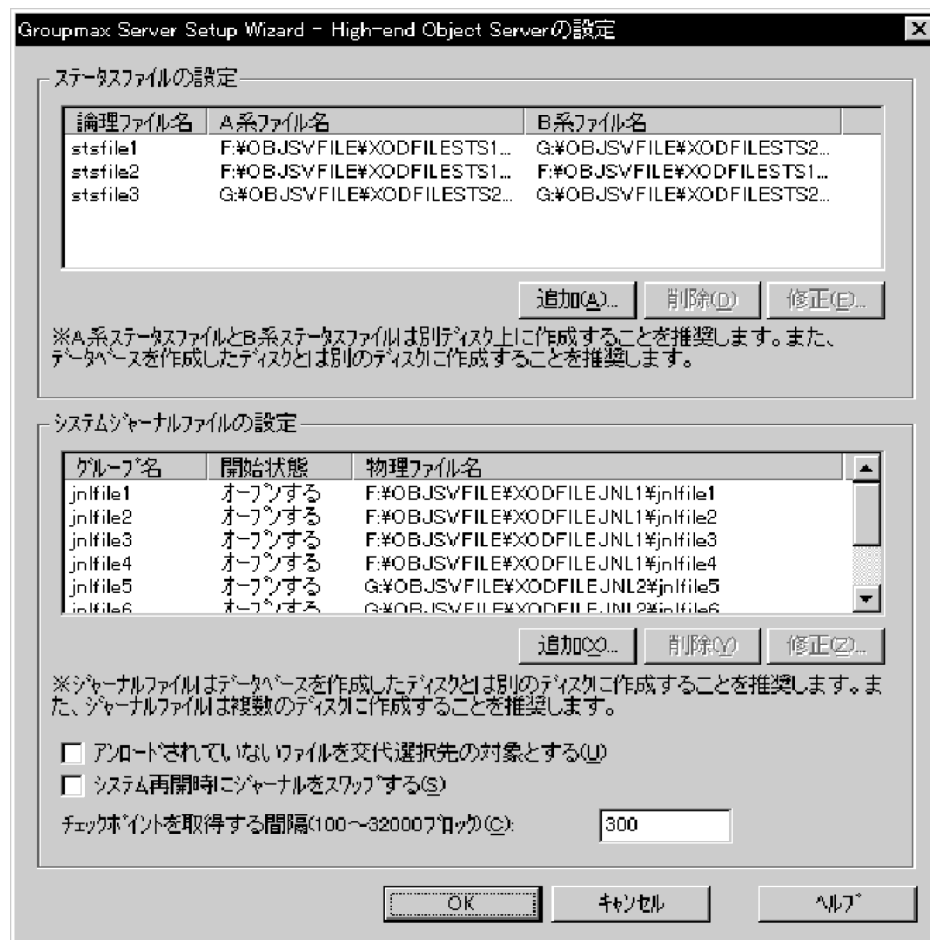
ただし、popcfg、pop3及びimapはwell-knownポートのため変更できません。変更の必要がある場合は、Windows NTのservicesファイル(Windows NTのインストール先のパス名¥system32¥drivers¥etc¥services)を直接編集してください。

デフォルトには、各サーバプログラムのポート番号の推奨値が設定されます。ポート番号をデフォルトに戻すには、[デフォルト] ボタンをクリックします。

3.5.3 [High-end Object Server の設定] ダイアログボックス

[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスを、図 3-7 に示します。

図 3-7 [High-end Object Server の設定] ダイアログボックス



(1) ステータスファイルの設定

(a) ステータスファイルの項目

論理ファイル名

ステータスファイルの論理ファイル名が表示されます。

A系ファイル名

論理ファイルを構成する A 系ステータスファイル名が表示されます。

B系ファイル名

論理ファイルを構成する B 系ステータスファイル名が表示されます。

デフォルトは、次に示すステータスファイルです。

- 論理ファイル名：stsfile1
A系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile1A
B系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile1B
- 論理ファイル名：stsfile2
A系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile2A
B系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile2B
- 論理ファイル名：stsfile3

A 系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile3A

B 系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile3B

ドライブ F 及び G がない又は固定ディスクでない場合は、Groupmax Object Server のインストール先のドライブが表示されます。

ステータスファイルを設定するには、[追加]、[削除] 又は [修正] ボタンをクリックします。

- 追加

[追加] ボタンをクリックすると、[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、ステータスファイルを追加できます。

- 削除

削除するステータスファイル名を選択して [削除] ボタンをクリックすると、ステータスファイルを削除できます。

- 修正

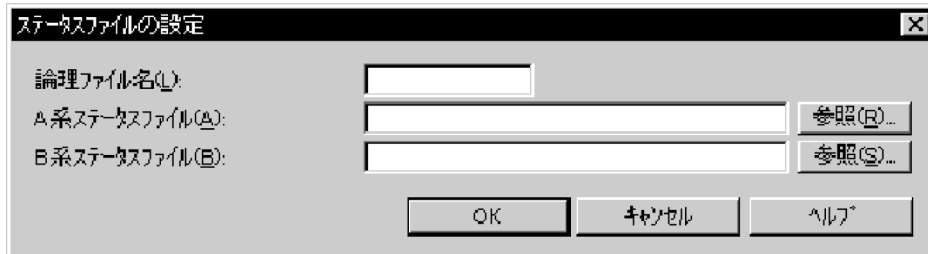
修正するステータスファイル名を選択して [修正] ボタンをクリックすると、[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、ステータスファイルの情報を修正できます。

修正するステータスファイル名をダブルクリックする方法でも [ステータスファイルの設定] ダイアログボックスを表示できます。

(b) [ステータスファイルの設定] ダイアログボックス

[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスを、図 3-8 に示します。

図 3-8 [ステータスファイルの設定] ダイアログボックス



論理ファイル名

ステータスファイルの論理ファイル名を、1～8文字で指定します。半角で、英大文字、英小文字、数字、及び_(アンダーバー)を指定できます。ただし、先頭文字には数字を指定できません。

A系ファイル名

A系ステータスファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。

このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。

レコード数は、固定で32となります。

B系ファイル名

B系ステータスファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。

このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。

レコード数は、固定で32となります。

! 注意事項

ハードディスク障害時にすべてのステータスファイルが障害とならないようにするため、A系ファイルとB系ファイルは別のディスク上に作成することをお勧めします。同様に、それぞれの論理ファイルも別のディスク上に作成することをお勧めします。すべてのステータスファイルに障害が発生すると、Groupmax High-end Object Server は異常終了し、自動再起動ができない状態になります。

(2) システムジャーナルファイルの設定**(a) システムジャーナルファイルの項目****グループ名**

システムジャーナルファイルのグループ名が表示されます。

開始状態

オンライン開始時のジャーナルファイルの状態が表示されます。

物理ファイル名

ファイルグループを構成する物理ファイル名が表示されます。

デフォルトは、次に示すファイルです。開始状態は、すべてオープンとなります。

- グループ名：jnlfile1
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile1
- グループ名：jnlfile2
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile2
- グループ名：jnlfile3
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile3
- グループ名：jnlfile4
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile4
- グループ名：jnlfile5
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile5
- グループ名：jnlfile6
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile6
- グループ名：jnlfile7
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile7
- グループ名：jnlfile8
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile8

ドライブ F 及び G が不在又は固定ディスクでない場合は、Groupmax Object Server のインストール先のドライブが表示されます。

システムジャーナルファイルを設定するには、[追加]、[削除] 又は [修正] ボタンをクリックします。

- 追加
[追加] ボタンをクリックすると、[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、システムジャーナルファイルを追加できます。
- 削除
削除するシステムジャーナルファイル名を選択して [削除] ボタンをクリックすると、システムジャーナルファイルを削除できます。

• 修正

修正するシステムジャーナルファイル名を選択して [修正] ボタンをクリックすると、[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、システムジャーナルファイルの情報を修正できます。

修正するシステムジャーナルファイル名をダブルクリックする方法でも [システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスを表示できます。

アンロードされていないファイルを交代選択先の対象とする

交代先を選択するとき、アンロードされていないファイルであっても交代選択時の対象とするかどうかを、チェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックボタンはオフ(対象としない)に設定されています。

システム再開時にジャーナルをスワップする

システム再開時にジャーナルをスワップするかどうかを、チェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックボタンはオフ(スワップしない)に設定されています。

チェックポイントを取得する間隔

チェックポイントを取得する間隔(ジャーナルブロック数)を、100~32,000 の範囲で指定します。

データベースファイルには、チェックポイントごとに、それまでのデータベースのすべての更新内容が反映されます。Groupmax High-end Object Server の再開時には、チェックポイント以降のジャーナルを基にデータベースが回復されます。

データベースの回復時間はジャーナル件数に比例するため、再開時間に合ったチェックポイント間隔を指定してください。

また、この値を大きくすることで、データベースファイルの更新回数を削減するなどのチューニングができます。チューニングについては、連携する Groupmax サーバプログラムの指示に従ってください。

デフォルトは、次に示す値です。

- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用しない場合：100
- Groupmax Mail Server を使用し、Groupmax Workflow Server を使用しない場合：200
- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用する場合：300

(b) [システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックス

[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスを、図 3-9 に示します。

図 3-9 [システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックス



ファイルグループ名

ジャーナルファイルのファイルグループ名を、1~8文字で指定します。半角で、英大文字、英小文字、数字、及び_(アンダーバー)を指定できます。ただし、先頭文字には数字を指定できません。

物理ファイル名

物理ファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。

このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。

性能及び運用の観点から、データベースが格納されているドライブとは別のディスク上に物理ファイルを作成することをお勧めします。

また、ハードディスクの障害時にすべての物理ファイルが障害とならないようにするため、複数のディスクに物理ファイルを作成することをお勧めします。

作成サイズ

ジャーナルファイルの作成サイズ(KB)を、80~1,048,576 の範囲で指定します。ただし、実際に作成されるサイズは、4KB 単位で切り上げとなります。

デフォルトは、100,000(約 100MB)です。

オンライン開始と同時にオープンする

このファイルグループをオンライン開始と同時にオープンするかどうかを、チェックボタンで指定します。

2つ以上のジャーナルファイルグループに、同時にオープンする物理ファイルが必要です。

デフォルトでは、チェックボタンはオン(オープンする)に設定されています。

(c) ジャーナルファイルの容量見積り

ジャーナルファイルの容量は、次に示す方法で見積もることをお勧めします。なお、次に示す方法は、毎日夜間にジャーナルをアンロードするという運用を前提にしています。

1. 1日のジャーナル出力量を、各サーバプログラムの計算式によって見積もります。

2. 1つのジャーナルファイルの容量を求めます。

このとき、ジャーナルのスワップ回数を1日数回として見積もります。

また、ジャーナルファイルの障害に備えて、アンロードしなくても1日ですべてのジャーナルファイルを使い切らないように(例えば、ジャーナルファイルが8ファイルあれば3~4ファイルは残るように)1つのジャーナルファイルの容量を求めます。

3. 運用後、ジャーナルファイルの使用状況を監視し、ジャーナル容量の見積もり値を検証します。

1日のジャーナル出力量を各サーバプログラムの計算式で見積もることが難しい場合は、次に示す手順で見積もってください。

1. 仮のジャーナルサイズでジャーナルファイルを複数作成します(例:デフォルトのサイズ及びファイル数で作成)。

2. Groupmax High-end Object Server のシステムサービス定義の、ジャーナルアンロードチェックの指定(jnl_unload_check)を、一時的にN指定(ジャーナルアンロードチェックをしない)に変更します。

Nを指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても、自動的にジャーナルファイルが再利用されます。しかし、ジャーナルを使用したデータベースの回復ができなくなるため、データベースのバックアップを毎日取得するなどの対策が必要です。

3. ジャーナルファイルのスワップ回数など、ジャーナルの使用状況を監視して、1日で必要なジャーナル容量を求めます。

4. 手順3で求められた値で、ジャーナルファイルを再作成します。

3 Setup Wizard での環境設定

5. Groupmax High-end Object Server のシステムサービス定義のジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl_unload_check) を元に戻します。

3.6 電子アドレス帳／メールの設定（新規導入）

電子アドレス帳／メールの設定の操作について説明します。

3.6.1 [電子アドレス帳／メール] プロパティページ

[電子アドレス帳／メール] プロパティページを、図 3-10 に示します。

図 3-10 [電子アドレス帳／メール] プロパティページ

サイト名

ドメイン内のサーバを管理するためのサイト名を指定します。

- 全角文字の場合は 16 文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。
- 半角文字の場合は 32 文字まで指定できます。ただし、空白、[¥]、及び["] は指定できません。

アドレスサーバとして設定する場合は、管理サーバ名を指定してから [サイト参照] ボタンをクリックすると、指定した管理サーバに登録されているサイトの一覧が表示され、サイト名を選択できます。

デフォルトは、「SITE0」です。

サーバ名

自サーバ名を指定します。

- 全角の場合は 16 文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。
- 半角の場合は 32 文字まで指定できます。ただし、空白、[¥]、及び["] は指定できません。

シングルサーバ又は管理サーバとして設定する場合、マスタ管理サーバとメールサーバに同じサーバ名が設定されます。

子サーバとして設定する場合、アドレスサーバとメールサーバに同じサーバ名が設定されます。デフォルトは、DNS のホスト名です。

プリンタ名

メール運転席の印刷機能を使用する場合の、出力先になるプリンタ名を指定します。

- 全角の場合は 64 文字まで指定できます。
- 半角の場合は 128 文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。

プリンタが接続されていない場合、デフォルトは、「lp0」です。

[プリンタ参照] ボタンをクリックすると、図 3-11 に示す [プリンタの選択] ダイアログボックスが表示され、ドメイン内のネットワークプリンタを選択できます。

図 3-11 [プリンタの選択] ダイアログボックス



使用するプリンタを選択して反転表示させます。デフォルトでは、通常使うプリンタとして設定されているプリンタが選択されています。[OK] ボタンをクリックすると、プリンタが設定されます。

管理サーバ名

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Address Server の設定種別をアドレスサーバにした場合に、マスタ管理サーバのサーバ名称を指定します。

設定種別をシングルサーバ又はマスタ管理サーバにした場合には、この項目は非活性表示になります。

回覧を使用する

メール送信時に回覧を使用するかどうかをチェックボタンで指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトでは、チェックボタンはオン(使用する)に設定されています。

[詳細] ボタンをクリックすると、[電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.6.2 [電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックス

[電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックスを、図 3-12 に示します。

図 3-12 「電子アドレス帳／メール詳細」ダイアログボックス

Groupmax Server Setup Wizard - 電子アドレス帳/メール詳細

電子アドレス帳/メール

全組織数(G):	(1~9999)	7
1ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均(N):	(1~8)	1
送信メール1通あたりの宛先数の平均(S):	(1~999)	2
全マスタ掲示板数(M):	(1~9999)	6
1つのメールボックスが保持する受信メールの平均(U):	(1~999)	60
1人が1日に送信するメール数(O):	(1~999)	5
サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均(B):	(1~999999)	107
E-mailアドレスの平均長(E):	(1~256)	50
ディレクトリ名称(P):	E:\OBJECTS\W\DATABASE	参照(R)...

デフォルト(D) Ok キャンセル ヘルプ°

全組織数

組織の総数を、1~9,999の範囲で指定します。

デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均

見出し(項目)の数を、1~8の範囲で指定します。

ユーザ任意情報を使用しない場合は1を指定します。

デフォルトは、1です。

送信メール1通あたりの宛先数の平均

メールを送信する場合の宛先数の平均値を、1~999の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。個人メールが多い場合は1又は2を指定します。業務上、宛先数が多い場合などには、その宛先数を指定します。

デフォルトは、2です。

全マスタ掲示板数

マスタ掲示板の総数を、1~9,999の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

1つのメールボックスが保持する受信メールの平均

メールボックス1つあたりに保持する受信メールの平均数を、1~999の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

1人が1日に送信するメール数

1人のユーザが1日に送信するメールの平均数を、1～999の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトは、5です。

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均

1台のサーバが1日に受信するメールの平均数を、1～999,999の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

E-mail アドレスの平均長

E-mail アドレスの平均長を、1～256の範囲で指定します。この項目は [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合に指定できます。

デフォルトは、50です。

ディレクトリ名称

データベースを作成するディレクトリのパス名を、175バイト以内の文字列で指定します。この項目は [共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] のチェックボタンをオンにした場合に指定できます。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、[共通設定] プロパティページで設定した、データベース作成ディレクトリです。

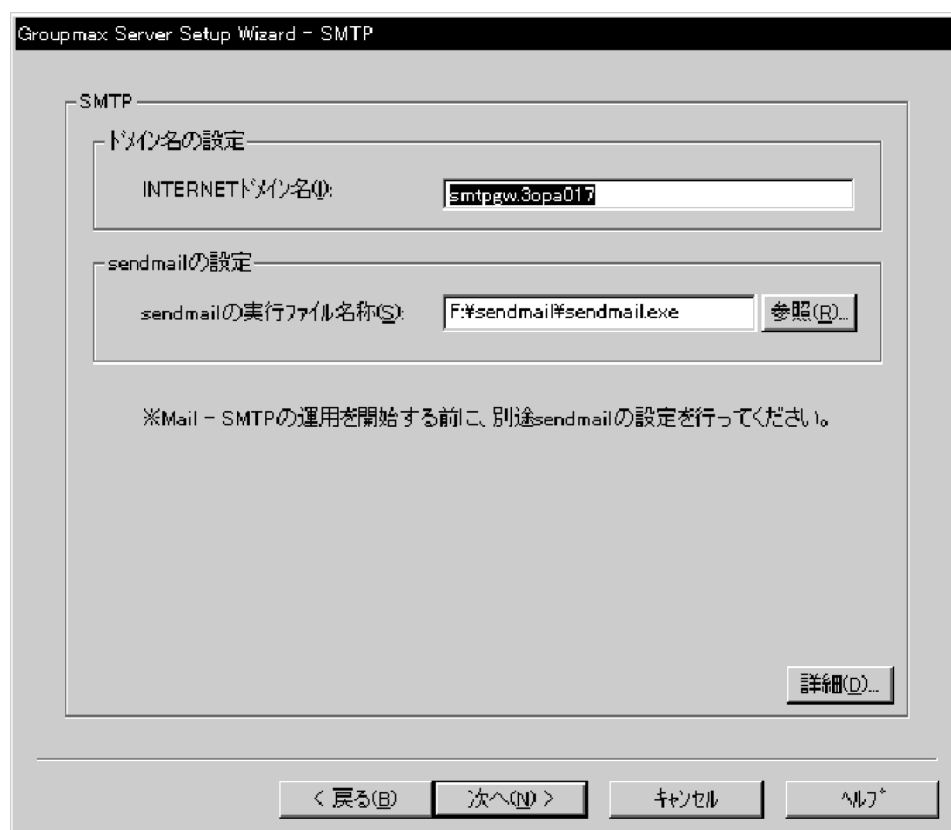
3.7 SMTP の設定 (新規導入)

SMTP の設定操作及び自動的に設定される SMTP の項目値について説明します。

3.7.1 [SMTP] プロパティページ

[SMTP] プロパティページを、図 3-13 に示します。

図 3-13 [SMTP] プロパティページ



INTERNET ドメイン名

Groupmax Mail - SMTP の環境に割り当てられているドメインのサブドメイン名を、256 文字以内で指定します。指定できる文字を次に示します。

- 使用できる文字は半角英数字だけです。
- 区切り文字には「.」を使用できます。

デフォルトは、「smtpgw.DNS のホスト名」です。

sendmail の実行ファイル名称

SMTP のメールの送受信で sendmail を実行するファイルの名称を、フルパス名で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ファイル名を選択できます。

デフォルトは、sendmail.exe までのフルパス名又は「システムディレクトリのニモニック¥sendmail ¥sendmail.exe」です。

[詳細] ボタンをクリックすると、[SMTP 詳細] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.7.2 [SMTP 詳細] ダイアログボックス

[SMTP 詳細] ダイアログボックスを、図 3-14 に示します。

図 3-14 [SMTP 詳細] ダイアログボックス



ログファイルの最大サイズ

ログファイルの最大サイズ(KB)を 1,000~10,000 の範囲で指定します。
デフォルトは、1,000 です。

ログファイルのバックアップ数

ログファイルのバックアップの作成数を、5~100 の範囲で指定します。
デフォルトは、5 です。

3.7.3 SMTP の固定値

Setup Wizard で自動的に設定される SMTP の項目と値を、表 3-1 に示します。

表 3-1 Setup Wizard で設定される SMTP の項目と値

項目	値
ゲートウェイの監視時間 (gw_poll_time)	10
送出文字コード (主題, 本文) (send_code)	MIME
送出文字コード (ファイル名) (send_fname)	AUTO
受信文字コード (主題, 本文, ファイル名) (recv_code)	SJIS
Internet 送出モード (sendflag)	normal

項目	値
ロングファイル名の設定 (long_fname)	SEND_ALLOW
リッチテキストファイル送信制御の設定 (send_rtf_body)	RTF_DENY
アドレスマッピングルールの優先順位に関する設定 (mapping_mode)	all
半角仮名文字送出制御 (kana_mode)	convert
MIME 主題分割送出制御 (mime_subject)	no_split
Message-ID フォーマットの設定 (msgid_mode)	rfc1327
エラーログレベルの設定 (error_level)	none
BCC 受信者の設定 (bcc_recipients)	OFF
ユーザ情報の更新方法に関する設定 (modifying_dbfile)	auto
送受信者制限に関する設定 (permission_mode)	all
X.400 ドメイン名の設定 (X400DOMAIN)	X400DOMAIN=/C=JP/ADMD=smtpgw/ PRMD=smtpgw

Groupmax Mail - SMTP での設定方法については、マニュアル「Groupmax Mail - SMTP Version 7 運用ガイド」を参照してください。

3.8 文書管理の設定（新規導入）

文書管理の設定操作について説明します。

3.8.1 [文書管理] プロパティページ

[文書管理] プロパティページを、図 3-15 に示します。

図 3-15 [文書管理] プロパティページ



文書実体ディレクトリ名称

文書実体ファイルの格納ディレクトリのパス名を、58 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Document Manager のインストール先のパス名です。

作業領域ディレクトリ名称

作業領域の格納ディレクトリのパス名を、56 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Document Manager のインストール先のパス名です。

スプールディレクトリ名称

スプールの格納ディレクトリのパス名を、55 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Document Manager のインストール先のパス名です。

注※ 次に示す規則に従って指定してください。

- ディレクトリ名には、次に示す文字を使用できません。
「|」, 「?」, 「"」, 「/」, 「(」, 「)」, 「<」, 「>」, 「*」, 「:」, 「;」, 「\$」, 及び半角の空白
- ディレクトリ名の最後に「.」は指定できません。
- ディレクトリ名とディレクトリ名の区切りには「¥」を使用してください。
- ディレクトリ名とドライブ名の区切りには「:」を使用してください。
- ドライブ名は必ず指定してください。

[詳細] ボタンをクリックすると、[文書管理詳細] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.8.2 [文書管理詳細] ダイアログボックス

[文書管理詳細] ダイアログボックスを、図 3-16 に示します。

図 3-16 [文書管理詳細] ダイアログボックス

Groupmax Server Setup Wizard - 文書管理詳細

文書管理

一般文書データベース数(A):	(1~5000)	50
1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数(Q):	(0~100)	0
全一般文書数(T):	(0~1000000)	0
フォーム文書データベース数(E):	(0~5000)	0
1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数(Q):	(0~100)	0
全フォーム文書数(N):	(0~1000000)	0
フォルダ数(Y):	(2~1000000)	15
分類、分類索引の総数(Y):	(0~1000000)	12
文書あたりご保持するページ数(M):	(0~99)	2
1ユーザあたりの同時アクセス文書数(L):	(1~999)	2
同時ログインユーザ数(S):	(1~256)	64
<input type="checkbox"/> 複数グループアクセス機能を使用する(G)		
ディレクトリ名称(O):	E:\OBJECTSV*DATABASE	参照(L)...

High-end Document Manager

文書管理データベースへの同時アクセス数(B):	(1~32)	
-------------------------	--------	--

デフォルト(D) OK キャンセル ヘルプ

(1) 文書管理

一般文書データベース数

システム文書データベースとユーザが作成する一般文書データベースの総数を、1~5,000の範囲で指定します。

デフォルトは、50です。

1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数

一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ属性の平均数を、0～100の範囲で指定します。
デフォルトは、0です。

全一般文書数

すべての一般文書データベースに格納する一般文書の総数を、0～1,000,000の範囲で指定します。
デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

フォーム文書データベース数

フォーム文書データベースの数を、0～5,000の範囲で指定します。
デフォルトは、0です。

1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数

フォーム文書データベースに登録する文字列型のユーザ属性の平均数を、0～100の範囲で指定します。
デフォルトは、0です。

全フォーム文書数

フォーム文書の総数を、0～1,000,000の範囲で指定します。
デフォルトは、0です。

フォルダ数

一般文書を分類・格納するフォルダの数を2～1,000,000の範囲で指定します。
デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

分類、分類索引の総数

作成する分類と分類索引の総数を、0～1,000,000の範囲で指定します。
デフォルトは、全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値に設定されます。

文書あたりに保持するバージョン数

文書が保持するバージョン(版)の数を、0～99の範囲で指定します。
デフォルトは、2です。

1ユーザあたりの同時アクセス文書数

1人のユーザがログイン中に参照・編集などの操作をする文書数の上限を、1～999の範囲で指定します。
デフォルトは、2です。

同時ログインユーザ数

同時にログインするユーザの最大数を指定します。

- Groupmax Document Manager の場合は、1～256の範囲で指定します。
- Groupmax High-end Document Manager の場合は、1～1,000の範囲で指定します。

デフォルトは、[共通設定] プロパティページで指定した「このサーバに登録するユーザ数」の値です。

複数グループアクセス機能を使用する

複数グループアクセス機能を使用するかどうかを、チェックボタンで指定します。
デフォルトでは、チェックボタンはオフ(使用しない)に設定されています。

ディレクトリ名称

データベースファイルを作成するディレクトリのパス名を、175バイト以内の文字列で指定します。この項目は [共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] のチェックボタンをオンにした場合に指定できます。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
デフォルトは、[共通設定] プロパティページで設定した、データベース作成ディレクトリです。

(2) High-end Document Manager

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax High-end Document Manager を選択した場合に設定できます。

文書管理データベースへの同時アクセス数

Groupmax High-end Document Manager から Groupmax Object Server への同時アクセス数を、1～32 の範囲で指定します。

デフォルトは、4 です。

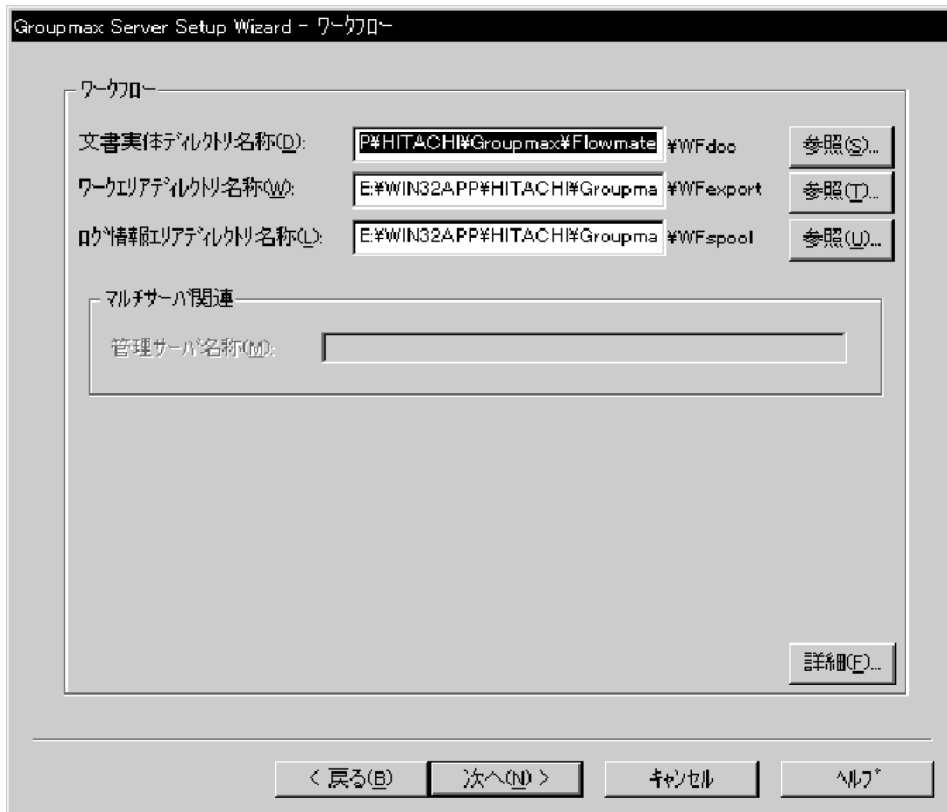
3.9 ワークフローの設定（新規導入）

ワークフローの設定操作について説明します。

3.9.1 [ワークフロー] プロパティページ

[ワークフロー] プロパティページを、図 3-17 に示します。

図 3-17 [ワークフロー] プロパティページ



(1) ワークフロー

文書実体ディレクトリ名称

文書実体を格納するディレクトリのパス名を、122 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名です。

ワークエリアディレクトリ名称

ワークエリアとして作成したディレクトリのパス名を、119 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名です。

ログ情報エリアディレクトリ名称

ログ情報エリアとして作成したディレクトリのパス名を、120 バイト以内の文字列*で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名です。

注※ 次に示す規則に従って指定してください。

- ディレクトリ名には、次に示す文字を使用できません。
「?」, 「"」, 「/」, 「<」, 「>」, 「*」, 「|」, 「:」, 「¥」, 及び半角の空白
- ディレクトリ名の最後に「.」は指定できません。
- ディレクトリ名とディレクトリ名の区切りには「¥」を使用してください。
- ディレクトリ名とドライブ名の区切りには「:」を使用してください。
- ドライブ名は必ず指定してください。
- 次に示すディレクトリは指定できません。
%Wfdir%\\$Vbin, %Wfdir%\\$Vlib, %Wfdir%\\$Vetc, %Wfdir%\\$tools, %Wfdir%\\$Vadm,
%Wfdir%\\$Vsample
%Wfdir% : Groupmax Workflow Server のインストール先ディレクトリ

(2) マルチサーバ関連

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Workflow Multi-Server を選択した場合に設定できます。

管理サーバ名称

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Workflow Server の設定種別を Workflow サーバにした場合に、Workflow 管理サーバのホスト名称を指定します。hosts ファイル又は DNS データベースでアドレスの管理ができるホストの名称を指定する必要があります。

設定種別がシングルサーバ又は Workflow 管理サーバの場合は DNS のホスト名が設定され、変更はできません。

[詳細] ボタンをクリックすると、[ワークフロー詳細] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.9.2 [ワークフロー詳細] ダイアログボックス

[ワークフロー詳細] ダイアログボックスを、図 3-18 に示します。

図 3-18 「ワークフロー詳細」 ダイアログボックス

Groupmax Server Setup Wizard - ワークフロー詳細

ワークフロー

1日あたりのワーク数(A): (1~9999) 500

ワーク処理日数(Q): (1~999) 10

ワーク保存日数(Q): (1~999) 7

1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数(B): (1~999) 10

ビジネスプロセス定義数(Q): (1~9999) 50

ワーク内のケース数(E): (1~999) 1

ケース内の文書数(Q): (1~999) 1

ロール数(T): (1~9999) 100

最大ログインユーザ数(Q): (1~1000) 10

ユーザ内履歴数(H): (50~1023) 50

ワーク下のオブジェクト数(最大値)(M): (1~32767) 1

ディレクトリ名称(F): D:\WIN32APP\HITACHI\Groupmax\GMSS 参照(O)...

High-end Workflow Server

ワークフローデータベース同時アクセス数(L): (1~32) 2

マルチサーバ関連

マルチサーバの総サーバ数(S): (0~400) 0

デフォルト(D) OK キャンセル ヘルプ?

(1) ワークフロー

1日あたりのワーク数

1日に発生するワークの数を、1~9,999の範囲で指定します。

デフォルトは、500です。

ワーク処理日数

ソースノードから投入した回覧データがシンクノードで終了するまでの平均処理日数を、1~999の範囲で指定します。

デフォルトは、10です。

ワーク保存日数

終了したワークを保存する日数を、1~999の範囲で指定します。

デフォルトは、7です。

1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数

1つのビジネスプロセス上の平均ノード数を、1~999の範囲で指定します。

デフォルトは、10です。

ビジネスプロセス定義数

ビジネスプロセス定義の総数を、1~9,999 の範囲で指定します。

デフォルトは、50 です。

ワーク内のケース数

ワークに投入される平均ケース数を、1~999 の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

ケース内の文書数

ケースに格納する平均文書数を、1~999 の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

ロール数

割り当てるロールの総数を、1~9,999 の範囲で指定します。

デフォルトは、100 です。

最大ログインユーザ数

同時にログインするユーザの最大値（一般用最大ログインユーザ数と管理者用最大ログインユーザ数の合計）を指定します。

- Groupmax Workflow Server の場合は、1~1,000 の範囲で指定します。
- Groupmax High-end Workflow Server の場合は、1~4,096 の範囲で指定します。

なお、一般用ログインとは、以下に示すプログラムからのログインのことです。

1. Groupmax Integrated Desktop
2. Groupmax Form Client
3. Groupmax Workflow for Active Server Pages で作成したアプリケーション
4. バージョン 02-20 以降の Groupmax World Wide Web Desktop/ワークフロー
5. Groupmax Workflow Client - Library 又は Groupmax Workflow Server-Library で作成したアプリケーション

また、管理者用ログインとは、以下に示すプログラムからのログインのことです。

1. Groupmax Workflow Definer（ワークフロー定義、ワークフローロール定義、ワークフローユーザ定義、配布管理）
2. Groupmax Workflow Monitor
3. Groupmax Workflow Client - Library Extension 及び Groupmax Workflow Server - Library Extension で作成したアプリケーション
4. Groupmax Workflow - Specialist Tools for WWW 及び Groupmax Workflow-End-user Tool for WWW
5. バージョン 02-10 より前の CSS クライアント (Flowmate/Definer, Monitor, Groupshop, 及び Flowmate/Client-Library, Flowmate/Server-Library, Flowmate/Development Kit で作成したアプリケーション等)
6. バージョン 02-20 より前の Groupmax World Wide Web Version 2.0/ワークフロー

デフォルトは、[共通設定] プロパティページで指定した「このサーバに登録するユーザ数」の値です。

ユーザ内履歴数

ユーザのユーザ履歴取得最大数を、50~1,023 の範囲で指定します。

デフォルトは、50 です。

ワーク下のオブジェクト数(最大値)

ワーク下のオブジェクト数(最大値)を、1~32,767 の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

ディレクトリ名称

データベースファイルを作成するディレクトリのパス名を、175 バイト以内の文字列で指定します。この項目は [共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] のチェックボタンをオンにした場合に指定できます。[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、[共通設定] プロパティページで指定した、データベース作成ディレクトリです。

(2) High-end Workflow Server

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax High-end Workflow Server を選択した場合に設定できます。

ワークフローデータベース同時アクセス数

Groupmax High-end Workflow Server からワークフローデータベースへの同時アクセス数を、1 ~ 32 の範囲で指定します。(セッション確立要求データベース同時アクセス数)+(案件一覧表示要求データベース同時アクセス数)+ 2 以上の値を指定してください。この値に満たない場合は、セッション確立要求データベース同時アクセス数及び案件一覧表示要求データベース同時アクセス数での指定は無視されます。また、クライアント数より少ない値を指定すると、クライアントへのレスポンス状態が悪くなる場合があるので注意してください。

デフォルトは、2 です。

(3) マルチサーバ関連

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Workflow Multi-Server を選択した場合に設定できます。

マルチサーバの総サーバ数

Workflow 管理サーバ及び Workflow サーバの総数を 0~400 の範囲で指定します。

デフォルトは、0 です。

3.10 スケジューラ／施設予約管理の設定

スケジューラ／施設予約管理の設定操作について説明します。

[スケジューラ／施設予約管理] プロパティページを、図 3-19 に示します。

図 3-19 [スケジューラ／施設予約管理] プロパティページ



親サーバ名称

【セットアップサーバ種別の選択】 プロパティページで、Groupmax Scheduler Server/Facilities Manager の設定種別を子サーバにした場合に、親サーバのホスト名を指定します。hosts ファイル又は DNS データベースでアドレスの管理ができるホストの名称を指定する必要があります。

Groupmax Scheduler Server/Facilities Manager の設定種別をシングルサーバ又は親サーバにした場合は、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.11 エージェントの設定 (新規導入)

エージェントの設定操作について説明します。

3.11.1 [エージェント] プロパティページ

[エージェント] プロパティページを、図 3-20 に示します。

図 3-20 [エージェント] プロパティページ



(1) E-Mail の設定

E-Mail を使用する

E-Mail を使用するかどうかをチェックボタンで選択します。

デフォルトでは、チェックボタンはオン(使用する)に設定されています。

E-Mail のサーバ名

E-Mail サーバのホスト名又は IP アドレスを指定します。

デフォルトは、DNS のホスト名です。

送信者名称

E-Mail を送信するエージェントを動作させた場合の、メール送信元のユーザ名を指定します。

デフォルトは、現在ログインしているユーザ名です。

(2) Groupmax Mail の設定

Groupmax Mail を使用する

Groupmax Mail を使用するかどうかをチェックボタンで選択します。
デフォルトでは、チェックボタンはオン(使用する)に設定されています。

Groupmax Mail のサーバ名

Groupmax Mail サーバのホスト名又は IP アドレスを指定します。
デフォルトは、DNS のホスト名です。

ログインユーザ名称

エージェントサーバが Groupmax Mail にログインするためのユーザ ID を指定します。
デフォルトは、現在ログインしているユーザ名です。

[詳細] ボタンをクリックすると、[エージェント詳細] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、次に選択したサーバプログラムのプロパティページが表示されます。

3.11.2 [エージェント詳細] ダイアログボックス

[エージェント詳細] ダイアログボックスを、図 3-21 に示します。

図 3-21 [エージェント詳細] ダイアログボックス

The screenshot shows the 'Groupmax Server Setup Wizard - エージェント詳細' dialog box. It is divided into several sections:

- スケジューラ関連 (Scheduler Related):**
 - エージェント生存期間の監視インターバル値(1~30日)(D): 7
 - PPサーバ未起動時のリトライ間隔(1~24時間)(R): 1
 - クライアント未起動時の最大保留メッセージ数(0~10)(N): 1
 - クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間(1~7日)(L): 1
- クラス別スロット数(1~32):**
 - エージェントクラスA(A): 4
 - エージェントクラスB(B): 32
 - エージェントクラスC(C): 16
- クラス別動作期限監視時間(0~60分):**
 - エージェントクラスA(S): 15
 - エージェントクラスB(T): 10
 - エージェントクラスC(U): 15
- 上限個関連 (Upper Limit Related):**
 - 登録するエージェントの最大数(N): 1000 (02~8000)
 - 接続するPPサーバの最大数(P): 8 (1~64)
 - 同時にログインできるユーザの最大数(Q): 64 (1~1000)
 - 同時に接続できるユーザの最大数(W): 16 (1~256)
 - 無通信監視時間秒(X): 10 (10~300)
- フォルダ関連 (Folder Related):**
 - テンプレート格納ディレクトリ(Y): [参照(E)...]
 - ファイル転送用ファイル格納ディレクトリ(W): [参照(F)...]
 - エージェント情報格納ディレクトリ(Q): F:\Program Files\HITAC [参照(Q)...]
 - 活動ログファイル格納ディレクトリ(O): F:\Program Files\HITAC [参照(O)...]
 - 永続型ファイル格納ディレクトリ(Z): F:\Program Files\HITAC [参照(Z)...]

At the bottom, there are buttons for 'デフォルト(D)', 'OK', 'キャンセル', and 'ヘルプ'.

(1) スケジューラ関連

エージェント生存期間の監視インターバル値

エージェント生存期間中の監視時間間隔(日)を、1~30の範囲で指定します。
デフォルトは、7です。

PPサーバ未起動時のリトライ間隔

PPサーバ未起動時の、エージェントサーバからのリトライ間隔(時間)を、1~24の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

クライアント未起動時の最大保留メッセージ数

クライアント未起動時にメッセージダイアログボックスを表示する処理があった場合、保留するメッセージの最大数を、0~10 の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間

クライアント未起動時にメッセージダイアログボックスを表示する処理があった場合、保留するメッセージの生存期間(日)を、1~7 の範囲で指定します。

デフォルトは、1 です。

クラス別スレッド数

ジョブクラス別のスレッド数を、1~32 の範囲で指定します。各ジョブクラスの内容及びデフォルトのスレッド数を、次に示します。

- エージェントクラス A
エージェントサーバが内部的に実行する順に割り当てられます。
デフォルトは、4 です。
- エージェントクラス B
ユーザが登録したエージェントに割り当てられます。
デフォルトは、32 です。
- エージェントクラス C
ユーザが登録したエージェントに割り当てられます。
デフォルトは、16 です。

クラス別動作期限監視時間

ジョブクラス別の動作期限監視時間(分)を、10~60 の範囲で指定します。

デフォルトは、エージェントクラス A が 15、エージェントクラス B が 10、エージェントクラス C が 15 です。

(2) 上限値関連

登録するエージェントの最大数

登録できるエージェントの最大数を、32~3,000 の範囲で指定します。

デフォルトは、1,000 です。

接続する PP サーバの最大数

接続できる PP サーバの最大数を、1~64 の範囲で指定します。

デフォルトは、8 です。

同時にログインできるユーザの最大数

同時にログインできるユーザの最大数を、1~1,000 の範囲で指定します。

デフォルトは、64 です。

同時に接続できるユーザの最大数

同時に接続できるユーザの最大数を、1~256 の範囲で指定します。ただし、同時にログインできるユーザの最大数と同じ又は小さい値を指定してください。

デフォルトは、16 です。

無通信監視時間

クライアントとエージェントサーバとの通信で、無通信状態になってから TCP コネクションを切断するまでの時間(秒)を、10~300 の範囲で指定します。

デフォルトは、10 です。

(3) フォルダ関連

テンプレート格納ディレクトリ

クライアントがエージェント生成で使用するテンプレートを格納するディレクトリ(ユーザカスタマイズ用フォルダ)のパス名を指定します。この項目は省略できます。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、空白です。

ファイル転送用ファイル格納ディレクトリ

クライアント・サーバ間でのファイル転送用ファイルを格納するディレクトリのパス名を指定します。この項目は省略できます。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、空白です。

エージェント情報格納ディレクトリ

エージェントサーバに登録されている、クライアントが生成したエージェント情報の格納ディレクトリのパス名を指定します。この項目は省略できません。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、「Groupmax Agent Server のインストール先のパス名¥SVdef¥」です。

活動ログファイル格納ディレクトリ

活動ログを格納するディレクトリのパス名を指定します。この項目は省略できません。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、「Groupmax Agent Server のインストール先のパス名¥SVlog¥」です。

永続メモリファイル格納ディレクトリ

永続メモリを格納するディレクトリのパス名を指定します。この項目は省略できません。

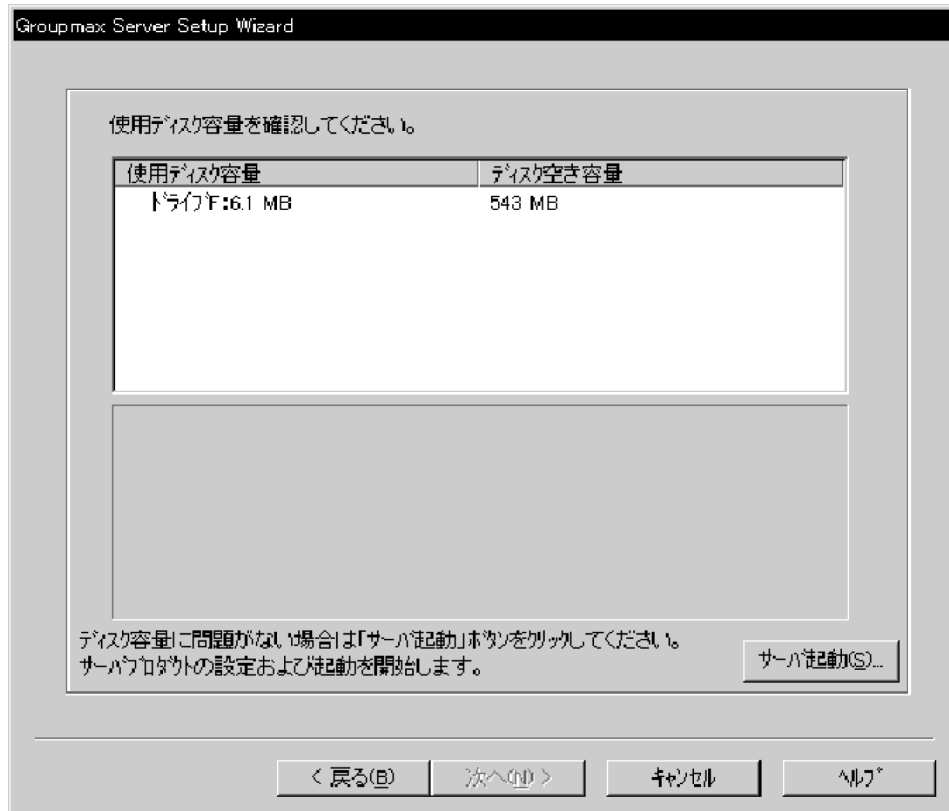
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、「Groupmax Agent Server のインストール先のパス名¥SVmem¥」です。

3.12 設定確認 (新規導入)

共通設定及び各サーバプログラムの設定が終わると、図 3-22 に示す [設定確認] プロパティページが表示されます。

図 3-22 [設定確認] プロパティページ



使用ディスク容量には、次に示す容量の合計が表示されます。

- Groupmax Object Server のデータベースの初期割り当ての容量
- Groupmax Object Server のステータスファイル及びジャーナルファイルの容量
- Groupmax Mail - SMTP, Groupmax Scheduler Server, Groupmax Facilities Manager, 及び Groupmax Agent Server が使用する容量

ただし、各サーバプログラムが使用する仮想メモリ容量は、使用ディスク容量には加算されていません。仮想メモリの容量については、各サーバプログラムの Readme ファイルを参照してください。

ディスク空き容量には、各サーバが使用するドライブの、現在のディスク空き容量が表示されます。

容量を確認後 [サーバ起動] ボタンをクリックすると、共通設定及び各サーバプログラムの設定内容に基づいて、データベース初期化パラメタ及びシステム共通定義パラメタが作成され、Groupmax サーバが起動されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、シングルサーバ又は管理サーバの場合は [メール ID 設定] ダイアログボックスが表示されます。子サーバの場合は [サーバ設定ウィザード終了] プロパティページが表示されず。

3.13 メール ID の設定

サーバ起動後、図 3-23 に示す [メール ID 設定] ダイアログボックスで最上位組織及び登録ユーザ情報を設定します。

図 3-23 [メール ID 設定] ダイアログボックス

Groupmax Server Setup Wizard - メールID設定

最上位組織の設定

組織ID(O): HITACHI

組織日本語名(J): 日立

保存(S)...

開く(O)...

ユーザID	日本語氏名	英語姓	英語名	ニックネーム
e980001	日立 太郎	HITACHI	TAROU	T.HITACHI

ユーザの削除(D)

多階層組織、mユーザの登録は、Address 運転席、一括登録ユーティリティを利用してください。

登録(R) キャンセル ヘルプ?

3.13.1 最上位組織の設定

最上位組織を設定します。下位の組織は設定できません。

組織 ID

最上位組織の組織 ID を、半角英数字 8 文字で指定します。

組織日本語名

最上位組織の日本語名を、全角 64 文字以内又は半角 128 文字以内で指定します。

3.13.2 メール登録ユーザの設定

メールに登録するユーザの情報を、一覧表に設定します。設定できるユーザ情報の最大数は 256 です。

表のクリック又はフォーカス移動でユーザ情報を入力します。フォーカス移動には、次に示すキーを使用します。

- 次の項目に移動：< Ctrl > + < → >, < Tab >, 又は < Enter >
- 前の項目に移動：< Ctrl > + < ← >, 又は < Shift > + < Tab >
- 上の行に移動：< ↑ >
- 下の行に移動：< ↓ >

- 入力内容の取り消し：< Esc >

最終行の各項目を入力後、< Ctrl > + < → >, < Tab >, < Enter > で次の項目に移動する又は < ↓ > で下の行に移動すると自動的に空行が追加され、ユーザ情報の追加ができます。ただし、項目の入力が終わっていない状態で次の項目又は次の行に移動すると、空行の追加はされず、[ユーザの削除] ボタンにフォーカスが移動されます。

入力したユーザ情報を削除するには、削除する項目を選択して [ユーザの削除] ボタンをクリックします。

ユーザ ID

ユーザ ID を、半角英数字 8 文字で指定します。

日本語氏名

ユーザの日本語氏名を、全角 16 文字以内又は半角 32 文字以内で指定します。

英語姓

ユーザの英語姓を、半角英数字 16 文字以内で指定します。「+」,「_」, 及び「,」も指定できます。

英語名

ユーザの英語名を、半角英数字 16 文字以内で指定します。「+」,「_」, 及び「,」も指定できます。英語姓及び英語名が同一の組み合わせのユーザは登録できません。

ニックネーム

ユーザのニックネームを、全角 16 文字以内又は半角 32 文字以内で指定します。

ただし、次に示すユーザは、システムで使用するため登録できません。

ユーザ ID	ニックネーム	意味
system	s.system	Groupmax 管理ユーザ
DMMSERV DMSxxxxx	D.DMMSERV D.DMSxxxxx	Groupmax Document Manager 管理ユーザ (xxxxx：任意の 5 けたの数字)
WFMSERV WFSxxxxx	W.WFMSERV W.WFSxxxxx	Groupmax Workflow Server 管理ユーザ (xxxxx：任意の 5 けたの数字)

設定終了後、[保存] ボタンをクリックすると、設定した情報をファイル(.prm)に保存します。

保存した情報を読み込むには、[開く] ボタンをクリックします。

[登録] ボタンをクリックすると、設定した情報がチェックされ、登録されます。登録が終了すると、[サーバ設定ウィザード終了] プロパティページに移ります。

3.14 Setup Wizard 環境設定の終了

すべての設定が終了すると、図 3-24 に示す [サーバ設定ウィザード終了] プロパティページが表示されます。

図 3-24 [サーバ設定ウィザード終了] プロパティページ



各サーバプログラムのサービスの起動方法を、ラジオボタンで選択します。

- 設定しない
現在の起動方法で起動します。
- 選択されているサーバを自動起動にする
今回設定したサーバプログラムを自動で起動します。
ただし、Groupmax Mail - SMTP の自動起動の設定はできません。Groupmax Mail - SMTP の自動起動が必要な場合は、[コントロールパネル] の [サービス] アイコンを使用して自動起動の設定をしてください。
- 選択されているサーバを手動起動にする
今回設定したサーバプログラムを手動で起動します。

[完了] ボタンをクリックすると、Setup Wizard 環境設定が終了します。

4

Setup Wizard での構成変更

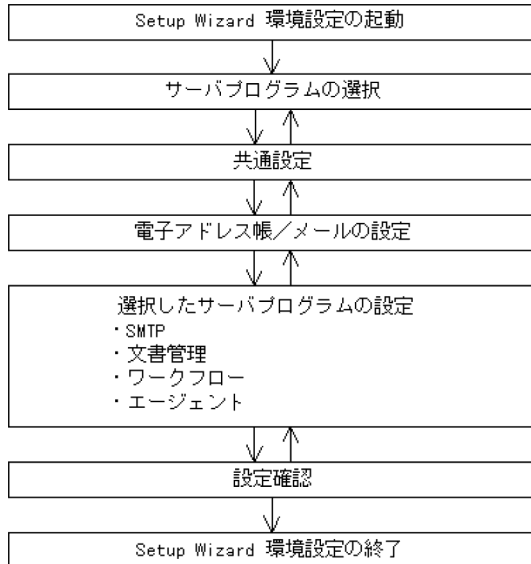
この章では, Setup Wizard を使用して構成変更時の環境設定をするときの操作について説明します。また, 各サーバプログラムで構成変更をする場合の注意事項について説明します。

なお, マルチサーバの場合, 構成変更はできません。

4.1 構成変更の操作の流れ

Setup Wizard を使用した構成変更の操作の流れを、図 4-1 に示します。

図 4-1 構成変更の操作の流れ



4.2 共通設定 (構成変更)

構成変更時の共通設定について説明します。

[共通設定] プロパティページで、新規導入時の設定項目に加え、次に示す項目を設定します。

構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ

構成変更時にデータベースを更新するための一時ファイルを格納するディレクトリのパス名を、128 バイト以内の文字列で指定します。この一時ファイルは、Groupmax Object Server の「データベースのエリア再作成ユーティリティ」でデータベースを更新するときに使用されます。

パス名にネットワークドライブは指定できません。また、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名」下にディレクトリを作成する場合は、パス名を指定しないでデフォルトを使用してください。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

デフォルトは、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名*spool*work」です。

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 性能優先モード(共有メモリ上限拡大)
 - データベース名称(スキーマ名称)
 - データベース作成ディレクトリ
 - プログラム毎の設定
 - ホスト名称
 - IP アドレス
 - 簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ
 - [High-end Object Server の設定] ボタン
- また、次に示す項目については、前回設定した値より小さい値は指定できません。
- このサーバに登録するユーザ数

4.3 電子アドレス帳／メールの設定（構成変更）

構成変更時の電子アドレス帳／メールの設定について説明します。

- [電子アドレス帳／メール] プロパティページ

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- サイト名
- サーバ名
- プリンタ名
- 管理サーバ名
- 回覧を使用する

- [電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックス

次に示す項目及びボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- ディレクトリ名称
- [デフォルト] ボタン

また、次に示す項目については、前回設定した値より小さい値は指定できません。

- 全組織数
- 1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均
- 送信メール 1 通あたりの宛先数の平均
- 全マスタ掲示板数
- 1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均
- 1 人が 1 日に送信するメール数
- サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均
- E-mail アドレスの平均長

4.4 SMTP の設定 (構成変更)

構成変更時の SMTP の設定について説明します。

- [SMTP] プロパティページ
すべての項目及び [詳細] ボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

4.5 文書管理の設定（構成変更）

構成変更時の文書管理の設定について説明します。

- [文書管理] プロパティページ

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 文書実体ディレクトリ名称
- 作業領域ディレクトリ名称
- スプールディレクトリ名称

- [文書管理詳細] ダイアログボックス

次に示す項目及びボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 複数グループアクセス機能を使用する
- ディレクトリ名称
- [デフォルト] ボタン

また、次に示す項目については、前回設定した値より小さい値は指定できません。

- 一般文書データベース数
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数
- 全一般文書数
- フォーム文書データベース数
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数
- 全フォーム文書数
- フォルダ数
- 分類、分類索引の総数
- 文書あたりに保持するバージョン数
- 1ユーザあたりの同時アクセス文書数
- 同時ログインユーザ数
- 文書管理データベースへの同時アクセス数

4.6 ワークフローの設定（構成変更）

構成変更時のワークフローの設定操作について説明します。

- [ワークフロー] プロパティページ

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 文書実体ディレクトリ名称
- ワークエリアディレクトリ名称
- ログ情報エリアディレクトリ名称

- [ワークフロー詳細] ダイアログボックス

次に示す項目及びボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- ディレクトリ名称
- [デフォルト] ボタン

また、次に示す項目については、前回設定した値より小さい値は指定できません。

- 1日あたりのワーク数
- ワーク処理日数
- ワーク保存日数
- 1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数
- ビジネスプロセス定義数
- ワーク内のケース数
- ケース内の文書数
- ロール数
- 最大ログインユーザ数
- ユーザ内履歴数
- ワーク下のオブジェクト数（最大値）
- ワークフローデータベース同時アクセス数

4.7 エージェントの設定（構成変更）

構成変更時のエージェントの設定について説明します。

- [エージェント詳細] ダイアログボックス
登録するエージェントの最大数については、前回設定した値より小さい値は指定できません。

4.8 設定確認 (構成変更)

[設定確認] プロパティページの使用ディスク容量には、前回の設定時と比べて増加した分のディスク容量が表示されます。

容量を確認後 [サーバ起動] ボタンをクリックすると、共通設定及び各サーバプログラムの設定内容に基づいて、構成変更用パラメタ及びシステム共通定義パラメタが作成され、サーバが起動されます。

[次へ] ボタンをクリックすると、[サーバ設定ウィザード終了] プロパティページに移ります。

4.9 サーバプログラムで構成変更をする場合

Setup Wizard で初期設定をした後に各サーバプログラムで構成変更をすると、以降は Setup Wizard で構成変更できなくなる場合があります。

各サーバプログラムの機能で構成変更をする場合の注意事項について、次に説明します。

- Groupmax Object Server
データベースの構成変更や再作成はしないでください。
構成変更や再作成をした場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。
- Groupmax Address Server, Groupmax Mail Server
組織・ユーザ・掲示板以外の設定はしないでください。
これらの項目以外の値を変更した場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。
- Groupmax Workflow Server
最大ログインユーザ数は変更しないでください。
最大ログインユーザ数を変更した後に Setup Wizard で構成変更をした場合、最大ログインユーザ数は Setup Wizard で前回設定した値に上書きされます。
- Groupmax Scheduler Server, Groupmax Facilities Manager
Address 認証の設定, Address ホスト名及びポート番号は変更しないでください。
これらの項目を変更した後に Setup Wizard で構成変更をした場合、各項目の値は Setup Wizard で前回設定した値に上書きされます。
- Groupmax Agent Server
管理ツールによる設定内容の変更はしないでください。設定内容の変更をした場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。

5

Setup Wizard での Groupmax WWW の環境設定

この章では、Setup Wizard を使用して Groupmax WWW の環境設定をするときの操作について説明します。

5.1 Groupmax WWW の環境設定の操作の流れ

Setup Wizard では、Groupmax WWW サーバプログラムである Groupmax WWW の環境設定ができます。

Setup Wizard を使用した Groupmax WWW の環境設定の操作の流れを、図 5-1 に示します。

図 5-1 Groupmax WWW の環境設定の操作の流れ



5.2 Setup Wizard for WWW 環境設定の起動

[スタート] – [プログラム] – [Groupmax サーバ] – [Server Setup Wizard for WWW 環境設定]
をクリックすると、Setup Wizard for WWW 環境設定プログラムが起動します。



5.3 Groupmax WWW の環境設定の操作

Groupmax WWW の環境設定の操作について説明します。

5.3.1 [WWW Server 環境設定] ダイアログボックス

Setup Wizard for WWW 環境設定プログラムが起動すると、図 5-2 に示す [WWW Server 環境設定] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-2 [WWW Server 環境設定] ダイアログボックス

(1) 共通項目

最大ユーザ数

Groupmax WWW を同時に使用できるユーザの最大数を、1～500の範囲で指定します。
デフォルトは、10です。

ログアウト忘れ監視時間

Groupmax WWW にログインした後、アクセスがないユーザに対して自動ログアウトするまでの経過時間(分)を指定します。
デフォルトは、10です。

ログインリトライ回数

ログイン時のリトライ回数の上限を、0～2,147,483,647の範囲で指定します。リトライ回数を制限しない場合は0を指定します。

デフォルトは、0 です。

パスワード有効期限の通知日数

パスワードの有効期限についての通知を、有効期限の何日前に行うかを、0～30 の範囲で指定します。

デフォルトは、3 です。

ログイン方法の初期設定

ニックネームログイン機能を使用するかどうかを、ラジオボタンで選択します。

ニックネームでログインを選択すると、ニックネームでログインできます。

デフォルトでは、ユーザ ID でのログインが選択されています。

(2) 連携サーバのホスト名称/IP アドレス

Address/Mail Server

Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスを指定します。

デフォルトは、DNS のホスト名です。

Scheduler Server/Facilities Manager

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスを指定します。

デフォルトは、DNS のホスト名です。

ただし、Groupmax WWW for Scheduler をインストールしていない場合、この項目は設定できません。

[ポート番号] ボタンをクリックすると、図 5-3 に示す [ポート番号設定] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-3 [ポート番号設定] ダイアログボックス(WWW)



Groupmax WWW と連携するサーバプログラムで使用するポート番号を指定します。デフォルトは、次に示すポート番号です。

- Address/Mail Server 連携：9052
- Scheduler Server 連携：20013
- Facilities Manager 連携：20102

ただし、Groupmax WWW for Scheduler をインストールしていない場合、Scheduler Server 連携及び Facilities Manager 連携のポート番号は設定できません。

(3) ログ出力指定

アクセスログを出力する

アクセスログを出力するかどうかを、チェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオン(出力する)に設定しています。

エラーログを出力する

エラーログを出力するかどうかを、チェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオン(出力する)に設定しています。

(4) WWW サーバの自動起動

Groupmax WWW のサービスの起動方法を、ラジオボタンで選択します。

- 設定しない
Groupmax WWW を現在の起動方法で起動します。
- WWW サーバを自動起動にする
Groupmax WWW を自動で起動します。
- WWW サーバを手動起動にする
Groupmax WWW を手動で起動します。

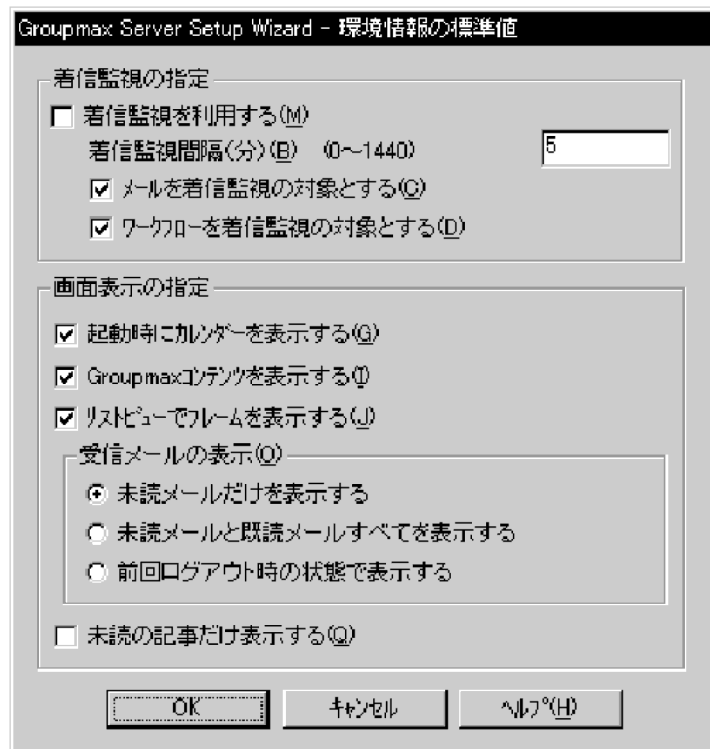
[サーバ起動] ボタンをクリックすると、設定内容を反映して Groupmax WWW を起動し、Setup Wizard を終了します。

[値のみ設定] ボタンをクリックすると、設定内容の反映だけをして、Setup Wizard for WWW 環境設定を終了します。

(5) WWW サーバ環境情報の標準値

[環境情報] ボタンをクリックすると、図 5-4 に示す [WWW Server 環境情報の標準値] ダイアログボックスが表示されます。

図 5-4 [WWW Server 環境情報の標準値] ダイアログボックス



5.3.2 [WWW Server 環境情報の標準値] ダイアログボックス

(1) 着信監視の指定

着信監視を利用する

着信監視機能を利用するかどうかを、チェックボタンで指定します。
デフォルトでは、チェックをオフ(利用しない)に設定しています。

着信監視間隔

着信監視機能を利用する場合に、監視間隔を、0~1440 の範囲で指定します。

メールを着信監視の対象とする

着信監視機能を利用する場合に、メールを着信監視の対象とするかどうかをチェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオン(対象とする)に設定しています。

ワークフローを着信監視の対象とする

着信監視機能を利用する場合に、ワークフローを着信監視の対象とするかどうかをチェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオン(対象とする)に設定しています。

(2) 画面表示の指定

起動時にカレンダーを表示する

起動時(Groupmax へのログイン時)にカレンダーを表示するかどうかを、チェックボタンで指定します。
デフォルトでは、チェックをオン(表示する)に設定しています。

カレンダーはスケジューラサービスが利用可能な場合に表示されます。

Groupmax コンテンツを表示する

ツリービューで、[Groupmax コンテンツの表示] 領域を表示するかどうかをチェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオン(表示する)に設定しています。

リストビューでフレームを表示する

リストビューで、フレームを使用するかどうかをチェックボタンで指定します。デフォルトでは、チェックをオン(表示する)に設定しています。

受信メールの表示

ログイン後、初めて受信メール一覧を表示した時の表示方法を選択します。

デフォルトは、「未読の受信メールだけを表示する」です。

「前回ログアウト時の状態で表示する」を選択した場合は、前回ログアウト時のメール一覧の未読/既読の状態を表示します。初めて Groupmax WWW サーバへログインしたときは、未読メールだけを表示します。

未読の記事だけ表示する

ログイン後、初めて記事一覧を表示した場合、未読記事だけを表示する、又は未読記事と既読記事をすべて表示するかどうかをチェックボタンで指定します。

デフォルトでは、チェックをオフ(すべて表示する)に設定しています。

6

Setup Wizard でのマルチサーバ の環境設定

この章では, Setup Wizard を使用してマルチサーバの環境設定をするときの操作について説明します。

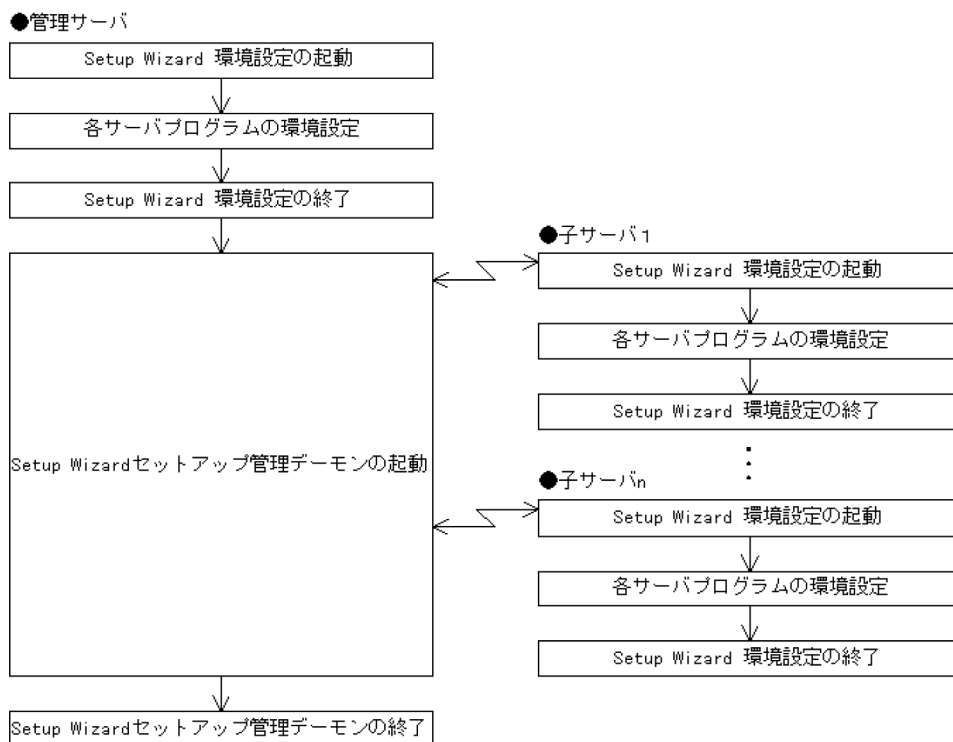
6.1 マルチサーバ環境設定の操作の流れ

マルチサーバの場合は、次に示す手順で環境設定をします。

1. 管理サーバの環境設定を「3. Setup Wizard での環境設定」の手順で実行します。
2. 管理サーバ上で Setup Wizard セットアップ管理デモンを起動します。
3. 子サーバの環境設定を「3. Setup Wizard での環境設定」の手順で実行します。このとき、子サーバの情報が管理サーバに登録されます。
子サーバの環境設定は一度に1台ずつ実行してください。同時に複数の子サーバの環境設定をすることはできません。
4. すべての子サーバの環境設定が終わるまで、手順3を繰り返します。
5. 管理サーバ上で Setup Wizard セットアップ管理デモンを終了します。
6. すべてのサーバマシンで、Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)を除く Groupmax サーバを再起動します。

マルチサーバ環境設定の操作の流れを、図 6-1 に示します。

図 6-1 マルチサーバ環境設定の操作の流れ



なお、マルチサーバの場合、構成変更はできません。各サーバプログラムの機能で構成変更をしてください。

6.2 Setup Wizard セットアップ管理デーモンの起動

管理サーバ上で [スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン] をクリックすると、Setup Wizard セットアップ管理デーモンが起動します。



6.3 接続状態の表示

Setup Wizard セットアップ管理デーモンが起動すると、図 6-2 に示す [マルチサーバセットアップ管理デーモン] ダイアログボックスが表示されます。

図 6-2 [マルチサーバセットアップ管理デーモン] ダイアログボックス



Setup Wizard セットアップ管理デーモンと接続している子サーバの情報が表示されます。接続が完了すると、[状態] の表示が「接続済」になります。

子サーバ上では「3. Setup Wizard での環境設定」の手順で環境設定をします。このとき、各マルチサーバプログラムのプロパティページで「管理サーバ名称」を指定する必要があります。

子サーバの環境設定が終了したら、[終了] ボタンをクリックして、Setup Wizard セットアップ管理デーモンを終了します。

6.4 マルチサーバ環境設定後の作業

マルチサーバの環境設定後の作業について説明します。

- 運用を開始する前に、すべてのサーバマシン上で Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)を除く Groupmax サーバを再起動する必要があります。また、Groupmax Workflow Server のワークフローディレクトリサービス(WFserver Directory Function)を再起動する場合は、スタートアップパラメタに-r を指定してください。
- マルチサーバ環境を再構築する場合は、マスタ管理サーバ及びアドレスサーバの初期化を実行する必要があります。マスタ管理サーバ又はアドレスサーバだけを初期化した場合は、その後の環境設定がエラーになります。

7

Setup Wizard での環境設定の初期化

この章では, Setup Wizard で設定した内容を初期化する操作について説明します。

7.1 Setup Wizard 設定初期化の起動

設定を初期化すると、設定されている情報はすべて削除されます。必要に応じて、あらかじめ各サーバの環境設定ファイルのバックアップを採取してください。また、すべての Groupmax サーバを停止させてください。

[スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Server Setup Wizard 設定初期化] をクリックすると、Setup Wizard 設定初期化プログラムが起動します。



7.2 初期化の実行

Setup Wizard 設定初期化プログラムが起動したら、次に示す手順で操作します。

1. サーバプログラムが起動している場合、サーバプログラムを停止することを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。
2. 初期化を実行すると、現在の設定情報が削除されることを確認するメッセージが表示されます。初期化する場合は [初期化] をクリックします。
3. 初期化を実行することを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。
初期化が実行され、処理メッセージが表示されます。
4. 初期化終了のメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
Setup Wizard 設定初期化が終了します。

8

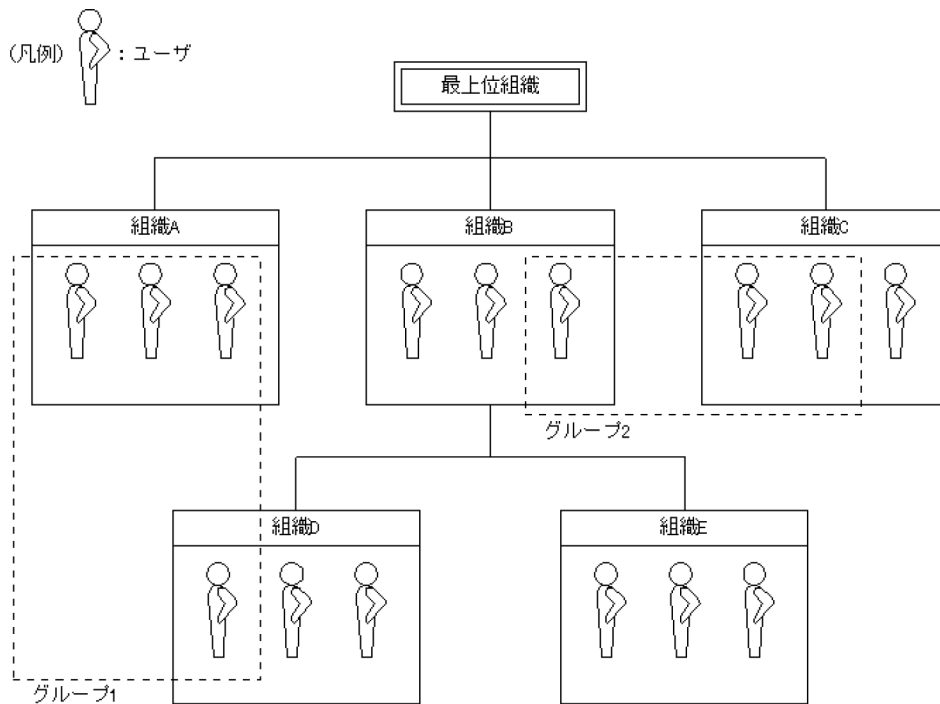
各サーバプログラムでの設定

この章では、Setup Wizard などで初期設定が完了した環境で、各サーバプログラムの基本的な利用環境を構築するための設定について説明します。また、Groupmax サーバの起動・停止方法について説明します。

8.1 ユーザの登録

Groupmax では、一般的に Groupmax Address Server でユーザを管理します。Groupmax Address Server を利用すると、ユーザを最上位組織、組織に登録することによって実際の組織階層に沿って管理できます。また、複数のユーザをグループとして登録すると、組織横断的に管理できます。最上位組織、組織、グループ及びユーザの関係を図 8-1 に示します。

図 8-1 Groupmax のユーザ管理の概要



組織及びユーザは、最上位組織又は組織に登録する必要があります。ただし、システム管理用の最上位組織である「Groupmax_system」には一般の組織やユーザを登録しないでください。

組織及びユーザを登録するための基本的な操作環境として、Groupmax Address Server の運転席があります。運転席を起動するには、[スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [運転席] をクリックします。

運転席からの登録操作の概要を次に説明します。操作内容の詳細及びその他の機能については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」及び「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド ユティリティ編」を参照してください。

8.1.1 最上位組織／組織の登録

最上位組織を登録する手順を次に示します。

1. 運転席のウィンドウで [ファイル] - [DB メンテナンス] - [ユーザ情報] を選択し、[名前データベース] ウィンドウを開きます。
2. [最上位組織追加] ボタンをクリックし、登録する属性を指定します。

組織を登録する手順を次に示します。

1. 運転席のウィンドウで [ファイル] - [DB メンテナンス] - [ユーザ情報] を選択し, [名前データベース] ウィンドウを開きます。
2. [名前データベース] ウィンドウの [組織階層の表示] エリアに登録先の組織又は最上位組織を表示させます。
3. [組織追加] ボタンをクリックし, 表示される画面で, 登録する組織の属性を指定します。

組織の登録時の属性として, アドレス帳組織又はアドレス組織を選択します。アドレス組織を選択すると, 次に示す機能が利用できます。

- 組織の直下に所属するユーザ単位で組織メールが利用できます。
- 文書管理機能でのアクセス権限を組織単位で設定できます。

8.1.2 ユーザの登録

ユーザを登録する手順を次に示します。

1. 運転席のウィンドウで [ファイル] - [DB メンテナンス] - [ユーザ情報] を選択し, [名前データベース] ウィンドウを開きます。
2. [名前データベース] ウィンドウの [組織階層の表示] エリアに, 登録先の組織又は最上位組織を表示させます。
3. [ユーザ追加] ボタンをクリックし, 表示される画面で, 登録するユーザの属性を指定します。

その他の機能を利用する場合は, 必要に応じて次に示す設定をしてください。

- メール及び掲示板機能を利用する場合は [メール設定] ボタンをクリックし, メールボックス情報を設定します。
- その他のサーバの機能を利用する場合は, [サーバ設定] で表示される [ホームサーバ設定] ウィンドウで, 使用する機能別にホスト名などを指定します。
- Scheduler サーバを利用する場合, [名前データベース] ウィンドウで [属性設定] ボタンをクリックし, スケジューラのセキュリティランクを指定します。

8.1.3 グループの登録

グループを登録する手順を次に示します。

1. 運転席のウィンドウで [ファイル] - [DB メンテナンス] - [グループ情報] を選択し, [グループ名管理] ウィンドウを開きます。
2. グループの登録及びグループへのメンバを登録します。

8.1.4 Groupmax Address Server 以外でのユーザの管理

Groupmax Scheduler Server 利用ユーザだけを, ほかのサーバプログラムのユーザとは別に管理することもできます。この場合の設定方法については, マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。

8.2 掲示板の作成

メール機能が利用できる環境で、掲示板を利用できます。また、メール機能を利用できるユーザが、掲示板を利用できます。

掲示板には、ユーザごとに参照や書き込みなどのアクセス権限を設定できます。アクセス権限は、最上位に位置する掲示板単位で設定します。アクセス権を設定した掲示板の配下に位置する掲示板は、最上位の掲示板に設定された内容を引き継ぎ、参照や書き込みが制限されます。

掲示板の作成操作の概要を次に説明します。操作内容の詳細及びその他の機能については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」及び「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド ユティリティ編」を参照してください。

なお、説明中では、最上位に位置しアクセス権を設定する掲示板を最上位掲示板、最上位掲示板の下位に位置する掲示板を単に掲示板と表記します。

8.2.1 最上位掲示板の作成

最上位掲示板の作成は、次に示す手順で実行します。

1. 「8.1 ユーザの登録」で表示させた運転席のウィンドウで [ファイル] - [DB メンテナンス] - [掲示板情報] を選択し、[掲示板管理] ウィンドウを表示します。
2. [登録] ボタンをクリックし、[掲示板登録] ウィンドウを表示させて必要な情報を指定します。ここでアクセス権を設定するには、最上位組織、組織、グループ又はユーザごとに、アクセス権限の範囲を指定します。

8.2.2 掲示板の作成

運転席又は掲示板へのアクセスができるクライアント環境で、掲示板を作成できます。運転席で作成する場合は、最上位掲示板の登録で表示させた [掲示板管理] ウィンドウで、次に示す手順で実行します。

1. 作成する掲示板を所属させる最上位掲示板又は掲示板を選択して [下位作成] ボタンをクリックし、[掲示板作成] ウィンドウを表示させます。
2. 掲示板の作成に必要な情報を指定します。

クライアント環境の場合は、作成する掲示板を配置する最上位掲示板又は掲示板に対して掲示板作成権限を持つユーザがログインして作成します。

8.3 文書管理の設定

文書管理で扱う文書には、WordなどのAPで作成されたデータを扱う一般文書と、Groupmax Formで作成されたフォームを基に作成されたフォーム文書があります。

それぞれの文書の概要について次に説明します。操作内容及びその他の機能については、マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

8.3.1 一般文書

一般文書として登録される文書は、同じ属性を持つ文書を一般文書データベースにまとめて格納し、階層化されたフォルダで管理します。更に分類索引を利用することで、業務に合わせて様々な観点から分類して管理できます。フォルダを使用して階層化した文書管理の例を図8-2に、分類索引を使用した文書の管理の例を図8-3に示します。

図8-2 フォルダ階層を使用した文書管理の例

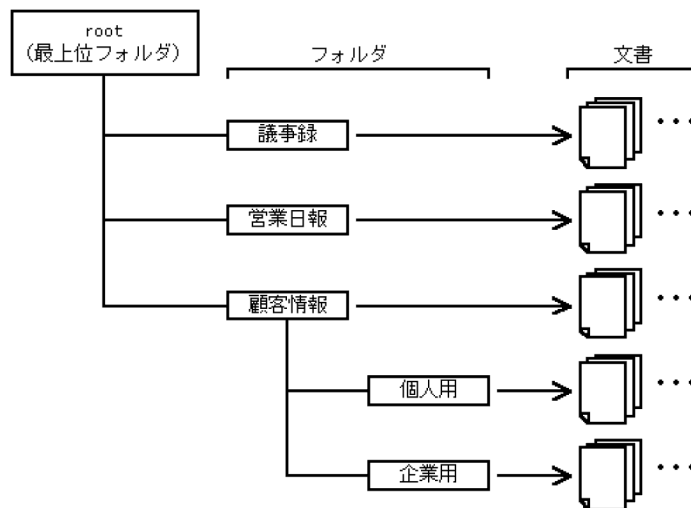
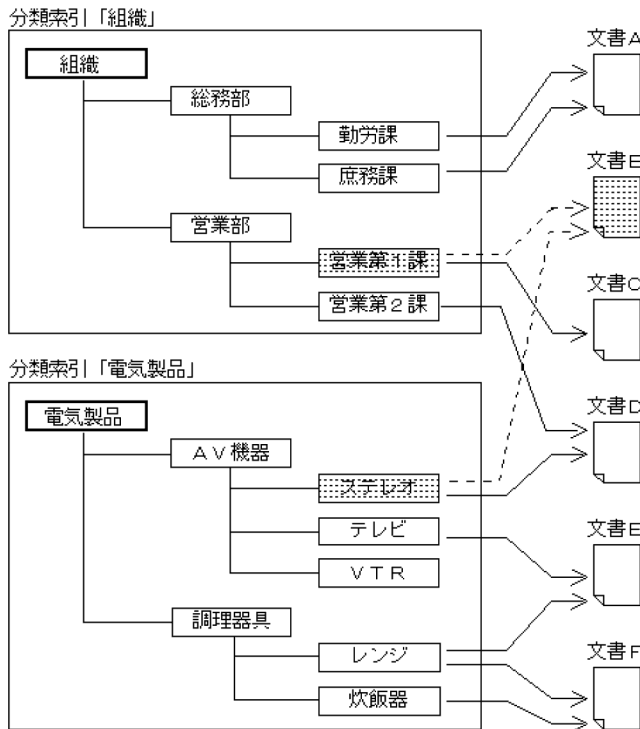


図 8-3 分類索引を使用した文書管理の例



(凡例)

---> : 分類索引「組織」の「営業第1課」と分類索引「電気製品」の「ステレオ」の両方にリンクしている文書

フォルダは、一般文書を格納する単位です。一般文書は必ず一つのフォルダに格納されるため、フォルダはディレクトリを使用したファイル管理の役目をします。また、登録された一般文書を分類索引に登録する（リンクさせる）ことは、インデックスを付けることに相当します。一般文書を分類索引に登録すると、具体的な検索条件が分からなくても、必要な文書を容易に検索できます。

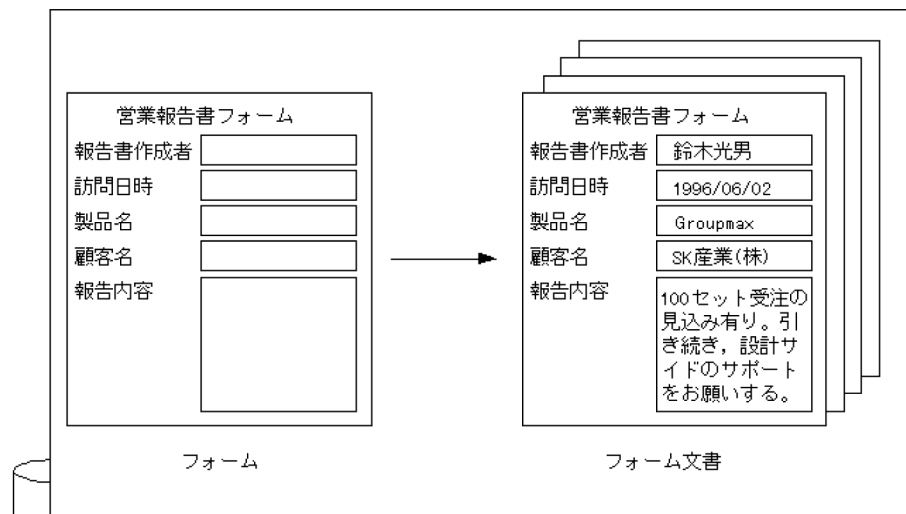
文書管理では、フォルダ、分類索引、文書及び一般文書データベースに対して、ユーザ毎に参照や書き込みなどの詳細なアクセス権を設定できます。なお、インストール後の初期状態では、最上位のフォルダである root には文書管理機能の管理者である Document Manager 管理者がすべての権限を持ちます。その他のユーザは、下位フォルダ作成権限を持ちます。運用に合わせて、必要なアクセス権を設定してください。

フォルダ及び分類索引の作成は、フォルダ及び分類索引への書き込み権限を持つユーザがクライアント環境で実行します。なお、操作にはクライアントから文書管理サーバへのログイン環境が必要なため、Document Manager 管理者をあらかじめ登録する必要があります。このユーザは、ユーザ ID が system のユーザが標準値となっていますが、管理ツールの環境設定機能で、Document Manager 管理ユーザ名として変更できます。

8.3.2 フォーム文書

フォーム文書とは、Groupmax Form で作成した定形文書（フォーム）を基にして作成したファイルに Document Manager での属性を追加した文書です。フォーム文書は、フォーム文書データベースで管理されます。フォーム文書の概要を、図 8-4 に示します。

図 8-4 フォーム文書の概要



フォーム文書データベース

フォーム文書のアクセス権は、フォーム文書データベースのアクセス権、フォーム定義のアクセス権及び目的別一覧によるアクセス権を組み合わせで設定します。

フォームの作成や登録は、クライアント環境で実行します。

8.4 スケジュール・施設管理の設定

スケジュール機能及び施設管理機能を利用する場合、利用ユーザの情報を Groupmax Address Server から取り込み、必要な設定をします。ここでは、Groupmax Address Server の情報を利用して、利用ユーザを管理する方法について説明します。

Groupmax Scheduler Server を利用するユーザだけをほかのサーバプログラムとは別に管理する場合は、利用ユーザの情報を取り込む必要はありません。

操作の詳細については、マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。

8.4.1 利用ユーザの取り込み

Groupmax Address Server で登録したユーザ情報の中から、スケジュール機能及び施設管理機能を利用するユーザの情報を Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager に取り込みます。

取り込みには、自動実行する方法と手動で実行する方法があります。また、取り込み対象は、Groupmax Address Server に登録されてから 1 時間以上経過している、又は Groupmax Address Server を再起動する以前に登録されたユーザ情報です。

(1) 自動取り込み

定期的に Groupmax Address Server のユーザ情報を監視し、変更内容を自動的に取り込みます。監視は時分の単位で指定し、更に監視時期として年月日を併せて指定することもできます。

(2) 手動取り込み

管理者が任意の時点で取り込み操作をして、Groupmax Address Server でのユーザ情報を取り込みます。手動取り込みは、Groupmax Scheduler Server 又は Groupmax Facilities Manager の親サーバ上で、次に示す手順で実行します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [SchedulerServer コンフィグレーション] 又は [FacilitiesManager コンフィグレーション] をクリックします。
2. 表示される [Groupmax Scheduler Server コンフィグレーション] ウィンドウ又は [Groupmax Facilities Manager コンフィグレーション] ウィンドウで [手動実行] ボタンをクリックします。
3. 表示される [手動実行] ウィンドウで、[変更通知情報取得] ボタンをクリックします。

8.4.2 利用環境の設定

スケジュール及び施設管理で使用する情報は、Scheduler_Facilities 管理ツールで設定します。

利用環境の設定は、次に示す手順で実行します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Scheduler_Facilities 管理ツール] をクリックします。
2. 表示される [管理ツール] ウィンドウで、次に示す操作をします。
 - Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager のサーバに格納されている環境情報を取得します。
 - 取得した情報を基に変更情報を設定します。

- 設定した情報を Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager のサーバに登録します。

8.5 ワークフローの運用環境の設定

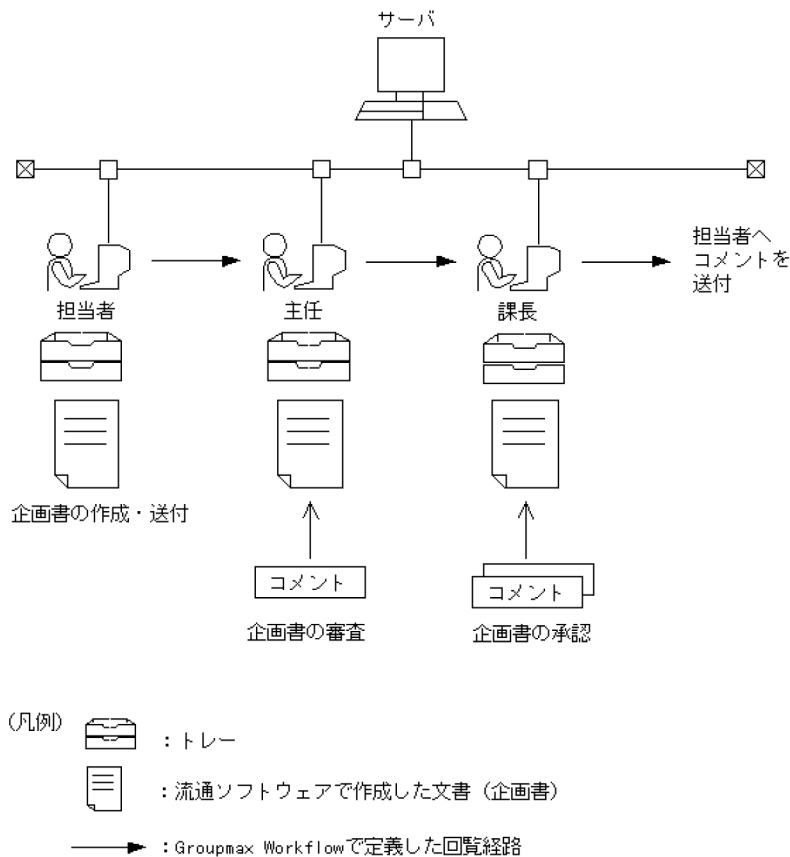
ワークフロー機能を利用する場合、利用ユーザが案件を処理するためのトレイを作成し、ワークフローの管理ユーザを登録する必要があります。

それぞれの操作の概要を次に示します。操作の詳細及びその他の機能については、マニュアル「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。

8.5.1 利用ユーザのトレイの作成

Groupmax Address Server で登録したユーザ情報を基に、案件を処理するためのトレイをユーザ毎に作成する必要があります。案件は、利用するユーザ毎にトレイを伝わって回覧されます。案件の回覧の例を図 8-5 に示します。

図 8-5 案件の回覧の例



案件トレイの作成は、WFregusr コマンドで実行します。案件トレイ作成の基となるユーザ情報は、Groupmax Address Server に登録されてから 1 時間経過している又は Groupmax Address Server を再起動する以前に登録されたユーザ情報です。なお、ユーザトレイの作成は、Groupmax Address Server でのユーザ登録で、ユーザ毎に指定した Workflow サーバすべてに対して必要です。

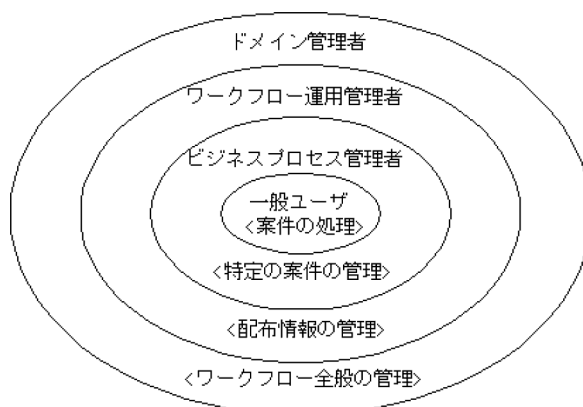
8.5.2 管理ユーザの登録

ワークフロー機能を利用する場合、一般ユーザへ案件の利用環境を提供するため、ワークフローの流れを定義するビジネスプロセスのサーバへの登録やドメイン内の業務の流れの監視など、様々な管理業務が必要です。管理業務をするワークフローの管理者を次に示します。

- ドメイン管理者
- ワークフロー運用管理者
- ビジネスプロセス管理者

ワークフロー機能を利用する環境でのユーザの関係を図 8-6 に示します。

図 8-6 ワークフローの利用ユーザの関連



必要な管理業務は管理者によって異なりますが、ワークフロー運用管理者及びビジネスプロセス管理者は、ドメイン管理者が設定します。ドメイン管理者は、既存のドメイン管理者が設定します。最初のドメイン管理者の登録は、Workflow 環境設定で指定したユーザ ID を使用してクライアント環境で実行します。この作業はサーバ上からコマンドを使って実行することもできます。ユーザ ID の標準値には system が仮定されています。

クライアント環境での管理ユーザの登録は、Groupmax Workflow Definer を利用して実行します。なお、実行の前に Groupmax Address Server にドメイン管理者とするユーザを登録し、各ユーザの案件トレイを作成しておく必要があります。また、Workflow 管理サーバ及びドメイン管理者にするユーザのホームサーバ(案件トレイを配置するサーバ)を起動した状態で操作する必要があります。

8.5.3 利用環境の定義

トレイの作成及び管理ユーザの登録後、ワークフローのシステム利用環境の定義をします。

(1) ロールの定義

ロールは、同じ仕事及び役割を持つユーザの集まりです。仕事又は役割にだれを割り当てるのかを、適用業務に応じて定義します。ロールの定義には、ワークフローロール定義を使用します。

(2) ビジネスプロセスの定義

回覧経路であるビジネスプロセスを定義し、サーバに登録します。ビジネスプロセスの定義には、ワークフロー定義を使用します。

8 各サーバプログラムでの設定

ロール及びビジネスプロセスの定義をすると、一般ユーザはクライアント環境で Workflow 帳票棚などからの案件の投入や、INBOX を使用して案件の処理ができます。ロール及びビジネスプロセスの定義については、マニュアル「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」及び「Groupmax Workflow Version 6 ビジュアル定義・シミュレータ・運用モニタ ユーザーズガイド」を参照してください。

8.6 Groupmax サーバの起動・停止

Groupmax の各サーバプログラムの機能は、Windows NT 上でサービスとして起動することで、利用できる状態になります。サービスの起動と停止は、システム統合管理機能である Groupmax System Manager - TCP/IP 及び Groupmax System Agent - TCP/IP で実行する方法と、各サーバプログラムのサービス名を指定して実行する方法があります。

ただし、クラスタ環境のシステムの場合は、環境に合わせた方法で起動及び停止する必要があります。

起動及び停止の操作概要について次に説明します。操作の詳細及びクラスタ環境のシステムの起動・停止については、各サーバプログラムのマニュアルを参照してください。また、オプション提供される各サーバプログラムの起動・停止については、該当するサーバプログラムのマニュアルを参照してください。

8.6.1 システム統合管理機能を利用した起動と停止

システム統合管理機能を利用する場合、操作画面である Groupmax System Manager - TCP/IP で起動及び停止をします。あらかじめ Groupmax System Manager - TCP/IP をインストールしておく必要があります。

システム統合管理機能での起動及び停止は、次に示す手順で実行します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [SystemManager TCPIP] をクリックします。
2. 操作する Groupmax サーバプログラムが存在するホスト名を選択し、状態表示ボタンをクリックします。
3. 一覧表示される Groupmax サーバプログラムの中から操作対象であるサーバを選択して、起動・停止をします。

SEWB+ リポジトリ セットを使用している場合、Groupmax Object Server, Groupmax High-end Object Server 及び SEWB+/REPOSITORY の起動及び停止については、マニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」及び「SEWB+/REPOSITORY 運用ガイド」を参照してください。

8.6.2 サービス名を指定した起動と停止

Groupmax の各サーバプログラムと、対応するサービス名の関連を表 8-1 に示します。使用する機能のサービス名を指定して、起動及び停止の操作をします。

表 8-1 Groupmax の各サーバプログラムとサービス名の関連

サーバプログラム名	サービス名	備考
Groupmax Object Server	Object Server	ほかのサーバの起動及び停止の前に起動及び停止させます。
Groupmax Address Server Groupmax Mail Server* ¹	Address Server	サービス「Object Server」の起動状態で起動させます。
Groupmax Document Manager	Document Manager	サービス「Address Server」の起動状態で起動させます。

8 各サーバプログラムでの設定

サーバプログラム名	サービス名	備考
Groupmax Document Manager	Document Manager send document	サービス「Document Manager」の起動状態で起動させます。
	Document Manager receive document	
Groupmax Scheduler Server	Groupmax Scheduler Server	サービス「Address Server」の起動状態で起動させます。 ユーザ管理を単独でする場合、単独で起動できます。
	Groupmax Scheduler Server Tool	
Groupmax Facilities Manager	Groupmax Facilities Manager	
	Groupmax Facilities Manager Tool	
Groupmax Workflow Server	WFserver Directory Function	サービス「Address Server」の起動状態で起動させます。
	WFserver Function	サービス「WFserver Directory Function」の起動状態で起動させます。
	WFmanager Function	サービス「WFserver Function」の起動状態で起動させます。
Groupmax Agent Server	Agent Server	サービス「Address Server」の起動状態で起動させます。
	Agent Server Mail Option※ ²	
Groupmax System Agent	Groupmax System Agent-TCP/IP	使用する機能に応じて、必要なサービスを起動させます。
	Groupmax System Agent-TCP/IP Admin	
	Groupmax System Agent-TCP/IP Bkup	
	Groupmax System Agent-TCP/IP RAS	
Groupmax WWW	Groupmax WWW	機能を使用するには、ユーザが利用する環境の各サーバを起動しておく必要があります。

注※1 Groupmax Mail Server は、Groupmax Address Server が起動している状態で、運転席、apstart コマンドなどで起動します。また、Groupmax Mail Server を Groupmax Address Server 起動時に自動的に起動させたい場合、サーバ毎に auto_start.bat を作成して apstart コマンドの実行内容を記述します。

注※2 Agent Server を Groupmax Mail Server と別のマシンにインストールした場合に起動させます。

9

Setup Wizard の運用

この章では, Setup Wizard の運用方法について説明します。

9.1 必要なハードウェア

必要なハードウェアについて説明します。

9.1.1 ハードウェア構成

Setup Wizard を実行できるハードウェア構成は、シングルサーバ構成及びマルチサーバ構成です。

9.1.2 メモリ及びディスクの容量

Setup Wizard をインストール及び実行するために必要なメモリ所要量・ディスク占有量については、Readme ファイルを参照してください。

また、データベースの大きさは、「付録 A システムが算出する値」に示す算出値を使用して計算されます。この算出値と実際の運用時の値が大きく違えば、ディスクの容量不足などの障害が発生する場合があります。この場合、Setup Wizard は使用しないで各サーバプログラムの機能で環境を設定してください。

9.2 必要なソフトウェア

必要なソフトウェアについて説明します。

9.2.1 前提 OS 及び関連プログラム

前提 OS 及び関連プログラムを、表 9-1 に示します。

表 9-1 前提 OS 及び関連プログラム一覧

種別	プログラム名
OS	Windows Server 2003, Windows Server 2008 又は Windows Server 2012
サーバプログラム	Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Mail Server Groupmax Address Server Groupmax Document Manager Groupmax Workflow Server 又は Groupmax High-end Workflow Server Groupmax Scheduler Server Groupmax Facilities Manager Groupmax Mail - SMTP Groupmax Agent Server Groupmax WWW Groupmax WWW for Scheduler

注意事項を次に示します。

- Windows NT クラスタでの環境設定はできません。
- [Server Setup Wizard 環境設定]を利用する場合、Groupmax Object Server 及び Groupmax Address Server を必ずインストールしてください。ただし、[Server Setup Wizard for WWW 環境設定]だけを利用する場合は、任意です。
- [Server Setup Wizard 環境設定]を利用する場合、各サーバプログラムの対象バージョンは 05-82, 06-82 又は 07-82 だけです(但し Groupmax Document Server は 06-55, Groupmax Mail - SMTP は 07-80)。旧バージョンのサーバプログラムがある場合は環境設定はできません。
- Groupmax Workflow Server は、ワーク処理日数とワーク保存日数の合計が 30 日以内の場合だけ、環境設定の対象となります。
- [Server Setup Wizard for WWW 環境設定]を利用する場合、Groupmax WWW 及び Groupmax WWW for Scheduler が環境設定の対象となります。
- Windows Server 2008 を利用する場合、Groupmax Document Manager, Groupmax WWW, Groupmax WWW for Scheduler は環境設定の対象外となります。
- Windows Server 2012 を利用する場合、Groupmax Document Manager, Groupmax Mail - SMTP, Groupmax WWW, Groupmax WWW for Scheduler は環境設定の対象外となります。
- Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager はファイルモードのみ環境設定の対象となります。

9.2.2 サーバプログラムの前提プログラム

システム構成ごとに、サーバプログラムの前提条件を示します。

(1) シングルサーバの場合

シングルサーバの場合に対象となるプログラム及び前提プログラムを、表 9-2 に示します。

表 9-2 前提プログラム(シングルサーバ)

サーバプログラム	前提プログラム
Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server	なし
Groupmax Address Server (マスタ管理サーバ+運転席)	Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server
Groupmax Mail Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席)
Groupmax Document Manager	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席)
Groupmax Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席)
Groupmax High-end Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席)
Groupmax Scheduler Server	なし
Groupmax Facilities Manager	なし
Groupmax Mail - SMTP	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席) Groupmax Mail Server
Groupmax Agent Server	なし
Groupmax WWW	なし
Groupmax WWW for Scheduler	Groupmax WWW

(2) 管理サーバの場合

管理サーバの場合に対象となるプログラム及び前提プログラムを、表 9-3 に示します。

表 9-3 前提プログラム(管理サーバ)

サーバプログラム	前提プログラム
Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server	なし
Groupmax Address Server (マスタ管理サーバ+運転席)	Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server
Groupmax Mail Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席)
Groupmax Document Manager	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax High-end Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax Scheduler Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax Facilities Manager	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax Mail - SMTP	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(マスタ管理サーバ+運転席) Groupmax Mail Server
Groupmax Agent Server	なし
Groupmax WWW	なし
Groupmax WWW for Scheduler	Groupmax WWW

(3) 子サーバの場合

子サーバの場合に対象となるプログラムと前提プログラムを、表 9-4 に示します。

表 9-4 前提プログラム(子サーバ)

サーバプログラム	前提プログラム
Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server	なし
Groupmax Address Server (アドレスサーバ)	Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server

サーバプログラム	前提プログラム
Groupmax Mail Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(アドレスサーバ)
Groupmax Document Manager	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ))
Groupmax Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(アドレスサーバ)
Groupmax High-end Workflow Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(アドレスサーバ)
Groupmax Scheduler Server	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(アドレスサーバ)
Groupmax Facilities Manager	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server(アドレスサーバ)
Groupmax Mail - SMTP	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Object Server 又は Groupmax High-end Object Server Groupmax Address Server((マスタ管理サーバ+運転席)又は(アドレスサーバ)) Groupmax Mail Server
Groupmax Agent Server	なし
Groupmax WWW	なし
Groupmax WWW for Scheduler	Groupmax WWW

9.2.3 Setup Wizard のインストール

統合 CD-ROM の画面のメッセージに従って Setup Wizard を選択し、インストールします。

マルチサーバの場合は、すべてのサーバに Setup Wizard をインストールする必要があります。

9.2.4 Setup Wizard のアンインストール

[スタート] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除] ※を起動して Setup Wizard を選択し、アンインストールします。

注※ [アプリケーションの追加と削除] は Windows Server 2003 で [プログラムの追加と削除], Windows Server 2008 では [プログラムと機能] に名称が変更されています。

9.3 障害対策

Setup Wizard の操作中に障害が発生した場合は、次に示す資料を取得します。

- トレースファイル
- イベントログファイル
- メッセージの内容及びそのメッセージが出力されるまでの操作を記述したメモ

9.3.1 トレースファイルの取得

Setup Wizard をインストールしたディレクトリのサブディレクトリにあるトレースファイルを取得します。

(1) 環境設定時のパラメタファイル

¥reset ディレクトリ下のファイルを、サブディレクトリも含めてすべて取得します。

(2) 環境設定又は初期化時のログファイル

¥log ディレクトリ下のファイルを、サブディレクトリも含めてすべて取得します。

(3) 過去のログファイル

¥tmp ディレクトリ下のファイルを、サブディレクトリも含めてすべて取得します。

(4) マルチサーバ設定時のパラメタファイル

¥files ディレクトリ下のファイルを、サブディレクトリも含めてすべて取得します。

(5) ファイル取得時の注意

- 各ディレクトリ及びファイルは名称変更及び削除しないでください。
- ファイルの取得後は、ディレクトリを開いたままにしないで、ファイルマネージャ、エクスプローラなどでの選択状態を解除してください。

9.3.2 イベントログファイルの取得

イベントログファイルを、次に示す手順で取得します。システムの設定によっては、イベントログファイルが 100MB を超える場合もあるので、あらかじめディスク容量を確認してください。

1. [管理ツール] グループの [イベントビューア] を起動します。
2. メニューから [ログ] - [名前を付けて保存] を選択します。
3. ファイル名を指定して、イベントログファイルを保存します。

9.4 ファイアウォールの設定

Setup Wizard でマルチサーバの環境設定を行う場合、管理サーバと子サーバ間で TCP/IP による通信を行います。ファイアウォールの適応を考えている場合は、管理サーバと子サーバ間の通信が遮断されないようにファイアウォールにポート番号を設定する必要があります。次の説明を参考にしてください。

9.4.1 ポート番号の設定

(1) Setup Wizard のポート番号

Setup Wizard 環境設定の起動時に services ファイルに自動登録されるポート番号が送信元または受信先の何れかに含まれる通信を許可するようにファイアウォールにポート番号を設定してください。Setup Wizard 環境設定の起動時に services ファイルに自動登録されるポート番号は「3.2 Setup Wizard 環境設定の起動」を参照してください。

(2) 各サーバプログラムのポート番号

Setup Wizard は環境設定時に各サーバプログラムのコマンドを実行します。これらのコマンドの一部には管理サーバと子サーバ間で通信を行うものがあるためファイアウォールにこれらで使用するポート番号を登録する必要があります。各サーバプログラムのファイアウォールの設定方法については、各サーバプログラムのマニュアルを参照してください。

付録

付録 A システムが算出する値

環境設定の操作時に入力した値に応じて、システムが算出する値を次に示します。

付録 A.1 電子アドレス帳／メールの算出値

電子アドレス帳／メールの算出値を示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server を環境設定の対象とする場合の算出値を、次に示します。

項目	記号	算出値
送信メール 1 通あたりの宛先数の平均	a	入力値
全マスタ掲示板数（下位掲示板も含む）	B	入力値
全レプリカ掲示板数（下位掲示板も含む）	b	$B \times 0.3$
全掲示板に 1 日あたりに掲示される全記事数の平均	C	B と同じ値
全サーバ数	e	T/Z
E-mail アドレス利用者数	E	T と同じ値
全グループ数	g	o と同じ値
ユーザ 1 人が権利を所有する組織の数	h	1
組織 1 つが保持する保留メール数の平均	k	5
データベースの運用期間（日数）	n	30
全組織数	o	入力値
サーバ 1 台に登録する組織メールボックス数	O	o/e
掲示板 1 つあたりのレプリカ数の平均	p	*1
1 つのメールボックスが保持する受信メール数の平均	r	入力値
サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均	R	入力値
1 つのメールボックスが保持する送信メール数の平均	s	r と同じ値
サーバ 1 台が 1 日あたりに発信するメール数の平均	S	R/a
全最上位組織数	t	T/500
全ユーザ数	T	入力値
Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	u	T と同じ値
宛先ユーザと Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	U	T と同じ値
送信メール 1 通あたりの送信先サーバ数の平均	v	*2

項目	記号	算出値
サーバ1台に登録するメールボックス数	x	Z+o/e
E-mail アドレスの平均長(byte)	X	入力値
Scheduler ユーザ数	Y	※3
1人が1日に送信するメール数	z	入力値
当該サーバに登録するユーザ数	Z	入力値
1ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均	HE	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

注※1 e と 250 のどちらか小さい方の値になります。

注※2 a と e のどちらか小さい方の値になります。

注※3 Scheduler が指定されている場合は T と同じ値になります。

指定されていない場合は 0 になります。

Groupmax Address Server だけを環境設定の対象とし Groupmax Mail を対象としない場合の算出値を、次に示します。

項目	記号	算出値
送信メール1通あたりの宛先数の平均	a	1
全マスタ掲示板数（下位掲示板も含む）	B	1
全レプリカ掲示板数（下位掲示板も含む）	b	1
全掲示板に1日あたりに掲示される全記事数の平均	C	1
全サーバ数	e	T/Z
全グループ数	g	oと同じ値
ユーザ1人が権利を所有する組織の数	h	1
組織1つが保持する保留メール数の平均	k	1
データベースの運用期間（日数）	n	30
全組織数	o	入力値
サーバ1台に登録する組織メールボックス数	O	1
掲示板1つあたりのレプリカ数の平均	p	1
1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均	r	1
サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均	R	1
1つのメールボックスが保持する送信メール数の平均	s	1
サーバ1台が1日あたりに発信するメール数の平均	S	1
全最上位組織数	t	T/500
全ユーザ数	T	入力値

項目	記号	算出値
Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	u	T と同じ値
宛先ユーザと Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	U	1
送信メール 1 通あたりの送信先サーバ数の平均	v	1
サーバ 1 台に登録するメールボックス数	x	1
1 人が 1 日に送信するメール数	z	1
当該サーバに登録するユーザ数	Z	入力値
1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均	HE	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

付録 A.2 文書管理の算出値

文書管理の算出値を、次に示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
文書データベース数	N	n+j
分類あたりのリンク文書数	x	m/v ※1
全文書数	M	m+q
一般文書データベースあたりの一般文書数	b	m/n
総分類数	v	入力値
バージョン数	p	入力値
サーバに登録するユーザ数	u	入力値
1 ユーザあたりの文書アクト数	k	2
フォルダ数	f	入力値
1 フォルダあたりの平均格納文書数	h	m/f
同時ログインユーザ数	A	※2
全フォーム文書数	q	入力値
フォーム文書データベース数	j	入力値
1 ユーザあたりの同時アクセス文書数	E	入力値
1 文書あたりのファイル数	F	2
全一般文書数	m	入力値
一般文書データベース数	n	入力値

項目	記号	算出値
1つの一般文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	a	sと同じ値
1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	s	入力値
1つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均長	l	64
1つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fa	s*0.9
1つのフォーム文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	ab	sb+4
1つのフォーム文書データベースの符号付き整数型ユーザ定義属性数の平均値	ib	2
1つのフォーム文書データベースの日付型ユーザ定義属性数の平均値	tb	2
1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	sb	入力値
1つのフォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fb	sb*0.9
全フォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均属性長	lb	64
配布文書グループ数	g	入力値
1サーバ内の配布対象文書の総数	w	m*0.8
1配布文書グループあたりの配布先サーバ数の平均	y	*3
配布で取り込まれた文書の総数	r	入力値
複数グループアクセス機能	o	$2*(n+v+f)*8+64$

注 表中の商はすべて切り上げです。

注※1 v=0のときは0です。

注※2 uと同じ値になります。

ただし、Groupmax Document Manager の場合の最大値は 256、Groupmax High-end Document Manager の場合の最大値は 1,000 です。

注※3 g=0のときは0です。g>0のときは(システムに登録するユーザ数)/u です。

付録 A.3 ワークフローの算出値

ワークフローの算出値を、次に示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
再構成間隔	a	30
1日あたりのワーク数	b	入力値
ワーク処理日数	c	入力値
ワーク保存日数	d	入力値
1ケースあたりの Workflow データベース格納メモ数	e	1
1メモの Workflow データベース格納メモサイズ (KB)	f	2

項目	記号	算出値
1 ロールあたりの自動配布キー	g	1
1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数	h	入力値
Workflow マネージャスリープ時間 (秒)	i	60
1 日あたりの運用時間 (時)	j	8
全ビジネスプロセス定義数	k	入力値
最大ワーク数	m	$b*(c+d)$
ワーク内のケース数	n	入力値
ワーク内の履歴数	o	*1
ワーク内のロール数	p	*2
最大ケース数	q	$m*n$
ケース内のメモ数	r	1
ケース内の文書数	s	入力値
ケース内の下位ケース数	t	1
ケース内の相談件数	u	2
ケース内の拡張ユーザ属性数	v	2
1 ビジネスプロセスあたりのケース定義数	w	1
ケース属性数	x	$v+15$
ロール数	y	入力値
サーバに登録するユーザ数	z	入力値
自動配布キー総数	A	$g*y$
階層連携ビジネスプロセスの最大ケース数	B	$q*0.3$
階層連携ビジネスプロセスの案件を処理したユーザ数	C	$h*0.5$
全データオブジェクト数	D	$q*e$
データオブジェクトサイズ (KB)	E	fと同じ値
全ワーク数 (削除分も含む)	F	$a*b$
全ノード数	G	$h*k*ss$
全ケース定義数	H	$ss*w*k$
全ケース数	I	$n*F$
全代行数	J	$F*0.01$
全文書数	K	$s*I$
全メモ数	L	$r*I$

項目	記号	算出値
全データオブジェクト数	M	$e \cdot I$
ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の種類	N1	F と同じ値
ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の平均重複数	O1	1
ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の種類	P1	*3
ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の平均重複数	Q1	*4
ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の種類	P2	*5
ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の平均重複数	Q2	*6
ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の種類	R1	*7
ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の平均重複数	S1	*8
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の種類	R2	*9
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の平均重複数	S2	*10
送付待ち案件数	T	*11
自動配布キーあたりのユーザ数	U	1
全サーバ数	V	ZZ/z
転送待ち案件数	W	1
ユーザが属する作業機数	X	$k \cdot pp \cdot 0.02$
最大ログインユーザ数	Y	入力値
1 メモあたりのメモサイズ (KB)	Z	0.01
1 ビジネスプロセスあたりのユーザ数	cc	$pp \cdot hh$
ユーザ処理リスト数	dd	$k \cdot h$
ユーザ処理リスト内作業数	ee	2
ロールに留まっている案件数	ff	1
ロールに関連するビジネスプロセス数	gg	2
1 ロールあたりのユーザ数	hh	z/y
ユーザに留まっているケース数	ii	$b \cdot c \cdot h/z$
ユーザ内ヒストリ数	jj	50
ユーザに関連するロール数	kk	5
1 ユーザあたりの代行者数	mm	1
ビジネスプロセス定義の最大実行形式サイズ (KB)	nn	150
ソースノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	oo	$k \cdot 0.8$
BP 内ロール数	pp	$h \cdot 0.6$

項目	記号	算出値
ノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	qq	$k*0.8$
ビジネスプロセス定義あたりのBP 管理者数	rr	NN/k
定義更新世代	ss	5
最大文書数と最大メモ数の和	tt	$q*(r+s)$
ユーザに関連するビジネスプロセス数	uu	kk と同じ値
ビジネスプロセス定義あたりのBP モニタリング権限者数	vv	$rr*0.1$
全ケース定義数	ww	$k*w$
全組織ロール数	xx	$YY*0.5$
そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数	yy	xx/V
階層化ロール数	zz	$y*0.1$
階層化ロールに含まれるロール数	AA	5
平均ロール内ユーザ数	CC	hh と同じ値
ロール配布権限を持つユーザ数	DD	PP と同じ値
ロール更新権限を持つユーザ数	EE	HH と同じ値
自動配布キーあたりのビジネスプロセス定義数	FF	k/A
全階層ロール数	GG	zz と同じ値
ドメイン管理者、ワークフロー運用管理者、ビジネスプロセス管理者のどれかである又はビジネスプロセス定義に参照権限を持っているユーザの数	HH	$ZZ*0.05$
ビジネスプロセス定義あたりのBP 配布権限者数	JJ	$rr*0.1$
ロール定義あたりの自動配布キー数	KK	g と同じ値
代行者を持つユーザ数	LL	$z*0.1$
1 ユーザあたりの、ビジネスプロセス管理者に指定されているビジネスプロセス数	MM	k/NN
ビジネスプロセス管理者数	NN	HH と同じ値
1 ユーザあたりの、ビジネスプロセス配布権限を持つビジネスプロセス数	OO	k/PP
ビジネスプロセス配布権限を持つユーザ数	PP	$ZZ*0.01$
1 ユーザあたりの、参照権限を持つビジネスプロセス数	QQ	k/RR
ビジネスプロセス定義の参照権限を持つユーザ数	RR	HH と同じ値
1 ユーザあたりの、ロール配布権限を持つロール数	SS	y/DD
1 ユーザあたりの、ロール更新権限を持つロール数	TT	y/EE
1 ビジネスプロセス定義あたりの自動配布キー数	UU	A/k
全組織数	YY	※12
全ユーザ数	ZZ	入力値

項目	記号	算出値
ビジネスプロセス定義名称長 (平均値)	aaa	32
ビジネスプロセスファイル名称長 (平均値)	bbb	32
添付ファイル名称長 (平均値)	ccc	32
V1 のビジネスプロセス定義で他のビジネスプロセスで処理中の案件数 (平均値)	ddd	1
そのサーバをビジネスプロセス登録サーバとするビジネスプロセス定義での他のサーバで処理中の案件数 (平均値) 及びそのサーバに配布されたビジネスプロセス定義で処理中の案件数 (平均値)	eee	T と同じ値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の種類	BB1	k と同じ値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB2	1
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の種類	BB3	0
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB4	0
1 ユーザあたりの同時接続セッション数	as	入力値
キャッシュメモリサイズ (MB)	cm	入力値
ワークフローデータベースへの同時アクセス数	fff	入力値 ^{*13}
マルチサーバの総サーバ数	ggg	入力値
管理者用最大ログインユーザ数	hhh	64
ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能	ID	1:on/0:off
1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数	lll	入力値
1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるケース数	mmm	入力値 ^{*14}
Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値 ^{*15}	nnn	入力値
ワーク下のオブジェクト数 (最大値)	ooo	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

注^{*1} $\uparrow ((\text{通過ノード数}/\text{ワーク}) * 2 + (\text{応用フローモデル数}/\text{ワーク})) / 2 \uparrow$

(通過ノード数/ワーク) : h*通過率, (応用フローモデル数/ワーク) : 1

通過率は、次に示すようにノード数に対応します。

ノード数	通過率
1~10	0.75
11~50	0.5
51~100	0.3
101~	0.25

- 注※2 $\uparrow((\text{通過ノード数/ワーク}) \cdot 0.6) / 2 \uparrow$ です。
- 注※3 $b \leq 200$ のとき a , $b > 200$ のとき 0 です。
- 注※4 $b \leq 200$ のとき b , $b > 200$ のとき 0 です。
- 注※5 $b > 200$ のとき a , $b \leq 200$ のとき 0 です。
- 注※6 $b > 200$ のとき b , $b \leq 200$ のとき 0 です。
- 注※7 $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき 3 , $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow > 200$ のとき 0 です。
- 注※8 $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow$, $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow > 200$ のとき 0 です。
- 注※9 $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき 2 , $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow > 200$ のとき 5 です。
- 注※10 $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき $\uparrow m \cdot 0.99 \uparrow$, $\uparrow m \cdot 0.01 \uparrow > 200$ のとき m です。
- 注※11 $\uparrow (b \cdot (\text{通過ノード数/ワーク})) / (j \cdot 3600 / i) \uparrow$ です。
- 注※12 $\uparrow ZZ / 20 \uparrow + \uparrow ZZ / 100 \uparrow + \uparrow ZZ / 500 \uparrow$ です。
- 注※13 Groupmax Workflow Server の場合は固定で 2 です。
Groupmax High-end Workflow Server の場合は最大 32 です。
- 注※14 ただし, b の範囲内です。
- 注※15 分単位で, 0 から 70560 までの値を指定します。デフォルトは 2520 です。

付録 B 各 OS 使用時の注意事項

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 で使用する場合の注意事項について説明します。

付録 B.1 ファイアウォール

該当 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012

該当 OS では OS 標準のファイアウォール機能がデフォルトで有効になります。OS 標準のファイアウォールを使用する場合は、ファイアウォールの設定画面にある「Windows ファイアウォールによる新しいプログラムのブロック時に通知を受け取る」にチェックを入れないでください。チェックを入れた場合は、Setup Wizard 実行時に「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示されることがあります。「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示された場合は「ブロックを解除する」ボタンを押してください。

付録 B.2 ユーザアカウント制御

該当 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012

該当 OS ではユーザアカウント制御が有効になっていると、Setup Wizard 実行時にユーザアカウント制御ダイアログが出力されることがあります。Setup Wizard は管理者権限で実行する必要があるため、ユーザアカウント制御ダイアログの[続行]ボタンを押して Setup Wizard を実行してください。

付録 B.3 オンラインヘルプ

該当 OS : Windows Server 2012

該当 OS ではオンラインヘルプを使用できません。

このマニュアル内の「付録 C オンラインヘルプ」を参照してください。

該当 OS ではオンラインヘルプを表示しようとすると、以下のメッセージダイアログが表示されます。

「本 OS ではヘルプを表示しません。対象画面の説明はマニュアルを参照ください。マニュアル名称：Groupmax Version 6i サーバ環境設定ガイド」

付録 B.4 スタートメニューの表記

該当 OS : Windows Server 2012

「[スタート] メニュー」と表記している箇所は「[アプリ] 画面」に読み替えてください。

付録 C オンラインヘルプ

付録 C.1 はじめに

(1) このヘルプの使い方

Setup Wizard は、ユーザの手引としてオンラインヘルプを提供しています。

ヘルプには、操作方法やエラーメッセージなど作業中にすぐ知りたい情報が入っています。また、Setup Wizard の機能に関する情報が入っています。

次のような場合には、ヘルプを検索してご覧ください。

- 操作方法が分からない

ヘルプの目次を開いて、目的の操作に関する説明を表示してください。

- 作業中プロパティページ及びダイアログボックスの項目の意味が分からない

ヘルプ目次の「Setup Wizard 各プロパティページ及びダイアログボックスの説明」を開いて、ヘルプを検索してください。

- エラーメッセージが表示されたが…

Setup Wizard に何らかの支障があってエラーメッセージが表示された場合は、ヘルプの目次から「メッセージ」を開いて、メッセージ ID でヘルプを検索してご覧ください。エラーの原因と対処が参照できるようになっています。

メッセージ ID をキーワードにして、キーワード検索もできます。

- Setup Wizard の機能概要や利用方法を知りたい

ヘルプ目次の「Setup Wizard の概要」を開いて、知りたい説明を表示してください。

(2) このヘルプでの表記

このヘルプでは、製品名称又は総称を次に示す略語で表記します。

- Groupmax Server Setup Wizard Version 6 を Setup Wizard 又は Server Setup Wizard と表記します。
- Groupmax Address Server Version 7 を Groupmax Address Server と表記します。
- Groupmax Agent Server Version 5 を Groupmax Agent Server と表記します。
- Groupmax Document Manager Version 6 を Groupmax Document Manager と表記します。
- Groupmax High-end Document Manager Version 6 を Groupmax High-end Document Manager と表記します。
- Groupmax Facilities Manager Version 7 を Groupmax Facilities Manager と表記します。
- Groupmax Form Client - Design Version 6 を Groupmax Form と表記します。
- Groupmax Integrated Desktop Version 7 を Groupmax Integrated Desktop と表記します。
- Groupmax Mail Server Version 7 を Groupmax Mail Server と表記します。
- Groupmax Mail - SMTP Version 7 を Groupmax Mail - SMTP と表記します。
- Groupmax Object Server Version 6 を Groupmax Object Server と表記します。

- Groupmax High-end Object Server Version 6 を Groupmax High-end Object Server と表記します。
- Groupmax Scheduler Server Version 7 を Groupmax Scheduler Server と表記します。
- Groupmax Workflow Server Version 6 を Groupmax Workflow Server と表記します。
- Groupmax High-end Workflow Server Version 6 を Groupmax High-end Workflow Server と表記します。
- Groupmax Workflow Multi-Server Version 6 を Groupmax Workflow Multi-Server と表記します。
- Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 を Groupmax WWW と表記します。
- Groupmax World Wide Web for Scheduler Version 6 を Groupmax WWW for Scheduler と表記します。
- Microsoft(R) Word を Word と表記します。

本文中の「Windows NT」をご使用の OS に読み替えてください。

また、パス名の記述方法は、Windows NT の規則に従います。

(3) 他社商標

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。

Microsoft Word は、米国 Microsoft Corp.の商品名称です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

付録 C.2 Setup Wizard の概要

(1) Setup Wizard とは

Setup Wizard は、Groupmax のサーバプログラムの環境設定をウィザード方式で実行するプログラムです。

Groupmax を新規導入するときには多くの項目について設定が必要であり、データベース容量の計算など、専門知識が必要な作業もあります。Setup Wizard を使うと、ユーザ数などの設定項目を画面上で順に入力していただくだけで、必要最小限の環境設定ができます。

Setup Wizard の機能の概要について次に説明します。

サーバプログラムの新規導入時の環境設定

サーバプログラムを新規導入するときの環境設定ができます。Setup Wizard で設定した内容は、各サーバの環境設定ファイルに反映されます。また、環境設定ファイルへの反映と同時に、各サーバの起動もします。

サーバプログラムの構成変更

Setup Wizard での環境設定が完了した後に、データベースの拡張やサーバの追加が必要となった場合、構成変更ができます。ただし、構成変更をする前に、各サーバの環境設定ファイルのバックアップを採取する必要があります。

シングルサーバ構成のシステムの場合だけ、構成変更ができます。

Groupmax WWW の環境設定

Groupmax WWW サーバプログラムである Groupmax WWW の環境設定ができます。Setup Wizard で設定した内容は、Groupmax WWW の環境設定ファイルに反映されます。また、環境設定ファイルへの反映と同時に、Groupmax WWW の起動もします。

マルチサーバの環境設定

マルチサーバ構成の子サーバの環境設定をするときに、子サーバから親サーバに対してサイト、サーバ及びユーザの情報を登録できます。

環境設定の初期化

環境設定した内容を初期化して、環境設定前の状態に戻すことができます。

(2) 環境設定できるサーバプログラム

Setup Wizard で環境設定できるサーバプログラムを、次に示します。

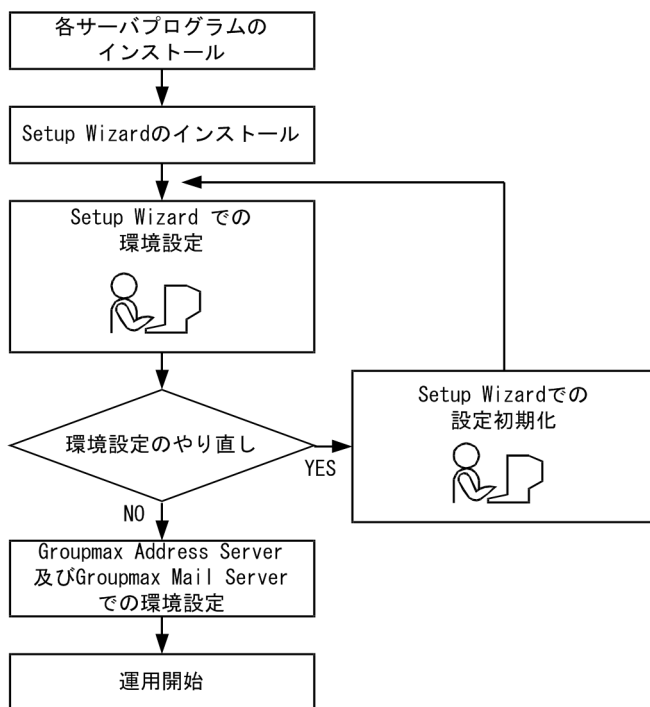
- Groupmax Address Server
- Groupmax Agent Server
- Groupmax Document Manager
- Groupmax High-end Document Manager
- Groupmax Facilities Manager
- Groupmax Mail Server
- Groupmax Mail - SMTP
- Groupmax Object Server
- Groupmax High-end Object Server
- Groupmax Scheduler Server
- Groupmax Workflow Server
- Groupmax High-end Workflow Server
- Groupmax Workflow Multi-Server
- Groupmax WWW
- Groupmax WWW for Scheduler

(3) Setup Wizard の利用方法

Setup Wizard には、環境設定の目的によって複数の利用方法があります。利用方法及び利用時の注意事項について次に説明します。

新規導入の場合

新規導入時の環境設定に利用する場合の作業の流れを次に示します。



組織情報については、Setup Wizard での環境設定の後に Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server で設定します。

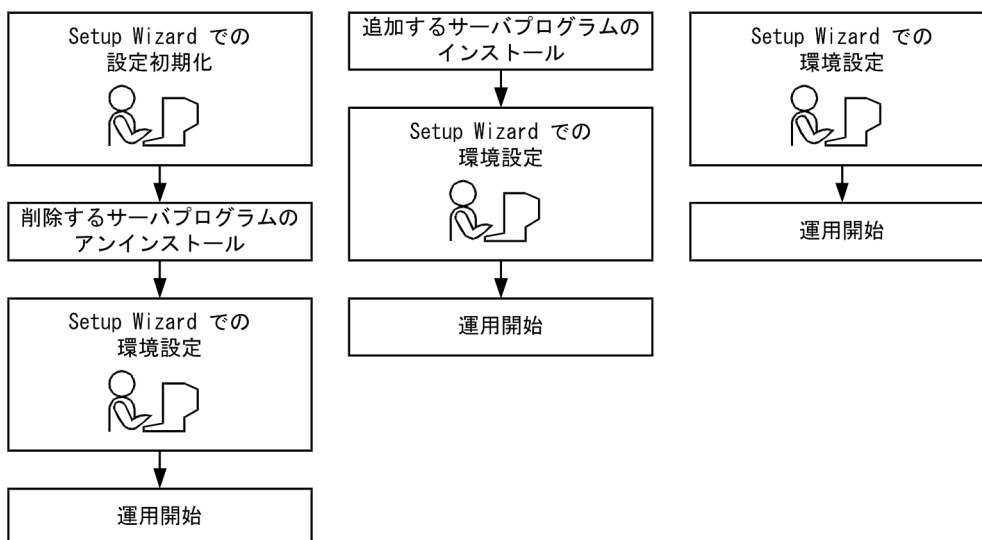
構成変更の場合

構成変更の場合は次に示す利用方法があります。

- サーバプログラムを削除する
- サーバプログラムを追加する
- 設定内容を変更する

構成変更を利用する場合の作業の流れを次に示します。

- サーバプログラムを削除する場合 ●サーバプログラムを追加する場合 ●設定内容を変更する場合



Groupmax WWW の環境設定の場合

WWW サーバ全般の環境設定をしてから, Setup Wizard を利用して Groupmax WWW の環境設定をします。

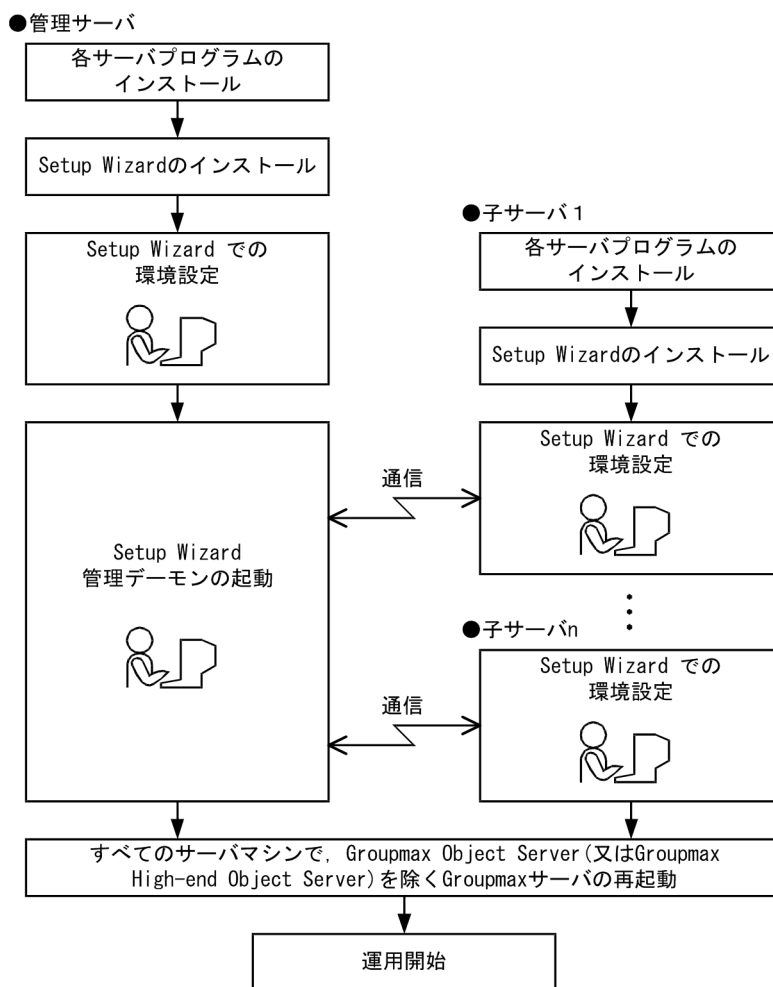
Groupmax WWW の環境設定に利用する場合の作業の流れを次に示します。



マルチサーバの環境設定の場合

マルチサーバの場合, すべてのサーバに Setup Wizard をインストールして管理サーバ, 子サーバの順で環境を設定します。

- 管理サーバの環境設定
新規導入の場合と同じ方法で環境を設定します。
- 子サーバの環境設定
管理サーバ上でマルチサーバ設定用の管理デーモンを起動してから, 子サーバ上の Setup Wizard で環境を設定します。
マルチサーバの環境設定に利用する場合の作業の流れを次に示します。



利用時の注意

Setup Wizard の利用時の注意事項を次に示します。

- Setup Wizard を起動する前に、すべての AP を終了させてください。
- 環境設定中は、Groupmax サーバの起動及び停止をしないでください。
- Setup Wizard で設定する項目は、各サーバプログラムが動作するために最小限必要な項目です。組織情報などの個々の情報は、各サーバプログラムで設定してください。

付録 C.3 Setup Wizard 設定初期化

(1) Setup Wizard 設定初期化について

Setup Wizard 設定初期化を実行すると、各サーバプログラムの設定状態をインストール直後の状態に戻すことができます。

設定されている情報はすべて削除されるため、あらかじめ各サーバプログラムの環境設定ファイルのバックアップを取得してください。

(2) Setup Wizard 設定初期化の操作

次に示す手順で操作してください。

(1) [スタート] – [プログラム] – [Groupmax サーバ] – [Server Setup Wizard 設定初期化] をクリックしてください。Setup Wizard 設定初期化プログラムが起動します。



(2) サーバプログラムが起動している場合、サーバプログラムを停止することを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。

(3) 初期化を実行すると、現在の設定情報が削除されることを確認するメッセージが表示されます。確認後、[初期化] をクリックします。

(4) 初期化を実行することを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。

(5) 初期化が実行され、処理メッセージが表示されます。

(6) 初期化終了のメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

Setup Wizard 設定初期化が終了します。

付録 C.4 Setup Wizard 環境設定

(1) Setup Wizard 環境設定について

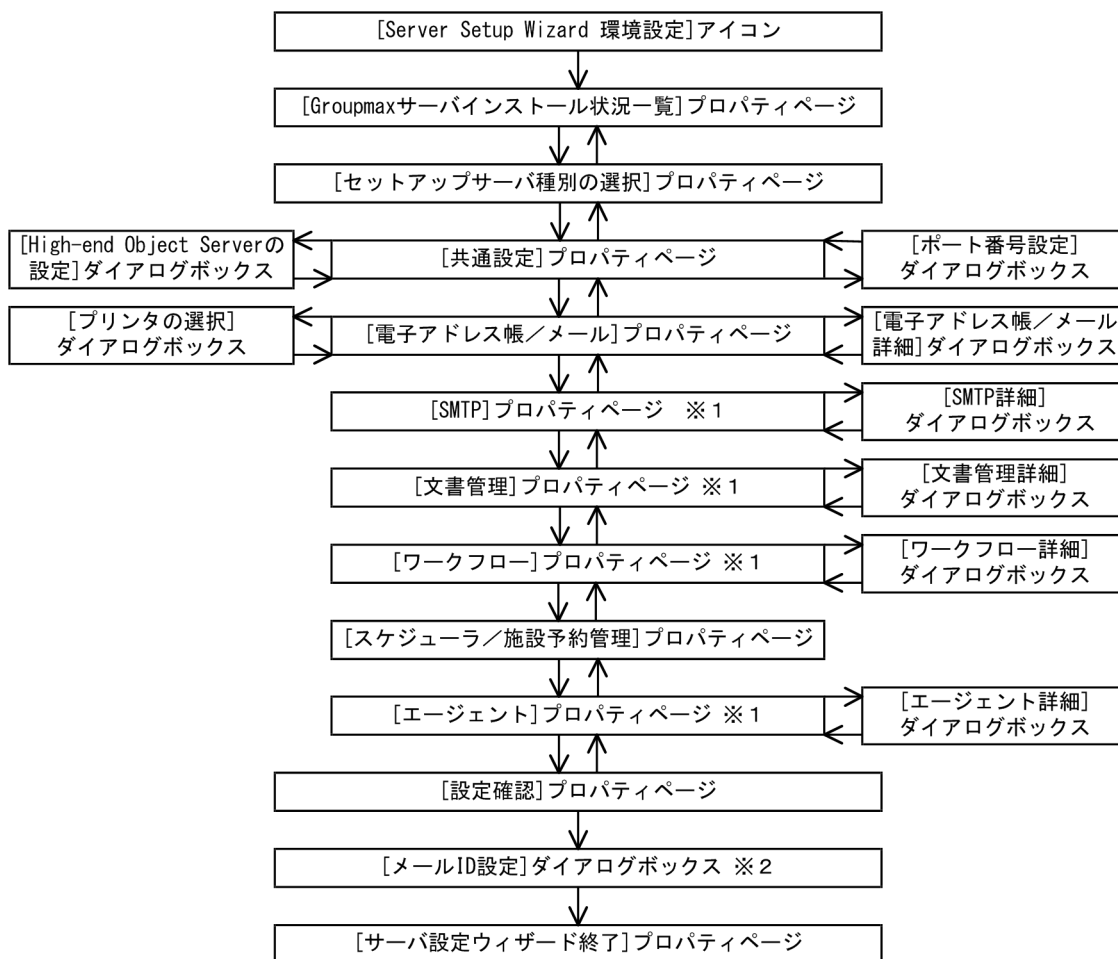
Setup Wizard 環境設定では、各サーバプログラムの環境設定をウィザード方式で一元的に行います。Setup Wizard での環境設定終了時から、Groupmax の各サーバプログラムは稼働状態となります。

Setup Wizard 環境設定の機能を次に示します。

- 各サーバプログラムの環境設定及び起動をします。
- Groupmax Address Server への組織 I D，ユーザ I D の登録をします。
- 各サーバプログラムのサービス自動起動をします。
- 設定済み環境の初期化をして、サーバプログラムの設定状態をインストール時の状態に戻します。

(2) 環境設定の操作の流れ

Setup Wizard 環境設定の操作の流れを次に示します。



注※ 1

環境設定をするサーバプログラムの選択によって表示されます。

注※ 2

子サーバの環境設定をする場合、及び構成変更をする場合は表示されません。

(3) Setup Wizard 環境設定を起動する

[スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Server Setup Wizard 環境設定] をクリックすると、Setup Wizard 環境設定プログラムが起動します。



また、Setup Wizard 環境設定の起動時に、次に示すポート番号が自動的に登録されます。

```
sswdaemon    20145/tcp    # Groupmax Server Setup Wizard
```

(4) 各プロパティページ及びダイアログボックスの説明

(a) [Groupmax サーバインストール状況一覧]プロパティページ

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでは、Groupmax のサーバプログラムのインストール状況を表示し、設定するサーバプログラムを選択します。

項目の説明

Groupmax サーバプログラムセットアップ一覧

- 選択
環境設定をするサーバプログラムを、チェックボタンで選択します。
- サーバプログラム名称
インストール済みのサーバプログラムの名称が表示されます。
- バージョン
インストール済みのサーバプログラムのバージョンが vv-rr-zz 形式で表示されます。
- 状態
インストール済みのサーバプログラムの設定状態が表示されます。
 - ・ 設定未完了
当該サーバの環境設定は未完了です。
 - ・ 設定完了済
当該サーバの環境設定は完了しています。
 - ・ —
当該サーバには環境設定の完了/未完了の区別はありません。

注 Groupmax Workflow Multi-Server の設定状態は、Setup Wizard と Groupmax 統合運転席で異なる場合があります。

ボタンの説明

- [次へ] ボタン
[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページに移ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(b) [セットアップサーバ種別の選択] プロパティページ

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページでは、Groupmax サーバの構成に合わせて設定種別を選択します。

項目の説明

Groupmax サーバプログラム一覧

- サーバプログラム名称
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで選択したサーバプログラムの一覧が表示されます。
- 設定種別
各サーバプログラムの設定種別が表示されます。
 - ・ シングルサーバ

シングルサーバとして設定します。

- ・ マスタ管理サーバ※1

Groupmax Address Server をマスタ管理サーバとして設定します。

- ・ アドレスサーバ※2

Groupmax Address Server をアドレスサーバとして設定します。

- ・ Workflow 管理サーバ

Groupmax Workflow Server を Workflow 管理サーバとして設定します。

- ・ Workflow サーバ

Groupmax Workflow Server を Workflow サーバとして設定します。

- ・ 親サーバ

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager を親サーバとして設定します。

- ・ 子サーバ

Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager を子サーバとして設定します。

- ・ -----

このサーバプログラムには、設定種別はありません。

注※1 Groupmax Address Server をマスタ管理サーバとして設定する場合とシングルサーバとして設定する場合の違いを次に示します。

- ・ システム内の全ユーザ数
マスタ管理サーバの場合：[共通設定] プロパティページで値を指定できます。
シングルサーバの場合：「このサーバに登録するユーザ数」と同じ値が設定されます。
- ・ オブジェクトサーバのノード ID
マスタ管理サーバの場合：設定されます。
シングルサーバの場合：設定されません。

注※2 あらかじめ管理サーバ上で [Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン] アイコンを起動しておく必要があります。

ボタンの説明

- ・ [設定種別の変更] ボタン
変更するサーバプログラム名を選択して [設定種別の変更] ボタンをクリックすると、設定種別を変更できます。変更するサーバプログラム名をダブルクリックしても、設定種別を変更できます。
- ・ [次へ] ボタン
[共通設定] プロパティページに移ります。
- ・ [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(c) [共通設定] プロパティページ

[共通設定] プロパティページでは、Groupmax のデータベース初期化/構成変更用パラメタとシステム共通定義パラメタを作成するための情報を設定します。

項目の説明

システム環境の設定

- システム内のユーザ数 (1~32500) 《デフォルト値：1~100》
Groupmax システム全体のユーザ数を指定します。
次に示す範囲のユーザ数をリストボックスで選択できます。
 - ・ 1~100
 - ・ 101~1,000
 - ・ 1,001~5,000
 - ・ 5,001~10,000
 - ・ 10,001~20,000
 - ・ 20,001~32,500また、ユーザ数を直接入力することもできます。
Groupmax Address Server をシングルサーバとして設定する場合、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。
- このサーバに登録するユーザ数 (1~5000) 《デフォルト値：1~10》
このサーバをホームサーバとするユーザ数を指定します。
次に示す範囲のユーザ数をリストボックスで選択できます。
 - ・ 1~10
 - ・ 11~50
 - ・ 51~100
 - ・ 101~500
 - ・ 501~1,000
 - ・ 1,001~2,000
 - ・ 2,001~3,000
 - ・ 3,001~4,000
 - ・ 4,001~5,000また、ユーザ数を直接入力することもできます。
- システム停止時のデバッグ情報の出力先 《デフォルト値：WindowsNT のインストール先ディレクトリ》
システムで指定した、システム停止時のデバッグ情報の出力先ディレクトリを指定します。このディレクトリは、Windows 2000 Server の場合は [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] - [詳細] - [起動/回復] の画面で [最小ダンプ ディレクトリ] または [ダンプ ファイル] の項目に指定したディレクトリです。Windows Server 2003 の場合は [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] - [詳細設定] - [起動と回復] の画面で [最小ダンプ ディレクトリ] または [ダンプ ファイル] の項目に指定したディレクトリです。Windows Server 2008 の場合は [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [システム] - [システムの詳細設定] - [起動と回復] の画面で [最小ダンプ ディレクトリ] または [ダンプ ファイル] の項目に指定したディレクトリです。
このディレクトリには、実装メモリ分の空き容量が必要です。
- 性能優先モード(共有メモリ上限拡大) 《デフォルト値：指定なし》
共有メモリの上限を拡大して性能を優先するかどうかを、チェックボタンで指定します。

データベースの作成

- データベース名称 (スキーマ名称) 《デフォルト値："gmax"》
データベースに付与するデータベース名称 (スキーマ名称) を指定します。

63バイト以内の文字列で指定します。英大文字、英小文字、数字、_(アンダーライン)及び2バイトコードが使用できます。なお、「IS_」、「WF_」、_(アンダーライン)で始まる文字、「MASTER」を含む文字列、及び空白は使用できません。

- データベース作成ディレクトリ《デフォルト値："E:¥OBJECTSV¥DATABASE" ただし、ドライブEがない又は固定ディスクでない場合、"(Groupmax Object Server のインストール先のドライブ)¥OBJECTSV¥DATABASE"》

データベースを作成するディレクトリのパス名称を175バイト以内の文字列で指定します。

ネットワークドライブは指定できません。

このディレクトリは、性能及び運用の観点から、Windows NT 及びサーバプログラムのインストール先とは別の独立したボリュームに作成することをお勧めします。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリパス名を選択できます。

- プログラム毎の設定《デフォルト値：指定なし》

プログラム毎にデータベースを作成するかどうかをチェックボタンで指定します。

このチェックボタンを指定すると、プログラム毎に異なるディレクトリにデータベースを作成できます。プログラム毎のデータベース作成ディレクトリのパス名は、各サーバプログラムの [詳細] ダイアログボックスで設定します。

- 構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ《デフォルト値："(Groupmax Object Server のインストール先のパス名)¥spool¥work"》

構成変更の場合に、データベースを更新するための一時ファイルを格納するディレクトリのパス名を128バイト以内の文字列で指定します。この一時ファイルは、Groupmax Object Server の「データベースのエリア再作成ユティリティ」でデータベースを更新するときに使用されます。

パス名にネットワークドライブは指定できません。また、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名」下にディレクトリを作成する場合は、パス名を指定しないでデフォルトを使用してください。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

新規導入時は、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

通信環境の設定

- ホスト名称《デフォルト値：DNS のホスト名》
使用している DNS のホスト名が表示されます。変更はできません。
- IP アドレス《デフォルト値：ホスト名称に対応する IP アドレス》
ホスト名称に対応する IP アドレスが表示されます。
IP アドレスが複数登録されている場合、ドロップダウンリストボックスから IP アドレスを選択できます。

簡易ジャーナルファイルの設定

- 簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ《デフォルト値："(Groupmax Object Server のインストール先のパス名)¥spool"》

Groupmax Object Server で使用する簡易ジャーナルファイルを作成するディレクトリのパス名を、145バイト以内の文字列で指定します。

パス名にネットワークドライブは指定できません。また、「Groupmax Object Server のインストール先のパス名」下にディレクトリを作成する場合は、パス名を指定しないでデフォルトを使用してください。

[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

Groupmax High-end Object Server がインストールされている場合、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

構成変更時の注意

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 性能優先モード(共有メモリ上限拡大)
- データベース名称 (スキーマ名称)
- データベース作成ディレクトリ
- プログラム毎の設定
- ホスト名称
- IPアドレス
- 簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ
- [High-end Object Server] ボタン
また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。
- このサーバに登録するユーザ数

ボタンの説明

- [ポート番号] ボタン
[ポート番号設定] ダイアログボックスを表示します。
- [High-end Object Server] ボタン
[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスを表示します。
Groupmax High-end Object Server がインストールされていない場合、このボタンは非活性表示となります。
- [戻る] ボタン
[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページに戻ります。
- [次へ] ボタン
[電子アドレス帳/メール] プロパティページに移ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(d) [ポート番号設定] ダイアログボックス

Groupmaxのサーバプログラムでは、ネットワーク環境にTCP/IPを使用しています。このため、オペレーティングシステムの通信設定ファイル (servicesファイル) に、Groupmaxの各サーバプログラムで使用するポート番号の設定が必要です。[ポート番号設定] ダイアログボックスでは、Groupmaxのサーバプログラムで使用するポート番号を設定します。

項目の説明

Groupmaxのサーバプログラムで使用するサービス名の一覧とポート番号の推奨値が表示されます。推奨値は変更できますが、クライアントのポート番号の設定と同期して変更する必要があります。なお、popcfg、pop3及びimapを変更する場合は、注※を参照してください。各サーバプログラムで使用するポート番号とサービス名が、既に通信設定ファイル (servicesファイル) に設定されていた場合は、設定されていた番号が表示されます。

注※ popcfg、pop3及びimapのポート番号は一般的な番号(well-known port)のため、画面上での変更はできません。変更の必要がある場合は、システムのservicesファイル(Windows NTのインストール先のパス名¥system32¥drivers¥etc¥services)を直接編集してください。

ボタンの説明

- [デフォルト] ボタン
ポート番号として、ポート番号の推奨値を表示します。
- [OK] ボタン
設定を有効にして、[共通設定] プロパティページに戻ります。
実際の通信設定ファイルの値は [設定確認] プロパティページで [サーバ起動] ボタンを押したときに設定されます。
- [キャンセル] ボタン
設定を無効にして、[共通設定] プロパティページに戻ります。

ポート番号とサービス名称

Groupmaxのサーバプログラムのサービス名と推奨するポート番号は次のとおりです。

プログラム名称	サービス名称	推奨するポート番号
Groupmax Address Server Mail Server	plam_tcp	7800/tcp
	x400cfg_srv	7801/tcp
	x400cfg_agt	7802/tcp
	x400cfg_mng	7803/tcp
	adrshd	20141/tcp
	popcfg	106/tcp
	pop3	110/tcp
	imap	143/tcp
	上記以外	9000~9999/tcp
Groupmax Document manager	infoshare	40005/tcp
Groupmax Workflow Server	workflow	40076/tcp
Groupmax Scheduler Server	ikisaki	20013/tcp
	appoman	20014/tcp
Groupmax Facilities Manager	appoarea	20102/tcp
	roomman	20103/tcp
Groupmax	agcscm	20027/tcp
Agent Server	agsvrcon	20028/tcp
	aggml	20039/tcp

(e) [High-end Object Server の設定] ダイアログボックス

[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスでは、Groupmax High-end Object Server の必須指定項目を設定します。

項目の説明

ステータスファイルの設定

- 論理ファイル名
ステータスファイルの論理ファイル名が表示されます。
- A 系ファイル名
論理ファイルを構成する A 系ステータスファイル名が表示されます。
- B 系ファイル名
論理ファイルを構成する B 系ステータスファイル名が表示されます。

《デフォルト値》

ステータスファイルのデフォルトとして、次に示すファイル名が表示されます。

- 論理ファイル名：stsfile1
A 系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile1A
B 系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile1B
- 論理ファイル名：stsfile2
A 系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile2A
B 系ファイル名：F:\OBJSVFILE\XODFILESTS1\stsfile2B
- 論理ファイル名：stsfile3
A 系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile3A
B 系ファイル名：G:\OBJSVFILE\XODFILESTS2\stsfile3B

ドライブ F 及び G がない又は固定ディスクでない場合は、Groupmax Object Server のインストール先のドライブが表示されます。

- [追加] ボタン
[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、ステータスファイルを追加できません。
- [削除] ボタン
削除するステータスファイル名を選択して [削除] ボタンをクリックすると、ステータスファイルを削除できます。
- [修正] ボタン
修正するステータスファイル名を選択して [修正] ボタンをクリックすると、[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、ステータスファイルの情報を修正できます。
修正するステータスファイル名をダブルクリックする方法でも [ステータスファイルの設定] ダイアログボックスを表示できます。

システムジャーナルファイルの設定

- グループ名
システムジャーナルファイルのグループ名が表示されます。
- 開始状態
オンライン開始時のジャーナルファイルの状態が表示されます。
- 物理ファイル名
ファイルグループを構成する物理ファイル名が表示されます。

《デフォルト値》

システムジャーナルファイルのデフォルトとして、次に示すファイル名が表示されます。開始状態は、すべてオープンとなります。

- グループ名：jnlfile1
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile1
- グループ名：jnlfile2
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile2
- グループ名：jnlfile3
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile3
- グループ名：jnlfile4
物理ファイル名：F:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile4
- グループ名：jnlfile5
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile5
- グループ名：jnlfile6
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile6
- グループ名：jnlfile7
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile7
- グループ名：jnlfile8
物理ファイル名：G:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile8
ドライブ F 及び G がない又は固定ディスクでない場合は、Groupmax Object Server のインストール先のドライブが表示されます。
- [追加] ボタン
[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、システムジャーナルファイルを追加できます。
- [削除] ボタン
削除するシステムジャーナルファイル名を選択して [削除] ボタンをクリックすると、システムジャーナルファイルを削除できます。
- [修正] ボタン
修正するシステムジャーナルファイル名を選択して [修正] ボタンをクリックすると、[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスが表示され、システムジャーナルファイルの情報を修正できます。
修正するシステムジャーナルファイル名をダブルクリックする方法でも [システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスを表示できます。
- アンロードされていないファイルを交代選択先の対象とする《デフォルト値：指定なし》
交代先を選択するときに、アンロードされていないファイルであっても交代選択時の対象とするかどうかを、チェックボタンで指定します。
- システム再開時にジャーナルをスワップする《デフォルト値：指定なし》
システム再開時にジャーナルをスワップするかどうかを、チェックボタンで指定します。
- チェックポイントを取得する間隔(100~32000 ブロック)
チェックポイントを取得する間隔(ジャーナルブロック数)を指定します。

データベースファイルには、チェックポイントごとに、それまでのデータベースのすべての更新内容が反映されます。Groupmax High-end Object Server の再開始時には、チェックポイント以降のジャーナルを基にデータベースが回復されます。

データベースの回復時間はジャーナル件数に比例するため、再開始時間に合ったチェックポイント間隔を指定してください。

また、この値を大きくすることで、データベースファイルの更新回数を削減するなどのチューニングができます。チューニングについては、連携する Groupmax サーバプログラムの指示に従ってください。

《デフォルト値》

- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用しない場合：100
- Groupmax Mail Server を使用する場合：200
- Groupmax Mail Server 及び Groupmax Workflow Server を使用する場合：300

ボタンの説明

- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[共通設定] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[共通設定] プロパティページに戻ります。

(f) [ステータスファイルの設定] ダイアログボックス

[ステータスファイルの設定] ダイアログボックスでは、ステータスファイルの情報を設定します。

項目の説明

- 論理ファイル名
ステータスファイルの論理ファイル名を、1～8文字で指定します。半角で、英大文字、英小文字、数字、及び_(アンダーバー)を指定できます。ただし、先頭文字には数字を指定できません。
論理ファイルは、それぞれ別のディスク上に作成することをお勧めします。
- A系ファイル名
A系ステータスファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。
このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。
レコード数は、固定で32となります。
- B系ファイル名
B系ステータスファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。
このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。
レコード数は、固定で32となります。

注 ハードディスク障害時にすべてのステータスファイルが障害とならないようにするため、A系ファイルとB系ファイルは別のディスク上に作成することをお勧めします。同様に、それぞれの論理ファイルも別のディスク上に作成することをお勧めします。すべてのステータスファイルに障害が発生すると、Groupmax High-end Object Server は異常終了し、自動再起動ができない状態になります。

ボタンの説明

- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスに戻ります。

- [キャンセル] ボタン

設定した値を無効にして、[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスに戻ります。

(g) [システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックス

[システムジャーナルファイルの設定] ダイアログボックスでは、システムジャーナルファイルの情報を設定します。

項目の説明

- ファイルグループ名
ジャーナルファイルのファイルグループ名を、1～8文字で指定します。半角で、英大文字、英小文字、数字、及び_(アンダーバー)を指定できます。ただし、先頭文字には数字を指定できません。
- 物理ファイル名
物理ファイル名を、ドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリを参照できます。
このファイルは新規に生成されるため、既存のファイルは指定できません。
性能及び運用の観点から、データベースが格納されているドライブとは別のディスク上に物理ファイルを作成することをお勧めします。
また、ハードディスクの障害時にすべての物理ファイルが障害とならないようにするため、複数のディスクに物理ファイルを作成することをお勧めします。
- 作成サイズ(80～1048576KB) 《デフォルト値:100000(約 100MB)》
ジャーナルファイルの作成サイズを指定します。ただし、実際に作成されるサイズは、4KB 単位で切り上げとなります。
- オンライン開始と同時にオープンする 《デフォルト値:指定あり》
このファイルグループをオンライン開始と同時にオープンするかどうかを、チェックボタンで指定します。
2つ以上のジャーナルファイルグループに、同時にオープンする物理ファイルが必要です。

ボタンの説明

- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[High-end Object Server の設定] ダイアログボックスに戻ります。

(h) [電子アドレス帳／メール] プロパティページ

[電子アドレス帳／メール] プロパティページでは、電子アドレス帳及びメールサーバプログラムの必須指定項目を設定します。

項目の説明

電子アドレス帳／メール

- サイト名 《デフォルト値:"SITE0"》
ドメイン内のサーバを管理するためのサイト名を指定します。
 - 全角文字の場合は16文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。
 - 半角文字の場合は32文字まで指定できます。ただし、空白、「¥」及び「"」は指定できません。

アドレスサーバとして設定する場合は、管理サーバ名を指定してから [サイト参照] ボタンをクリックすると、指定した管理サーバに登録されているサイトの一覧が表示され、サイト名を選択できます。

- [サイト参照] ボタン

指定した管理サーバに登録されているサイトの一覧を [サイト選択] ダイアログボックスに表示します。このボタンは、アドレスサーバとして設定する場合だけ使用できます。また、管理サーバ名が正しく指定されていない場合、[サイト選択] ダイアログボックスは表示されずにエラーになります。

- サーバ名《デフォルト値：DNSのホスト名》

自サーバ名を指定します。

- 全角文字の場合は16文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。

- 半角文字の場合は32文字まで指定できます。ただし、空白、「¥」及び「“」は指定できません。

シングルサーバ又は管理サーバとして環境を設定する場合、マスタ管理サーバとメールサーバに同じサーバ名が設定されます。

子サーバとして環境を設定する場合、アドレスサーバとメールサーバに同じサーバ名が設定されません。

- プリンタ名《デフォルト値：“lp0”》

メール運転席の印刷機能を使用する場合、出力先のプリンタの名称を指定します。

- 全角文字の場合は64文字まで指定できます。

- 半角文字の場合は128文字まで指定できます。ただし、空白は指定できません。

[プリンタ参照] ボタンをクリックすると、ドメイン内のネットワークプリンタを選択できます。

- [プリンタ参照] ボタン

[プリンタの選択] ダイアログボックスを表示します。

- 管理サーバ名

[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Address Server の設定種別をアドレスサーバにした場合に、マスタ管理サーバのサーバ名称を指定します。

設定種別をシングルサーバ又はマスタ管理サーバにした場合には、この項目を指定する必要はありません。表示は非活性になります。

メール使用時のオプション

- 回覧を使用する《デフォルト値：指定あり》

回覧機能を使用するかどうかを、チェックボタンで指定します。[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページで Groupmax Mail Server を選択した場合だけ指定できます。

構成変更時の注意

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- サイト名
- サーバ名
- プリンタ名
- 管理サーバ名
- 回覧を使用する
- 詳細

また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。

ボタンの説明

- [詳細] ボタン
[電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックスを表示します。
- [次へ] ボタン
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページのプログラム選択でチェックされたサーバプログラムのプロパティページに移ります。
ほかに選択されたサーバプログラムがない場合、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
[共通設定] プロパティページへ戻ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(i) [電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックス

[電子アドレス帳／メール詳細] ダイアログボックスでは、[共通設定] プロパティページで指定した内容から算出した電子アドレス帳及びメールサーバプログラムのパラメタを参照・更新できます。

項目の説明

電子アドレス帳／メール

- 全組織数 (1~9999) 《デフォルト値：全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
1人以上のユーザから構成される集りが組織であり、会社の構造に例えると部や課に相当します。
この組織の総数を指定します。
- 1ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均 (1~8) 《デフォルト値：1》
見出し (項目) の数を指定します。ユーザ任意情報を使用しない場合は1を指定します。
- 送信メール1通あたりの宛先数の平均 (1~999) 《デフォルト値：2》
メールを送信する場合の宛先数の平均値を入力します。個人メール中心であれば1~2、業務上、宛先数が多いことが判明している場合は、その値を指定します。
- 全マスタ掲示板数 (1~9999) 《デフォルト値：全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
掲示物を登録するものが掲示板であり、マスタ掲示板とレプリカ (マスタ掲示板の複写) 掲示板から構成されます。すべての掲示板のうち、レプリカ掲示板を除いた掲示板の総数を指定します。
- 1つのメールボックスが保持する受信メールの平均 (1~999) 《デフォルト値：全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
メールボックスは組織、ユーザ単位に作成します。この1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均を指定します。
- 1人が1日に送信するメール数 (1~999) 《デフォルト値：5》
1人のユーザが1日に送信するメール数の平均を指定します。
- サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均 (1~999999) 《デフォルト値：全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
1つのサーバが1日に受信するメール数の平均を指定します。
- E-mail アドレスの平均長 (1~256) 《デフォルト値：50》
E-mail アドレスの平均長を指定します。

- ディレクトリ名称《デフォルト値：" [共通設定] プロパティページで指定したデータベース作成ディレクトリ"》
データベースファイルを作成するディレクトリ名を175バイト以内の文字列で指定します。[共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] チェックボタンを指定した場合だけ、この項目を指定できます。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

構成変更時の注意

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- ディレクトリ名称
- [デフォルト] ボタン
また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。
- 全組織数
- 1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均
- 送信メール1通あたりの宛先数の平均
- 全マスタ掲示板数
- 1つのメールボックスが保持する受信メールの平均
- 1人が1日に送信するメール数
- サーバが1日あたりに受信するメール数の平均
- E-mail アドレスの平均長

ボタンの説明

- [デフォルト] ボタン
画面の設定値を、[共通設定] プロパティページの内容からシステムが算出したデフォルト値に戻します。
- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[電子アドレス帳/メール] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[電子アドレス帳/メール] プロパティページに戻ります。

(j) [プリンタの選択] ダイアログボックス

[プリンタの選択] ダイアログボックスでは、使用するプリンタを選択します。

項目の説明

プリンタの選択

- 表示形式《デフォルト値：大きいアイコン》
表示形式として大きいアイコン、小さいアイコン、詳細、一覧が選択できます。

ボタンの説明

- [OK] ボタン
設定を有効にして、[電子アドレス帳/メール] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定を無効にして、[電子アドレス帳/メール] プロパティページに戻ります。

(k) [SMTP] プロパティページ

[SMTP] プロパティページでは、Groupmax Mail - SMTP の必須指定項目を設定します。

項目の説明

SMTP

- INTERNET ドメイン名《デフォルト値：smtpgw.DNSのホスト名》
Groupmax Mail - SMTP の環境に割り当てられているドメインのサブドメインを指定します。
ここに設定したドメイン宛にはメールの送信はできません。
次に示す規則に従って指定してください。
 - 使用できる文字列は半角英数字だけです。
 - 区切り文字には.(ピリオド)を指定できます。
 - INTERNET ドメイン名全体の長さは 256 文字以内で指定します。
- sendmail の実行ファイル名称
sendmail の実行ファイル名称をフルパス名で指定します。[参照] ボタンをクリックすると、ファイル名を選択できます。

《デフォルト値》

- 次に示すレジストリが存在する場合、「レジストリの設定値+¥sendmail.exe」が表示されます。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥MetaInfo¥Sendmail¥Parameters
¥InstallDirectory
- レジストリが存在しない場合、「システムディレクトリのニモニック+¥sendmail ¥sendmai.exe」が表示されます。

SMTP の固定値について

次に示す項目については、自動的に値が設定されます。

項目	値
ゲートウェイの監視時間 (gw_poll_time)	10
送出文字コード (主題, 本文) (send_code)	MIME
送出文字コード (ファイル名) (send_fname)	AUTO
受信文字コード (主題, 本文, ファイル名) (recv_code)	SJIS
Internet 送出モード (sendflag)	normal
ロングファイル名の設定 (long_fname)	SEND_ALLOW
リッチテキストファイル送信制御の設定 (send_rtf_body)	RTF_DENY
アドレスマッピングルールの優先順位に関する設定 (mapping_mode)	all
半角仮名文字送出制御 (kana_mode)	convert
MIME 主題分割送出制御 (mime_subject)	no_split
Message-ID フォーマットの設定 (msgid_mode)	rfc1327
エラーログレベルの設定 (error_level)	none
BCC 受信者の設定 (bcc_recipients)	OFF

項目	値
ユーザ情報の更新方法に関する設定 (modifying_dbfile)	auto
送受信者制限に関する設定 (permission_mode)	all
X.400 ドメイン名の設定 (X400DOMAIN)	X400DOMAIN=/C=JP/ ADMD=smtpgw/PRMD =smtpgw

構成変更時の注意

[詳細] ボタンも含めて、すべての項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

ボタンの説明

- [詳細] ボタン
[SMTP 詳細] ダイアログボックスを表示します。
- [次へ] ボタン
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページのプログラム選択でチェックされたサーバプログラムのプロパティページに移ります。
ほかに選択されたサーバプログラムがない場合、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
1つ前のプロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(l) [SMTP 詳細] ダイアログボックス

[SMTP 詳細] ダイアログボックスでは、Groupmax Mail - SMTP の詳細指定項目を設定します。

項目の説明

ログファイルの設定

- ログファイルの最大サイズ(1000~10000KB) 《デフォルト値：1000》
ログファイルの最大サイズを KB 単位で指定します。
- ログファイルのバックアップ数(5~100) 《デフォルト値：5》
ログファイルのバックアップ数を指定します。

ボタンの説明

- [デフォルト] ボタン
画面の設定値をデフォルト値に戻します。
- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[SMTP] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[SMTP] プロパティページに戻ります。

(m) [文書管理] プロパティページ

[文書管理] プロパティページでは、文書管理サーバプログラムの必須指定項目を設定します。

項目の説明

文書管理

- 文書実体ディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Document Manager のインストール先のパス名》
文書実体ディレクトリ名を指定します。58バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- 作業領域ディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Document Manager のインストール先のパス名》
作業領域ディレクトリ名を指定します。56バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- スプールディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Document Manager のインストール先のパス名》
スプールディレクトリ名を指定します。55バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

注※

- ディレクトリ名には、次に示す文字を使用できません。
「」, 「?」, 「*」, 「/」, 「(」, 「)」, 「<」, 「>」, 「*」, 「|」, 「:」, 「¥」
- ディレクトリの最後に「.」は指定できません。
- ディレクトリとディレクトリの区切りには「¥」を使用してください。
- ディレクトリとドライブの区切りには「:」を使用してください。
- ドライブの省略はできません。

構成変更時の注意

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 文書実体ディレクトリ名称
- 作業領域ディレクトリ名称
- スプールディレクトリ名称
また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。
- 詳細

ボタンの説明

- [詳細] ボタン
[文書管理詳細] ダイアログボックスを表示します。
- [次へ] ボタン
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページのプログラム選択でチェックされたサーバプログラムのプロパティページに移ります。
ほかに選択されたサーバプログラムがない場合、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
1つ前のプロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン

環境設定を中止します。

(n) [文書管理詳細] ダイアログボックス

[文書管理詳細] ダイアログボックスでは、[共通設定] プロパティページで指定した内容から算出した文書管理サーバプログラムのパラメタを参照・更新できます。

項目の説明

文書管理

- 一般文書データベース数 (1~5000) 《デフォルト値: 50》
文書データベースとは、議事録や営業日報など目的別に分類した文書のまとまりを管理する単位であり、一般文書データベースとフォーム文書データベースから構成されます。このうち一般文書データベース数を指定します。
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数 (0~100) 《デフォルト値: 0》
一般文書で使用する項目のうち、文字列情報を管理する属性を、一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性と呼びます。1つの一般文書データベースに定義するこの属性数の平均値を指定します。
- 全一般文書数 (0~1000000) 《デフォルト値: 全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
サーバへ格納予定の一般文書の総数を指定します。
- フォーム文書データベース数 (0~5000) 《デフォルト値: 0》
文書データベースとは、議事録や営業日報など目的別に分類した文書のまとまりを管理する単位であり、一般文書データベースとフォーム文書データベースから構成されます。このうちフォーム文書データベース数を指定します。
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数 (0~100) 《デフォルト値: 0》
フォーム文書で使用する項目のうち、文字列情報を管理する属性を、フォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性と呼びます。1つのフォーム文書データベースに定義するこの属性数の平均値を指定します。
- 全フォーム文書数 (0~1000000) 《デフォルト値: 0》
サーバへ格納予定のフォーム文書の総数を指定します。
- フォルダ数 (2~1000000) 《デフォルト値: 全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
一般文書を分類・格納するものがフォルダです。このフォルダの総数を指定します。
- 分類、分類索引の総数 (0~1000000) 《デフォルト値: 全体のユーザ数及び登録するユーザ数に合わせた値》
文書データベースに作成した文書は、所属組織や業務に合わせた観点から分類して管理できます。分類の単位を分類索引と呼びます。この値と分類の値を加えたものを指定します。
- 文書あたりに保持するバージョン数 (0~99) 《デフォルト値: 2》
文書が保持するバージョン数を指定します。
- 1ユーザあたりの同時アクセス文書数 (1~999) 《デフォルト値: 2》
1人のユーザがログイン中に参照、編集などの操作をする文書数を指定します。
- 同時ログインユーザ数 (1~256 又は 1~1000) 《デフォルト値: [共通設定] プロパティページで指定した「このサーバに登録するユーザ数」の値》
同時にログインするユーザの最大数を指定します。

- ・ Groupmax Document Manager の場合は、1～256 の範囲で指定します。
- ・ Groupmax High-end Document Manager の場合は、1～1,000 の範囲で指定します。
- ・ 複数グループアクセス機能を使用する《デフォルト値：指定なし》
複数グループアクセス機能を使用するかどうかを、チェックボタンで指定します。
- ・ ディレクトリ名称《デフォルト値：" [共通設定] プロパティページで指定したデータベース作成ディレクトリ"》
データベースファイルを作成するディレクトリ名を指定します。175バイト以内の文字列で指定します。[共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] チェックボタンを指定した場合だけ、この項目を指定できます。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

High-end Document Manager

- ・ 文書管理データベースへの同時アクセス数(1～32)《デフォルト値：4》
Groupmax High-end Document Manager から Groupmax Object Server への同時アクセス数を指定します。

構成変更時の注意

次に示す項目及びボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- ・ ディレクトリ名称
- ・ [デフォルト] ボタン
- ・ 複数グループアクセス機能を使用する
また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。
- ・ 一般文書データベース数
- ・ 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数
- ・ 全一般文書数
- ・ フォーム文書データベース数
- ・ 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数
- ・ 全フォーム文書数
- ・ フォルダ数
- ・ 分類、分類索引の総数
- ・ 文書あたりに保持するバージョン数
- ・ 1ユーザあたりの同時アクセス文書数
- ・ 同時ログインユーザ数
- ・ 文書管理データベースへの同時アクセス数

ボタンの説明

- ・ [デフォルト] ボタン
画面の設定値を、[共通設定] プロパティページの内容から算出したデフォルト値に戻します。
- ・ [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[文書管理] プロパティページに戻ります。
- ・ [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[文書管理] プロパティページに戻ります。

(o) [ワークフロー] プロパティページ

[ワークフロー] プロパティページでは、ワークフローサーバプログラムの必須指定項目を設定します。

項目の説明

ワークフロー

- 文書実体ディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名》
文書実体ディレクトリを指定します。122バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- ワークエリアディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名》
ワークエリアディレクトリを指定します。119バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名を選択できます。
- ログ情報エリアディレクトリ名称《デフォルト値：Groupmax Workflow Server のインストール先のパス名》
ログ情報エリアディレクトリを指定します。120バイトまでの文字列で指定してください。
使用できる文字については注※を参照してください。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

注※

- 「?」, 「”」, 「/」, 「¥」, 「<」, 「>」, 「*」, 「|」, 「:」, 半角スペースは使用できません。
- ディレクトリとディレクトリの区切りには「¥」を使用してください。
- ディレクトリとドライブの区切りには「:」を使用してください。
- ドライブの省略はできません。
- 次のディレクトリは指定できません。
%Wfdir%\¥SVbin,%Wfdir%\¥SVlib,%Wfdir%\¥SVetc,%Wfdir%\¥tools,%Wfdir%\¥SVadm,
%Wfdir%\¥SVsample
(%Wfdir%は Groupmax Workflow Server のインストール先ディレクトリを示します。)

マルチサーバ関連

- 管理サーバ名称
[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Workflow Server の設定種別を Workflow サーバにした場合に、Workflow 管理サーバのホスト名称を指定します。hosts ファイル又は DNS データベースでアドレスの管理ができるホストの名称を指定する必要があります。
設定種別がシングルサーバ又は Workflow 管理サーバの場合は DNS のホスト名が設定され、変更はできません。

構成変更時の注意

次に示す項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- 文書実体ディレクトリ名称
- ワークエリアディレクトリ名称

- ログ情報エリアディレクトリ名称
また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。
- 詳細

ボタンの説明

- [詳細] ボタン
[ワークフロー詳細] ダイアログボックスを表示します。
- [次へ] ボタン
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページのプログラム選択でチェックされたサーバプログラムのプロパティページに移ります。
ほかに選択されたサーバプログラムがない場合、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
1つ前のプロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(p) [ワークフロー詳細] ダイアログボックス

[ワークフロー詳細] ダイアログボックスでは、[共通設定] プロパティページで指定した内容から算出したワークフローサーバプログラムのパラメタを参照・更新できます。

項目の説明

ワークフロー

- 1日あたりのワーク数 (1~9999) 《デフォルト値: 500》
1日の案件投入件数の平均値を指定します。
- ワーク処理日数 (1~999) 《デフォルト値: 10》
ソースノードから投入した回覧データがシンクノードで終了するまでの平均処理日数を指定します。
- ワーク保存日数 (1~999) 《デフォルト値: 7》
終了したワークを保存する日数を指定します。
保存日数を過ぎたワークはワーク削除ユティリティで削除できます。
- 1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数 (1~999) 《デフォルト値: 10》
ビジネスプロセス上で、ユーザ又はシステムが何らかの処理をする場所をノードと呼びます。ビジネスプロセス上の平均ノード数を指定します。
- ビジネスプロセス定義数 (1~9999) 《デフォルト値: 50》
基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れをビジネスプロセスと呼びます。このビジネスプロセス定義の総数を指定します。
- ワーク内のケース数 (1~999) 《デフォルト値: 1》
ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物をケースと呼びます。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケースのほかに、システムが自動的に作成するルートケースがあります。ワーク内の平均ケース数を指定します。
- ケース内の文書数 (1~999) 《デフォルト値: 1》

ケースに格納して送付する書類を文書と呼びます。文書は、各種アプリケーション固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。ケースに格納する平均文書数を指定します。

- ロール数 (1~9999) 《デフォルト値: 100》
 ロールは仕事をする上での役割です。複数のユーザをロールとしてグループ化し、ビジネスプロセス定義のノード上の作業員として割り当てることができます。このロールの総数を指定します。
- 最大ログインユーザ数 (1~1000 又は 1~4096) 《デフォルト値: [共通設定] プロパティページで設定した「登録するユーザ数」の最大値》
 同時にログインするユーザ数の最大値を指定します。
 - Groupmax Workflow Server の場合は、1~1,000 の範囲で指定します。
 - Groupmax High-end Workflow Server の場合は、1~4,096 の範囲で指定します。
- ユーザ内履歴数 (50~1023) 《デフォルト値: 50》
 ユーザ履歴の取得最大数を指定します。ユーザ履歴は、ユーザ単位に取得する案件の投入、遷移、相談、回答、差し戻し、引き戻しの作業履歴です。一つの操作ごとに一つのユーザ履歴が取得され、ユーザ履歴取得最大数の数だけ保持されます。
- ワーク下のオブジェクト数 (1~32767) 《デフォルト値: 1》
 ワーク下のオブジェクト数 (最大値) を指定します。ワーク下のオブジェクト数は、次の計算式で求めてください。
 ワーク内ケース定義数 × (ケース内文書数 + ケース内メモ数) × 複写ノードでの送付先総数
 [注] 複写ノードがない場合、複写ノードでの送付先総数は 1 としてください。複写ノードをループする場合も考慮して加算してください。
- ディレクトリ名称 《デフォルト値: "[共通設定] プロパティページで設定したデータベース作成ディレクトリ"》
 データベースファイルを作成するディレクトリ名を 175 バイト以内の文字列で指定します。[共通設定] プロパティページで [プログラム毎の設定] チェックボタンを指定した場合だけ、この項目を指定できます。
 [参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

High-end Workflow Server

- ワークフローデータベース同時アクセス数(1~32) 《デフォルト値: 2》
 Groupmax High-end Workflow Server からワークフローデータベースへ同時にアクセスする数を指定します。(セッション確立要求データベース同時アクセス数) + (案件一覧表示要求データベース同時アクセス数) + 2 以上の値を指定してください。

マルチサーバ関連

- マルチサーバの総サーバ数(0~400) 《デフォルト値: 0》
 [セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Workflow Server の設定種別を Workflow 管理サーバ又は Workflow サーバにした場合に、Workflow 管理サーバ及び Workflow サーバの総数を指定します。

構成変更時の注意

次に示す項目及びボタンは非活性表示となり、設定及び変更はできません。

- ディレクトリ名称
- [デフォルト] ボタン

また、次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。

- 1日あたりのワーク数

- ワーク処理日数
- ワーク保存日数
- 1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数
- ビジネスプロセス定義数
- ワーク内のケース数
- ケース内の文書数
- ロール数
- 最大ログインユーザ数
- ユーザ内履歴数
- ワーク下のオブジェクト数 (最大値)
- ワークフローデータベース同時アクセス数

ボタンの説明

- [デフォルト] ボタン
画面の設定値を、[共通設定] プロパティページの内容からシステムが算出したデフォルト値に戻します。
- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[ワークフロー] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[ワークフロー] プロパティページに戻ります。

(q) [スケジューラ/施設予約管理] プロパティページ

[スケジューラ/施設予約管理] プロパティページでは、マルチサーバプログラムのスケジューラ及び施設予約管理の必須指定項目を設定します。

項目の説明

マルチサーバ関連

- 親サーバ名称
[セットアップサーバ種別の選択] プロパティページで、Groupmax Scheduler Server/Facilities Manager の設定種別を子サーバにした場合に、親サーバのホスト名を指定します。hosts ファイル又は DNS データベースでアドレスの管理ができるホストの名称を指定する必要があります。
Groupmax Scheduler Server/Facilities Manager の設定種別をシングルサーバ又は親サーバにした場合、この項目は非活性表示となり、設定及び変更はできません。

ボタンの説明

- [次へ] ボタン
[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページのプログラム選択でチェックされたサーバプログラムのプロパティページに移ります。
ほかに選択されたサーバプログラムがない場合、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
1つ前のプロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(r) [エージェント] プロパティページ

[エージェント] プロパティページでは、エージェントサーバプログラムの必須指定項目を設定します。

項目の説明

E-Mailの設定

- E-Mail を使用する《デフォルト値：指定あり》
E-Mail を使用するかどうかをチェックボタンで指定します。
- E-Mail のサーバ名《デフォルト値：DNS のホスト名》
E-Mail サーバのホスト名又は IP アドレスを指定します。
- 送信者名称《デフォルト値：現在ログインしているユーザ名》
E-Mail の送信者名称を指定します。この場合の送信者名称とは、メールを送信するエージェントを動作させた場合のメールの送付元名称です。

Groupmax Mailの設定

- Groupmax Mail を使用する《デフォルト値：指定あり》
Groupmax Mail を使用するかどうかをチェックボタンで指定します。
- Groupmax Mail のサーバ名《デフォルト値：DNS のホスト名》
Groupmax Mail サーバのホスト名又は IP アドレスを指定します。
- ログインユーザ名称《デフォルト値：現在ログインしているユーザ名》
エージェントサーバが Groupmax Mail にログインするためのユーザ ID を指定します。

ボタンの説明

- [詳細] ボタン
[エージェント詳細] ダイアログボックスを表示します。
- [次へ] ボタン
[設定確認] プロパティページに移ります。
- [戻る] ボタン
1つ前のプロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(s) [エージェント詳細] ダイアログボックス

[エージェント詳細] ダイアログボックスでは、エージェントサーバプログラムの詳細指定項目を設定します。

項目の説明

スケジューラ関連

- エージェント監視期間の監視インターバル値 (1~30 日)《デフォルト値：7(日)》
エージェント生存期間の監視時間間隔を日単位で指定します。
- PP サーバ未起動時のリトライ間隔 (1~24 時間)《デフォルト値：1(時間)》
PP サーバ未起動時のエージェントサーバからのリトライ間隔を時間単位で指定します。
- クライアント未起動時の最大保留メッセージ数 (0~10)《デフォルト値：1》

クライアント未起動時の最大保留メッセージ数を指定します。このメッセージとは、メッセージダイアログボックスを表示するアクションが実行された場合に表示させるメッセージダイアログボックスのことです。

- クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間 (1~7日) 《デフォルト値：1(日)》
クライアント未起動時の保留メッセージの生存期間を日単位で指定します。
- クラス別スレッド数 (1~32)
ジョブクラス別のスレッド数を指定します。エージェントサーバのスケジューラでは、登録されたエージェントをジョブクラスという単位で管理します。各ジョブクラスの内容を次に示します。
 - ・ エージェントクラス A
エージェントサーバが内部的に実行する処理に割り当てられます。
 - ・ エージェントクラス B, C
ユーザの登録したエージェントに割り当てられます。
 管理者は、各ジョブクラスに同時に起動できるエージェントがどのくらい必要になるかによって、この値を決定してください。

《デフォルト値》

- エージェントクラス A : 4
- エージェントクラス B : 32
- エージェントクラス C : 16
- クラス別動作期限監視時間 (10~60分)
ジョブクラス別の動作期限監視時間を分単位で指定します。動作期限とは、アクション実行にかかる時間の上限のことであり、アクションが実行されたときに動作期限を過ぎた場合は、強制的にアクション実行を終了して、スレッドを解放します。

《デフォルト値》

- エージェントクラス A : 15 (分)
- エージェントクラス B : 10 (分)
- エージェントクラス C : 15 (分)

上限値関連

- 登録するエージェントの最大数 (32~3000) 《デフォルト値：1000》
登録できるエージェントの最大数を指定します。
- 接続する PP サーバの最大数 (1~64) 《デフォルト値：8》
接続できる PP サーバの最大数を指定します。
- 同時にログインできるユーザの最大数 (1~1000) 《デフォルト値：64》
同時にログインできるユーザの最大数を指定します。
- 同時に接続できるユーザの最大数 (1~256) 《デフォルト値：16》
同時に接続できるユーザの最大数を指定します。この項目には、「同時にログインできるユーザの最大数」よりも大きな値を設定できません。
- 無通信監視時間 (10~300) 《デフォルト値：10》
クライアントとエージェントサーバとの通信で、無通信状態になってから TCP コネクションを切断するまでの時間です。最大ログインユーザ数が同時通信可能最大ユーザ数よりも多い場合に設定値を大きくするとエージェントサーバに接続しにくくなるため、設定値には注意してください。

フォルダ関連

- テンプレート格納ディレクトリ《デフォルト値：空白》
クライアントがエージェント生成で使用するテンプレートを格納するディレクトリ（ユーザカスタマイズ用フォルダ）を指定します。この項目は省略できます。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- ファイル転送用ファイル格納ディレクトリ《デフォルト値：空白》
クライアントとサーバでのファイル転送用ファイルを格納するディレクトリを指定します。この項目は省略できます。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- エージェント情報格納ディレクトリ《デフォルト値：“(Groupmax Agent Server のインストール先のパス名)¥SVdef¥”》
エージェントサーバに登録されている、クライアントが生成したエージェント情報の格納ディレクトリのパス名を指定します。この項目は省略できません。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- 活動ログファイル格納ディレクトリ《デフォルト値：Groupmax Agent Server のインストール先のパス名¥SVlog¥》
活動ログを格納するディレクトリを指定します。この項目は省略できません。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。
- 永続メモリファイル格納ディレクトリ《デフォルト値：Groupmax Agent Server のインストール先のパス名¥SVmem¥》
永続メモリを格納するディレクトリを指定します。永続メモリとは、各エージェントの情報を格納しておくメモリのことです。この項目は省略できません。
[参照] ボタンをクリックすると、ディレクトリ名を選択できます。

構成変更時の注意

次に示す項目については、現在設定している値よりも小さな値は指定できません。

- 登録するエージェントの最大数

ボタンの説明

- [デフォルト] ボタン
画面の設定値をデフォルト値に戻します。
- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[エージェント] プロパティページに戻ります。
- [キャンセル] ボタン
設定した値を無効にして、[エージェント] プロパティページに戻ります。

(t) [設定確認] プロパティページ

[設定確認] プロパティページでは、作成するデータベース容量を確認できます。データベース容量を小さくしたい場合は、[共通設定] プロパティページ、各サーバプログラムのプロパティページ及び [詳細] ダイアログボックスの設定値を見直してください。共通設定では「登録するユーザ数」、文書管理では「全一般文書数」、ワークフローでは「1日あたりのワーク数」がデータベース容量に大きく影響します。

項目の説明

- 使用ディスク容量
次に示す容量の合計が表示されます。

- ・ Groupmax Object Server のデータベースの初期割り当ての容量
- ・ Groupmax Object Server のステータスファイル及びジャーナルファイルの容量
- ・ Groupmax Mail - SMTP, Groupmax Scheduler Server, Groupmax Facilities Manager, 及び Groupmax Agent Server が使用する容量

ただし、各サーバプログラムが使用する仮想メモリ容量は、使用ディスク容量には加算されていません。仮想メモリの容量については、各サーバプログラムの Readme ファイルを参照してください。

- ・ ディスク空き容量
データベースを作成するドライブの現在のディスク空き容量を表示します。

ボタンの説明

- ・ [サーバ起動] ボタン
データベース初期化／構成変更用パラメタ及びシステム共通定義パラメタを作成します。パラメタの作成が完了した後、[サーバ起動プログレスバー] ダイアログボックスに移ります。
- ・ [戻る] ボタン
パラメタの作成をしないで、各サーバプログラムの設定プロパティページに戻ります。
- ・ [次へ] ボタン
サーバ起動完了後にクリックできるようになり、[サーバ設定ウィザード終了] プロパティページに移ります。
- ・ [キャンセル] ボタン
環境設定を中止します。

(u) [サーバ起動プログレスバー] ダイアログボックス

[サーバ起動プログレスバー] ダイアログボックスでは、各プロパティページで設定した内容を基に Groupmax のサーバプログラムのデータベース初期化／構成変更用パラメタとシステム共通定義パラメタを作成して、サーバプログラムを起動します。

項目の説明

- ・ プログレスバー
サーバプログラムの起動の進捗を表示します。
作成／起動完了後、シングルサーバ又はマスタ管理サーバの新規導入の場合は [メール ID 設定] ダイアログボックスに移ります。アドレスサーバの場合及び構成変更の場合は、[設定確認] プロパティページに戻ります。

ボタンの説明

- ・ [キャンセル] ボタン
サーバの起動を中止します。
起動中止後、再度環境を設定する場合は、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンで、設定の初期化をする必要があります。

メッセージ

進捗状況のメッセージを表示します。

(v) [メール ID 設定] ダイアログボックス

[メール ID 設定] ダイアログボックスでは、Groupmax Address Server のアドレスユーザ ID を登録します。

項目の説明

最上位組織の設定

- 組織 I D
最上位組織の組織 I Dを指定します。
半角英数字 8 文字で指定します。
- 組織日本語名
最上位組織の日本語名を指定します。
全角 6 4 文字以内又は半角 1 2 8 文字以内で指定します。

メール登録ユーザの設定

メールに登録するユーザの情報を入力します。表のクリック又はフォーカス移動でユーザ情報を入力します。ユーザ情報の最大登録数は 256 までです。
フォーカスを移動するには、次のキーを使用します。

・ 次の項目に移動	TAB キー, ENTER キー又は CTRL キー+カーソル移動キーの右 (→)
・ 前の項目に移動	SHIFT キー+TAB キー又は CTRL キー+カーソル移動キーの左 (←)
・ 上の行に移動	カーソル移動キーの上 (↑)
・ 下の行に移動	カーソル移動キーの下 (↓)
・ 入力内容の取り消し	ESC キー
・ 新規ユーザの追加	最終行の各項目を入力後、項目の移動キーで次の項目又は次の行に移動すると、自動的に空白行が追加されます。ただし、すべての項目を入力しない状態で次の項目又は次の行への移動をした場合、空白行は追加されないでフォーカスが [ユーザの削除] ボタンに移動します。
・ 登録ユーザの削除	削除するユーザ情報の項目を選択後、[ユーザの削除] ボタンをクリックするとユーザ情報が削除されます。

- ユーザ I D
登録するユーザ名を指定します。
半角英数字 8 文字で指定します。
- 日本語氏名
ユーザの日本語名を指定します。
全角 16 文字以内、又は半角 32 文字以内で指定します。
- 英語姓
登録ユーザの英語姓を指定します。
半角英数字 16 文字以内で指定します。「+」, 「_」及び「,」も指定できます。
- 英語名
登録ユーザの英語名を指定します。
半角英数字 16 文字以内で指定します。「+」, 「_」及び「,」も指定できます。
- ニックネーム
登録ユーザのニックネームを指定します。

全角 16 文字以内、又は半角 32 文字以内で指定します。

注※

- 登録できる組織は最上位組織 1 つだけです。
- 英語姓及び英語名が同一の組み合わせのユーザは登録できません。
- 次に示すユーザは、システムで使用するため登録できません。

ユーザ ID	ニックネーム	意味
system	s.system	Groupmax 管理ユーザ
DMMSERV DMSxxxxx	D.DMMSERV D.DMSxxxxx	Groupmax Document Manager 管理ユーザ (xxxxx：任意の 5 けたの数字)
WFMSERV WFSxxxxx	W.WFMSERV W.WFSxxxxx	Groupmax Workflow 管理ユーザ (xxxxx：任意の 5 けたの数字)

ボタンの説明

- [ユーザの削除] ボタン
選択されているユーザの情報を削除します。
- [登録] ボタン
指定された内容をチェックし、登録処理をします。
登録完了後、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [キャンセル] ボタン
メール ID を登録しないで、[設定確認] プロパティページに移ります。
- [保存] ボタン
設定情報をファイル (*.prm：簡易設定の固有形式) に保存します。
- [開く] ボタン
[保存] ボタンで保存した設定情報を読み込みます。

(w) [サーバ設定ウィザード終了] プロパティページ

[サーバ設定ウィザード終了] プロパティページでは、各サーバプログラムの起動方法を設定します。

項目の説明

- 自動起動設定
各サーバプログラムのサービスを自動で起動するか、手動で起動するかを次に示す項目から選択します。
 - 設定しない
現在の起動方法を変更しません。
 - 選択されているサーバを自動起動にする
今回設定したサーバプログラムを自動で起動します。
 - 選択されているサーバを手動起動にする
今回設定したサーバプログラムを手動で起動します。

注※ Groupmax Mail - SMTP は自動起動設定の対象外となります。

ボタンの説明

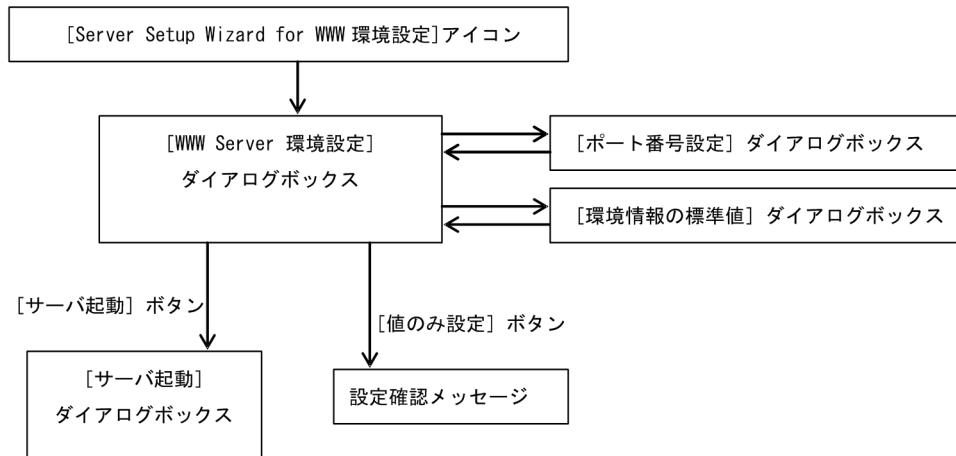
- [完了] ボタン

Setup Wizard を終了します。

付録 C.5 Setup Wizard for WWW 環境設定

(1) Groupmax WWW の環境設定の操作の流れ

Setup Wizard を使用した Groupmax WWW の環境設定の操作の流れを次に示します。



(2) Setup Wizard for WWW 環境設定を起動する

[スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Server Setup Wizard for WWW 環境設定] をクリックすると、Setup Wizard for WWW 環境設定プログラムが起動します。



(3) 各ダイアログボックスの説明

(a) [WWW Server 環境設定] ダイアログボックス

[WWW Server 環境設定] ダイアログボックスでは、Groupmax WWW で一般的に変更される項目を設定します。

共通項目

- 最大ユーザ数(1~500) 《デフォルト値：10》
Groupmax WWW を同時に使用できるユーザの最大数を指定します。
- ログアウトし忘れ監視時間(10~60(分)) 《デフォルト値：10》
Groupmax WWW にログインした後、アクセスがないユーザに対して自動ログアウトするまでの経過時間を指定します。
- ログインリトライ回数(0~2147483647) 《デフォルト値：0》
ログイン時のリトライ回数の上限を指定します。リトライ回数を制限しない場合は0を指定します。

- パスワード有効期限の通知日数(0~30(日)) 《デフォルト値：3》
パスワードの有効期限を、何日前に通知するかを指定します。
- ログイン方法の初期設定 《デフォルト値：ユーザ ID でログイン》
ニックネームログイン機能を使用するかどうかを、ラジオボタンで選択します。
「ニックネームでログイン」を選択すると、ニックネームでログインできます。

連携サーバのホスト名称/IP アドレス

- Address/Mail Server 《デフォルト値：DNS のホスト名》
Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスを指定します。
- Scheduler Server/Facilities Manager 《デフォルト値：DNS のホスト名》
Groupmax Scheduler Server 及び Groupmax Facilities Manager をインストールしたマシンの、ホスト名称又は IP アドレスを指定します。
デフォルトは、DNS のホスト名です。
ただし、Groupmax WWW for Scheduler をインストールしていない場合、この項目は設定できません。
- [ポート番号] ボタン
[ポート番号設定] ダイアログボックスを表示します。

ログ出力指定

- アクセスログを出力する 《デフォルト値：指定あり》
アクセスログを出力するかどうかを、チェックボックスで指定します。
- エラーログを出力する 《デフォルト値：指定あり》
エラーログを出力するかどうかを、チェックボックスで指定します。

WWW サーバの自動起動

Groupmax WWW のサービスの起動方法を、ラジオボタンで選択します。

- 設定しない
現在の起動方法で起動します。
- WWW サーバを自動起動にする
Groupmax WWW を自動で起動します。
- WWW サーバを手動起動にする
Groupmax WWW を手動で起動します。

ボタンの説明

- [環境情報の標準値] ボタン
[環境情報の標準値] ダイアログボックスを表示します。
- [サーバ起動] ボタン
構成定義ファイルの内容を変更後、Groupmax WWW を起動して、[サーバ起動] ダイアログボックスに移ります。
- [値のみ設定] ボタン
設定内容の反映だけをして、Setup Wizard for WWW 環境設定を終了します。
- [キャンセル] ボタン
設定内容を反映しないで、Setup Wizard for WWW 環境設定を終了します。

(b) [ポート番号設定] ダイアログボックス

[ポート番号設定] ダイアログボックスでは、Groupmax WWW が連携するサーバプログラムで使用するポート番号を設定します。

項目の説明

Address/Mail Server 連携

- ユーザ認証用ポート番号 《デフォルト値：9052》
Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server で使用するユーザ認証用ポートの番号を指定します。

Scheduler Server 連携

- ポート番号 《デフォルト値：20013》
Groupmax Scheduler Server との連携で使用するポート番号を指定します。
Groupmax WWW for Scheduler をインストールしていない場合、この項目は非活性表示となり、設定できません。

Facilities Manager 連携

- ポート番号 《デフォルト値：20102》
Groupmax Facilities Manager との連携で使用するポート番号を指定します。
Groupmax WWW for Scheduler をインストールしていない場合、この項目は非活性表示となり、設定できません。

ボタンの説明

- [OK] ボタン
設定した値を有効にして、[WWW Server 環境設定] ダイアログボックスに戻ります。

(c) [サーバ起動] ダイアログボックス

[サーバ起動] ダイアログボックスでは、Groupmax WWW の起動状態を表示します。

メッセージ

起動状況のメッセージを表示します。

ボタンの説明

- [OK] ボタン
Groupmax WWW の起動終了後に有効となり、Setup Wizard for WWW 環境設定を終了します。

(d) [環境情報の標準値] ダイアログボックス

[環境情報の標準値] ダイアログボックスでは、Groupmax WWW で標準値の設定されている項目を変更できます。

着信監視の指定

着信監視機能の利用に関する情報を設定します。

- 着信監視を利用する 《デフォルト値：指定なし》
着信監視機能を利用するかどうかを、チェックボックスで指定します。
- 着信監視間隔 《デフォルト値：5》
着信監視機能を利用する場合に監視間隔を分単位で0～1440の範囲で指定します。

但し 0 を指定時は 5 分間隔とみなされます。

- メールを着信監視の対象とする《デフォルト値：指定あり》
着信監視機能を利用する場合にメールを着信監視の対象とするかどうかを、チェックボックスで指定します。
- ワークフローを着信監視の対象とする《デフォルト値：指定あり》
着信監視機能を利用する場合にワークフローを着信監視の対象とするかどうかを、チェックボックスで指定します。

画面表示の指定

ブラウザ画面表示の形式に関する情報を設定します。

- 起動時にカレンダーを表示する《デフォルト値：指定あり》
起動時（Groupmax へのログイン時）にカレンダーを表示するかどうかを、チェックボックスで指定します。
この項目はスケジューラサービスが利用できる場合に有効です。
- Groupmax コンテンツを表示する《デフォルト値：指定あり》
ツリービューで、[Groupmax コンテンツの表示] 領域を表示するかどうかを、チェックボックスで指定します。
- リストビューでフレームを表示する《デフォルト値：指定あり》
リストビューで、フレームを使用するかどうかを、チェックボックスで指定します。
- 受信メールの表示《デフォルト値：未読メールだけを表示》
ログイン後、初めて受信メール一覧を表示した時の表示方法をラジオボタンで選択します。
- 未読の記事だけ表示する《デフォルト値：指定なし》
ログイン後、初めて記事一覧を表示した場合、未読記事だけを表示する、又は未読記事と既読記事をすべて表示するかどうかを、チェックボックスで指定します。
デフォルト値ではすべて表示します

ボタンの説明

- [戻る] ボタン
[WWW Server 環境設定] ダイアログボックスに戻ります。

付録 C.6 Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

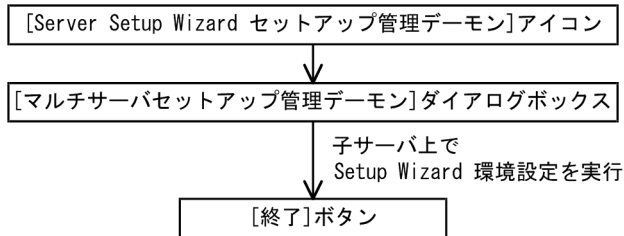
(1) マルチサーバ環境設定の操作の流れ

マルチサーバの場合は、次に示す手順で環境設定をします。

- (1)管理サーバの環境設定を実行します。
- (2)管理サーバ上で Setup Wizard セットアップ管理デーモンを起動します。
- (3)子サーバの環境設定を実行します。このとき、子サーバの情報が管理サーバに登録されます。
子サーバの環境設定は一度に 1 台ずつ実行してください。同時に複数の子サーバの環境設定をすることはできません。
- (4)すべての子サーバの環境設定が終わるまで、手順 3 を繰り返します。
- (5)管理サーバ上で Setup Wizard セットアップ管理デーモンを終了します。

(6)すべてのサーバマシンで、Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)を除く Groupmax サーバを再起動します。

Setup Wizard を使用したマルチサーバ環境設定の操作の流れを次に示します。



なお、マルチサーバの場合、構成変更はできません。各サーバプログラムの機能で構成変更をしてください。

(2) Setup Wizard セットアップ管理デーモンを起動する

管理サーバ上で [スタート] - [プログラム] - [Groupmax サーバ] - [Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン] をクリックすると、Server Setup Wizard セットアップ管理デーモンが起動します。



(3) ダイアログボックスの説明

(a) [マルチサーバセットアップ管理デーモン] ダイアログボックス

[マルチサーバセットアップ管理デーモン]ダイアログボックスでは、Setup Wizard セットアップ管理デーモンと、子サーバ上の Setup Wizard との接続状態を表示します。

項目の説明

- 接続サーバ
接続している子サーバの名称を表示します。
- 開始時刻
子サーバが接続した時刻を表示します。
- 状態
子サーバ上の Setup Wizard との接続状態を表示します。
 - ・接続処理中
接続処理をしています。
 - ・接続中
接続が完了して要求実行待ちとなっています。
 - ・サイト情報取得中
Setup Wizard からのサイト情報取得要求を実行中です。
 - ・サイト情報登録中
Setup Wizard からのサイト情報登録要求を実行中です。

- ・サーバ情報登録中
Setup Wizard からのサーバ情報登録要求を実行中です。
- ・ユーザ情報登録中
Setup Wizard からのユーザ情報登録要求を実行中です。
- ・回線障害（終了処理待ち）
Setup Wizard からの要求を実行中に回線障害が発生したため、処理の完了を待っている状態です。

ボタンの説明

- ・ [終了] ボタン
マルチサーバセットアップ管理デーモンを終了します。

(4) マルチサーバ環境設定後の作業

マルチサーバの環境設定後の作業について次に説明します。

- ・ 運用を開始する前に、すべてのサーバマシン上で Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)を除く Groupmax サーバを再起動する必要があります。また、Groupmax Workflow Server のワークフローディレクトリサービス(WFserver Directory Function)を再起動する場合は、スタートアップパラメタに-r を指定してください。
- ・ マルチサーバ環境を再構築する場合は、マスタ管理サーバ及びアドレスサーバの初期化を実行する必要があります。マスタ管理サーバ又はアドレスサーバだけを初期化した場合は、その後の環境設定がエラーになります。

付録 C.7 メッセージ

(1) メッセージの形式

出力されるメッセージは、メッセージ ID とそれに続くテキストから構成されます。メッセージの形式は次のとおりです。

XXXXnnn-Y メッセージテキスト

XXXX

メッセージを出力したプログラムを表します。

KDGM : Setup Wizard プログラムのメッセージであることを示します。

nnn

メッセージの番号です。それぞれのメッセージに3けたの固有の番号が付いています。

Y

メッセージの種類を表します。次にその意味を示します。

I : システムの動作を通知します。

W : 処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

E : 障害が発生したので、処理を中断します。

メッセージテキスト

出力されるメッセージのテキストを示します。なお、メッセージテキストの「ssssss」や「dddddd」などの文字は、メッセージが出力される状況によって変わる値です。説明が必要なものについては、メッセージテキストの後ろにその内容を示します。

(2) KDGM000~KDGM100

KDGM000-I	Administrators グループ権限を持つユーザで実行してください。
KDGM001-I	Server Setup Wizard が起動できる環境が作成されていません。
KDGM002-E	Service ファイルの内容に不正を検出しました。処理を中断します。
KDGM003-E	以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境設定が行えません。 <ul style="list-style-type: none"> • Server Setup Wizard 設定初期化コマンド • Server Setup Wizard for WWW 環境設定 • Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン
KDGM052-I	ssssssss のポート番号が設定されていません。
KDGM053-I	ssssssss のポート番号が不正です。ポート番号の指定範囲は 5001～49999 です。
KDGM054-I	以下のプログラムのポート番号が重複しています。変更してください。 ssssssss
KDGM055-I	ssssssss と ttttttt のポート番号が重複しています。
KDGM076-E	サーバをセットアップするためのパラメタの生成に失敗しました。詳細情報：ssssssss

(3) KDGM101~KDGM200

KDGM102-I	ユーザ数を範囲で指定する場合は、プルダウンリストから選択してください。
KDGM103-I	全組織数が指定されていません。
KDGM104-I	送信メール 1 通あたりの宛先数の平均が指定されていません。
KDGM105-I	全マスタ掲示板数が指定されていません。
KDGM106-I	1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均が指定されていません。
KDGM107-I	1 人が 1 日に送信するメール数が指定されていません。
KDGM108-I	電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM109-I	登録するユーザ数が変更されました。「電子アドレス帳/メール詳細画面」、「ワークフロー詳細画面」、「文書管理詳細画面」の設定値をユーザ数に対応した推奨値に変更しますか？
KDGM113-I	文書管理のディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM115-I	電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM116-I	文書管理のディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM117-I	1 日あたりのワーク数が指定されていません。
KDGM118-I	ワーク処理日数が指定されていません。

KDGM119-I	ワーク保存日数が指定されていません。
KDGM120-I	1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数が指定されていません。
KDGM121-I	ビジネスプロセス定義数が指定されていません。
KDGM122-I	ワーク内のケース数が指定されていません。
KDGM123-I	ケース内の文書数が指定されていません。
KDGM124-I	ロール数が指定されていません。
KDGM125-I	最大ログインユーザ数が指定されていません。
KDGM127-I	ワークフローのディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM129-I	ワークフローのディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM130-W	データベースの作成先として推奨するドライブ E:が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。データベースの作成先のデフォルトとしてドライブ s を仮定します。
KDGM131-W	ステータスファイルの作成先として推奨するドライブ s が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。ステータスファイルの作成先のデフォルトとしてドライブ t を仮定します。
KDGM132-W	ジャーナルファイルの作成先として推奨するドライブ s が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。ジャーナルファイルの作成先のデフォルトとしてドライブ t を仮定します。
KDGM140-I	ユーザ内履歴数が指定されていません。
KDGM141-I	ワーク下のオブジェクト数（最大値）が指定されていません。
KDGM152-I	サーバに登録するユーザ数の最大値は 3000 です。
KDGM153-I	サーバに登録するユーザ数の最小値は 1 です。
KDGM154-I	サーバに登録するユーザ数の指定が不正です。
KDGM157-I	データベース作成ディレクトリ名称が不正です。
KDGM158-I	データベース名称が指定されていません。
KDGM160-I	サーバに登録するユーザ数が指定されていません。
KDGM161-I	データベース作成ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM164-I	1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が指定されていません。
KDGM165-I	1 つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が指定されていません。
KDGM166-I	フォルダ数が指定されていません。
KDGM167-I	フォルダ数の指定範囲は 2~1000000 です。
KDGM168-I	サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均が指定されていません。

KDGM169-I	データベース名称（スキーマ名称）に不正な文字または文字列が指定されています。
KDGM172-I	ホスト名称の長さが 255 文字を超えています。
KDGM184-I	E-mail アドレスの平均長が指定されていません。
KDGM185-I	1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均が指定されていません。
KDGM188-I	プリンタを選択してください。
KDGM189-I	ホスト名称が指定されていません。
KDGM191-I	ホスト名称に不正な文字が含まれています。
KDGM193-I	サイト名が指定されていません。
KDGM194-I	サーバ名が指定されていません。
KDGM195-I	プリンタ名が指定されていません。
KDGM196-I	サイト名に不正な文字が含まれています。
KDGM197-I	サーバ名に不正な文字が含まれています。
KDGM200-I	E-mail アドレスの平均長の指定範囲は 1～256 です。

(4) KDGM201～KDGM300

KDGM201-I	文書実体ディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM202-I	文書実体ディレクトリ名称が不正です。
KDGM203-I	文書実体ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM204-I	作業領域ディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM205-I	作業領域ディレクトリ名称が不正です。
KDGM206-I	作業領域ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM207-I	スプールディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM208-I	スプールディレクトリ名称が不正です。
KDGM209-I	スプールディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM210-I	文書実体ディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM211-I	文書実体ディレクトリ名称が不正です。
KDGM212-I	文書実体ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM213-I	ワークエリアディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM214-I	ワークエリアディレクトリ名称が不正です。

KDGM215-I	ワークエリアディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM216-I	ログ情報エリアディレクトリ名称が指定されていません。
KDGM217-I	ログ情報ディレクトリ名称が不正です。
KDGM218-I	ログ情報エリアディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM219-I	組織 ID が指定されていません。
KDGM222-I	組織日本語名が指定されていません。
KDGM225-I	ユーザ ID が指定されていません。
KDGM228-I	日本語氏名が指定されていません。
KDGM231-I	英語姓が指定されていません。
KDGM234-I	英語名が指定されていません。
KDGM237-I	ニックネームが指定されていません。

(5) KDGM301~KDGM400

KDGM303-E	システムのファイルをオープン出来ません。処理を中断します。ファイル名：ssssss 詳細内容：dddddd
KDGM304-E	システムの環境変数が設定されていません。処理を中断します。環境変数：ssssss
KDGM309-E	環境設定の情報を格納するためのディレクトリの初期化(削除)に失敗したため、処理を中断します。ディレクトリ名：ssssss エラー番号：nnnnnn
KDGM310-I	全組織数の指定範囲は 1~9999 です。
KDGM311-I	送信メール 1 通あたりの宛先数の平均の指定範囲は 1~999 です。
KDGM312-I	全マスタ掲示板数の指定範囲は 1~9999 です。
KDGM313-I	1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均の指定範囲は 1~999 です。
KDGM314-I	1 人が 1 日に送信するメール数の指定範囲は 1~999 です。
KDGM315-I	サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均の指定範囲は 1~999999 です。
KDGM316-I	1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均の指定範囲は 1~8 です。
KDGM320-I	全フォーム文書数が指定されていません。
KDGM321-I	全フォーム文書数の平均の指定範囲は 1~1000000 です。
KDGM322-I	文書あたりに保持するバージョン数が指定されていません。
KDGM323-I	文書あたりに保持するバージョン数の指定範囲は 1~99 です。

KDGM324-I	分類、分類索引の総数が指定されていません。
KDGM325-I	分類、分類索引の総数の指定範囲は1~1000000です。
KDGM326-I	全一般文書数が指定されていません。
KDGM327-I	全一般文書数の指定範囲は1~1000000です。
KDGM328-I	フォーム文書データベース数が指定されていません。
KDGM329-I	フォーム文書データベース数の指定範囲は0~5000です。
KDGM330-I	一般文書データベース数が指定されていません。
KDGM331-I	一般文書データベース数の指定範囲は1~5000です。
KDGM332-I	1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数の指定範囲は0~100です。
KDGM333-I	1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数の指定範囲は0~100です。
KDGM334-I	1ユーザあたりの同時アクセス文書数が指定されていません。
KDGM335-I	1ユーザあたりの同時アクセス文書数の指定範囲は1~999です。
KDGM340-I	1日あたりのワーク数の指定範囲は1~9999です。
KDGM341-I	ワーク処理日数の指定範囲は1~999です。
KDGM342-I	ワーク保存日数の指定範囲は1~999です。
KDGM343-I	1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数の指定範囲は1~999です。
KDGM344-I	ビジネスプロセス定義数の指定範囲は1~9999です。
KDGM345-I	ワーク内のケース数の指定範囲は1~999です。
KDGM346-I	ケース内の文書数の指定範囲は1~999です。
KDGM347-I	ロール数の指定範囲は1~9999です。
KDGM348-I	同時ログインするユーザ数の指定範囲は1~1000です。
KDGM350-I	プリンタ名に不正な文字が含まれています。
KDGM352-E	レジストリの読み込みに失敗しました。対象 PP : ssssss エラー箇所 : dddddd エラー番号 : nnnnnn
KDGM353-I	指定されたディレクトリは作成できません。
KDGM354-I	設定の途中でキャンセルを実行した場合、設定内容はすべて無効になります。キャンセルを実行しますか？

(6) KDGM401~KDGM500

KDGM402-I	ファイルをオープンできません。ファイル名 : ssssss 詳細内容 : dddddd
KDGM407-E	システムのファイルへの出力に失敗しました。処理を中断します。ファイル名 : ssssss

KDGM414-I	データベース作成ディレクトリが指定されていません。
KDGM415-I	サーバの起動を中止します。再セットアップを行う場合、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより設定の初期化を行う必要があります。起動を中止しますか？
KDGM418-I	キャンセルボタンによりサーバ起動処理が中止されました。
KDGM419-E	サーバの起動に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：ssssss
KDGM420-E	サーバの停止に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：ssssss
KDGM421-E	サーバのセットアップに失敗しました。再セットアップを行う場合、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより設定の初期化を行う必要があります。
KDGM422-E	前回のセットアップが、キャンセルによる中断または異常終了により終了しているため、サーバの構成変更を行うことが出来ません。「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM500-I	アカウントが指定されていません。

(7) KDGM501～KDGM600

KDGM501-E	システム関数でエラーが発生しました。関数名：ssssss エラー番号：nnnnnn
KDGM502-W	サービス制御データベースがロックされています。自動起動の設定およびアカウントの変更を行わずに処理を続行しますか？
KDGM503-I	指定されたアカウントが不正です。
KDGM504-I	ファイルが作成できません。ファイル名：ssssss エラー番号：dddddd
KDGM505-E	Server Setup Wizard のファイルに不正を検出しました。ファイル名：ssssss
KDGM506-E	レジストリの読み込みに失敗しました。レジストリ名：ssssss エラー番号：nnnnnn
KDGM507-E	ユーザ ID のチェックに失敗しました。コマンド名：ssssss エラー番号：nnnnnn
KDGM508-E	ユーザ ID の登録に失敗しました。コマンド名：ssssss ログファイル名：dddddd
KDGM509-E	ユーザ ID 登録コマンドの実行に失敗しました。コマンド名：ssssss エラー番号：nnnnnn
KDGM510-I	削除するユーザを選択してください。
KDGM511-I	すべてのユーザ情報を削除することは出来ません。
KDGM512-I	最終行以外では、入力項目の省略はできません。
KDGM513-I	ユーザ ID が入力されていません。
KDGM514-I	ユーザ ID の登録が終了しました。

KDGM520-W	ユーザ ID の登録に失敗しました。処理を続行しますが、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。
KDGM521-W	サービスの自動起動登録に失敗しました。Groupmax サーバの自動起動が行えない可能性があります。
KDGM522-I	ユーザ ID の登録をキャンセルした場合、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。キャンセルしますか？
KDGM523-I	サービスの自動起動および起動時のログオン情報の設定をキャンセルした場合、Groupmax サーバの起動が失敗する可能性があります。キャンセルしますか？
KDGM524-I	ユーザの登録やサービスの起動設定を行わずにキャンセルした場合、Groupmax サーバの起動/ログインに失敗する可能性があります。キャンセルしますか？
KDGM525-I	入力されたパスワードとパスワード確認の項目の内容が異なります。再度入力してください。
KDGM526-E	サーバの自動起動登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：dddddd
KDGM527-E	ユーザ ID の登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：dddddd
KDGM528-I	ファイルの内容が不正です。指定されたファイルはユーザ ID 登録ファイルではありません。
KDGM529-E	Server Setup Wizard のファイルの操作に失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：dddddd
KDGM530-I	日本語氏名の指定が重複しています。
KDGM531-I	英語姓、英語名の指定が重複しています。
KDGM532-I	入力されたユーザ ID は Groupmax で予約されているため使用できません。
KDGM533-I	入力されたニックネームは Groupmax で予約されているため使用できません。
KDGM550-E	ssssss の環境を設定するコマンドが異常終了しました。コマンド名：dddddd エラー番号：nnnnnn
KDGM551-E	ssssss の環境を設定するコマンドの実行に失敗しました。コマンド名：dddddd
KDGM560-E	Groupmax Version x のプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を行えません。
KDGM561-E	Groupmax Version x より古いバージョンのプログラムプロダクトが混在しているため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。
KDGM563-E	環境設定済みの Groupmax Version x プログラムプロダクトが存在するため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。

KDGM565-E	IP アドレスが設定されていないため、環境設定を実行することができません。
KDGM566-E	以下のプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。
KDGM568-E	以下のプログラムプロダクトが動作中のため、環境設定を実行することが出来ません。プログラムプロダクトの停止を行い、再度環境設定を実行してください。
KDGM569-I	構成変更の場合、「iiii」の項目は現在の設定値よりも小さな値を設定することはできません。
KDGM570-I	「iiii」の指定範囲はaaaaa～bbbbb です。
KDGM571-I	「iiii」の項目が指定されていません。
KDGM572-I	「iiii」に固定ディスク以外のドライブは指定できません。
KDGM573-I	「iiii」の指定内容が不正です。
KDGM574-I	「iiii」の項目には「jjjj」の項目よりも小さい値は指定できません。
KDGM575-W	クライアントに対する保留ダイアログが Agent Server に存在しているため、Agent Server の構成変更が行えません。処理を続行しますが、Agent Server の構成変更は行われません。
KDGM576-I	「iiii」で指定されたファイルが存在しません。処理を続行しますか？
KDGM577-E	前回行ったセットアップの情報の読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM578-E	前回セットアップされていた sssss がセットアップ未完了の状態になっているため、処理を中止します。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM579-E	前回セットアップされていない sssss がセットアップ完了済みの状態になっているため、処理を中止します。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM580-W	sssss のユーザ情報の更新処理に失敗しました。処理を続行しますが、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。
KDGM581-I	セットアップ済みのサーバが存在するため、構成変更を行います。構成変更時の障害によるデータの破壊を防ぐため、各サーバプログラムプロダクトのデータのバックアップを取得してください。
KDGM582-I	iiii のポート番号は Groupmax により予約されています。再度入力してください。
KDGM583-I	「iiii」で指定されたファイルが存在しません。処理を続行しますが、当該ファイルの作成またはインストールを行う必要があります。
KDGM584-I	xxxxx より以前のバージョンの Server Setup Wizard によりセットアップが行われているため、構成変更が行えません。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

KDGM585-I	マルチサーバにより環境が構築されているため、構成変更が行えません。環境を新たに構築する場合は、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM586-I	セットアップ情報の出力に失敗したため、処理を中断します。ファイル名：sssss
KDGM587-I	sssss から ttttt への環境の移行は行えません。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM588-I	Address Server でマスタ管理サーバのみを環境設定することは出来ません。マスタ管理サーバ+運転席をインストールしてください。
KDGM589-I	Address Server をシングルサーバとしてセットアップする場合、その他のサーバを親サーバまたは子サーバとしてセットアップすることは出来ません。
KDGM590-I	[iiii] のディレクトリとして「sssss」は指定できません。
KDGM591-I	[iiii] で指定されたファイルの名称が不正です。ファイルの名称は完全パス名で指定する必要があります。
KDGM592-W	[iiii] で指定されたファイル「sssss」は既に存在します。指定されたファイルは環境設定時に上書きされます。再度ファイル名を指定しますか？
KDGM593-I	[iiii] の長さが nnnnn 文字を超えています。
KDGM594-I	[iiii] で指定された「sssss」は既に使用されています。
KDGM595-I	[iiii] と [jjjj] に同一ファイルを指定することは出来ません。
KDGM596-E	TCP/IP が使用できません。WindowsNT にて TCP/IP が使用できる環境を構築してください。詳細情報：sssss(nnnnn)
KDGM597-E	services ファイルに sssss が登録されていません。Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥sample¥services ファイルを参考にして、services ファイルの登録内容を確認してください。
KDGM598-E	セットアップ管理デーモンへの接続に失敗しました。「電子アドレス帳/メール」設定画面の管理サーバ名の確認および、管理サーバ上でセットアップ管理デーモンが起動されていることを確認してください。また、既にセットアップ管理デーモンが他の Server Setup Wizard と接続している場合は、接続している Server Setup Wizard の処理が終了してから再度接続を行ってください。詳細情報：sssss(nnnnn)
KDGM599-E	ファイルの作成に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)

(8) KDGM601～KDGM700

KDGM601-I	初期化を実行します。よろしいですか？
KDGM602-I	環境の初期化が終了しました。環境設定が正常に終了していない状態で環境の初期化を行った場合、環境の再設定が正常に行えないことがあります。この場合は、Groupmax サーバプロダクトの再インストールを実行してください。
KDGM603-I	初期化の実行を中止しました。

KDGM604-E	初期化に失敗しました。再セットアップを行うためには Groupmax サーバプロダクトの再インストールが必要です。
KDGM605-E	サーバプロダクトがインストールされていません。
KDGM606-I	以下のサーバプロダクトが稼働中です。初期化実行時にすべてのサーバプロダクトを停止しますがよろしいですか？
KDGM607-E	Groupmax Version x 以前のサーバプロダクトが混在しているため、初期化を行えません。
KDGM608-E	プログラムを実行するために必要なファイル (ssssss) が存在しません。Server Setup Wizard の再インストールを実行してください。
KDGM609-E	Object Server の定義ファイル (XODRC) の編集に失敗しました。
KDGM611-E	Object Server の起動に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM617-E	プログラムを実行するために必要なレジストリが存在しません。Server Setup Wizard の再インストールを実行してください。
KDGM618-E	プログラムを実行するために必要なファイル (ssssss) を生成できませんでした。
KDGM619-E	削除ファイル一覧の取得に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM622-E	Object Server の停止に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM623-E	Address/Mail Server のセットアップ情報の削除に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM625-E	Document Manager のセットアップ情報の削除に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM628-E	稼働中サーバプロダクトの停止に失敗しました。詳細：dddddd
KDGM630-W	Object Server の起動に失敗しました。初期化処理の続行は可能ですが、サーバプロダクトの設定情報が残る可能性があります。処理を続行しますか？
KDGM631-E	Administrators の権限がないため、初期化を行うことが出来ません。
KDGM632-W	すべての環境設定ファイルを削除することが出来ませんでした。環境の再設定が失敗する可能性があります。
KDGM634-E	以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境初期化が行えません。 <ul style="list-style-type: none"> • Server Setup Wizard 環境設定 • Server Setup Wizard for WWW 環境設定 • Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン
KDGM639-W	Object Server の起動に失敗したため、環境の再設定が失敗する可能性があります。環境の再設定が失敗する場合は、サーバプロダクトの再インストールを行ってください。
KDGM640-E	Object Server のシステムジャーナル定義ファイル (sysjnl) の編集に失敗しました。
KDGM700-E	ファイル「ssssss」を開く事が出来ませんでした。

(9) KDGM701~KDGM800

KDGM701-E	ファイル「ssssss」を閉じる事が出来ませんでした。
KDGM702-E	services ファイルの編集に失敗しました。
KDGM703-E	Config ファイルの編集に失敗しました。(dddddd)
KDGM704-E	wbp.cnf ファイルの編集に失敗しました。(dddddd)
KDGM705-E	システム関数でエラーが発生しました。関数名: ssssss エラー番号: nnnnnn
KDGM706-E	Groupmax World Wide Web の起動に失敗しました。処理を中断します。詳細情報: ddddd
KDGM707-E	Groupmax WWW がインストールされていません。Groupmax WWW をインストールしてください。
KDGM708-E	Groupmax WWW のバージョンが環境設定の対象範囲外です。対象バージョンの Groupmax WWW をインストールしてください。
KDGM709-E	レジストリの読み込みに失敗しました。対象 PP: Groupmax WWW エラー箇所: ddddd エラー番号: nnnnn
KDGM720-I	Groupmax WWW が動作中のため設定は出来ません。
KDGM721-I	「iiiiii」の項目の設定値が不正です。デフォルトの「dddddd」を仮定します。
KDGM722-I	「iiiiii」の項目に「aaaaaa」, 「bbbbbb」以外の値が指定されています。「dddddd」を仮定します。
KDGM723-I	「iiiiii」の項目が指定されていません。デフォルトの「dddddd」を仮定します。
KDGM725-I	「iiiiii」の指定値が不正です。指定範囲は aaaaaa~bbbbbb です。
KDGM726-I	「iiiiii」が設定されていません。aaaaaa~bbbbbb の範囲で指定してください。
KDGM727-I	「iiiiii」が設定されていません。
KDGM728-W	<p>連携サーバのホスト名称/IP アドレスとして設定されている内容が Scheduler Server と Facilities Manager で異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Scheduler Server(gam_scheduler_name):ssssss • Facilities Manager(gam_facilities_name):ffffff <p>Scheduler Server の設定値を使用して、設定処理を続行します。 Scheduler Server と Facilities Manager で異なるホスト名称/IP アドレスを設定する必要がある場合には、Server Setup Wizard による環境設定終了後に、config ファイルを直接修正してください。</p>
KDGM747-E	<p>以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境設定が行えません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Server Setup Wizard 設定初期化コマンド • Server Setup Wizard 環境設定 • Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

KDGM748-I	キャンセルを実行した場合、設定内容はすべて無効になります。キャンセルを実行しますか？
KDGM749-I	サーバの起動および自動起動の設定を行わずに、構成定義ファイルの変更のみを実施します。処理を続行しますか？
KDGM750-E	システムリソースが不足しているため処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)
KDGM751-E	TCP/IP による通信で障害が発生したため処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)
KDGM752-E	管理サーバに対する「ttttt」の要求の実行に失敗しました。管理サーバでの環境設定が終了してサーバが正常に動作していることを確認してください。詳細情報：sssss(nnnnn)
KDGM753-I	管理サーバ名が自サーバ名と同一です。
KDGM754-I	「iiii」には英大文字,英小文字,数字,'_'(アンダーライン)以外を使用することは出来ません。また、先頭の文字には数字を使用することは出来ません。
KDGM755-I	マルチサーバの環境設定が必要なプログラムプロダクトが追加インストールされているため、構成変更が行えません。環境を新たに構築する場合は、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM756-I	マルチサーバの環境設定が必要なプログラムプロダクトが追加インストールされているため、構成変更が行えません。環境を新たに構築する場合は、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。
KDGM757-W	全てのステータスファイルの作成先が、同一のディスクになっています。1つのハードディスクの障害で全てのステータスファイルが障害とならないように、ステータスファイルは複数のディスクに作成することを推奨します。再度ステータスファイルの指定を行いますか？
KDGM758-W	ジャーナルファイルの作成先に、データベースの作成ディスクと同一のディスクが指定されています。ジャーナルファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを推奨します。再度ジャーナルファイルの指定を行いますか？
KDGM759-W	ステータスファイルの作成先に、データベースの作成ディスクと同一のディスクが指定されています。ステータスファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを推奨します。再度ステータスファイルの指定を行いますか？
KDGM760-I	2つ以上のジャーナルファイルで「オンライン開始と同時にオープンする」の指定を行ってください。
KDGM761-E	管理サーバに Mail Server がインストールされていないため、Mail Server の環境設定を行うことが出来ません。
KDGM762-E	管理サーバの Mail Server が起動されていないため、Mail Server の環境設定を行うことが出来ません。
KDGM763-W	全てのジャーナルファイルの作成先が、同一のディスクになっています。1つのハードディスクの障害で全てのジャーナルファイルが障害

KDGM763-W	とにならないように、ジャーナルファイルは複数のディスクに作成することを推奨します。再度ジャーナルファイルの指定を行いますか？
KDGM764-I	「iiii」の項目は nnnnn 個以上指定を行う必要があります。
KDGM765-W	High-end Object Server を使用している環境で構成変更を実行します。構成変更の終了後に必ずデータベースのバックアップの取得を行ってください。
KDGM766-W	マルチサーバの環境が構築されました。サーバ間の情報の整合性を取るため、運用を開始する前に全てのサーバマシンの Groupmax サーバ (Object Server または High-end Object Server を除く) の再起動を実施してください。再起動の順序については、各 Groupmax サーバのマニュアルを参照願います。
KDGM767-E	指定されたマスタ管理サーバ (sssss) には、アドレスサーバとして既に ttttt が登録されています。ttttt をアドレスサーバとして再度登録する場合は、マスタ管理サーバ、アドレスサーバともに、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行う必要があります。
KDGM768-W	Workflow Server がマルチサーバとして構築されています。Workflow Server の「ワークフローディレクトリサービス (WFserver Directory Function)」の再起動を行う場合は、スタートアップパラメータとして「-r」を指定してください。システムのリブートによりサービスの自動起動を行った場合、スタートアップパラメータが指定されていない状態でサービスが起動されますのでご注意ください。
KDGM769-I	「iiiiii」で指定された名称を IP アドレスに変換することができませんでした。以下のいずれかの問題が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • 指定内容に誤りがある。 • 指定された名称が HOSTS ファイルに登録されていない。 • ドメイン ネーム システム(DNS)の指定に誤りがある。
KDGM770-W	static_shmpool_size の値が上限を超えました。Resipool パラメータ DICTIONARY の -m オペランド値を減らしてパラメータ生成処理を続行する場合、「OK」をクリックして下さい。但し、この場合、Groupmax システム全体の性能が低下する可能性があります。パラメータの調整を行う場合は、「キャンセル」をクリックして、以下のパラメータの見直しを行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> • 一般文書データベース数 • フォーム文書データベース数 • 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 • 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 • 複数グループアクセス権機能

(10) KDGM801~KDGM900

KDGM801-I	サーバ制御用 DLL の読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。
KDGM802-I	Address Server が起動されていません。Address Server の起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

KDGM803-I	Address Server がインストールされていません。Address Server のインストール、セットアップおよび起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。
KDGM804-I	Address Server のセットアップが完了していません。Address Server のセットアップおよび起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。
KDGM805-E	Server Setup Wizard のレジストリの読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。
KDGM806-E	システムリソースが不足しています。いくつかのアプリケーションプログラムを終了して、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。
KDGM807-E	TCP/IP 通信の処理でエラーが発生したため処理を終了します。関数名：sssss エラーコード：nnnnn
KDGM808-I	バージョンが x より前の Address Server がインストールされているため、処理を中止します。
KDGM809-I	マスタ管理+運転席以外の Address Server がインストールされているため、処理を中止します。
KDGM810-E	以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、サーバセットアップ管理デーモンの実行が行えません。 <ul style="list-style-type: none"> • Server Setup Wizard 設定初期化コマンド • Server Setup Wizard 環境設定 • Server Setup Wizard for WWW 環境設定 • Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン
KDGM811-E	services ファイルに sssss が登録されていません。Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥sample¥services ファイルを参考にして、services ファイルの登録内容を確認してください。

(11) [Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ1	セットアップ済みのサーバが存在しないため、新規セットアップとなります。
メッセージ2	Mail - SMTP は、Mail Server がないと設定は出来ません。
メッセージ3	セットアップ済みのサーバが存在するため、構成変更を行います。
メッセージ4	Workflow Multi-Server は、Workflow Server がないと設定は出来ません
メッセージ5	Workflow Multi-Server は、Mail Server がないと設定は出来ません
メッセージ6	High-end Workflow Server は、Workflow Server がないと設定は出来ません
メッセージ7	High-end Workflow Server は、High-end Object Server がないと設定は出来ません

メッセージ8	High-end Document Manager は、Document Manager がないと設定は出来ません
メッセージ9	High-end Document Manager は、High-end Object Server がないと設定は出来ません

(12) 【設定確認】 プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ1	DB 容量の計算結果が 200 GB を超えています。設定値を確認してください。
メッセージ2	ディスク容量が不足しています。格納ディレクトリや設定値を確認してください。
メッセージ3	指定したドライブは FAT 形式でフォーマットされています。NTFS に変更してください。
メッセージ4	システムドライブ ddd の容量が不足しています。nnnnn MB 確保してください。
メッセージ5	構成変更のための一時ファイルを作成するドライブ ddd の容量が不足しています。nnnnn MB 確保してください。

KDGM000-I

Administrators グループ権限を持つユーザで実行してください。

[意味]

ログインしているユーザに Administrators の権限がありません。

[対処]

Administrators の権限を持っているユーザで再度ログインしてください。

KDGM001-I

Server Setup Wizard が起動できる環境が作成されていません。

[意味]

Setup Wizard を起動するために必要なファイル又はレジストリが不足しています。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。再度 Setup Wizard をインストールしてください。

KDGM002-E

Service ファイルの内容に不正を検出しました。処理を中断します。

[意味]

システムの services ファイルの形式が不正のため、処理を中断します。

[対処]

システムの services ファイルの内容を見直してください。

KDGM003-E

以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境設定が行えません。

- Server Setup Wizard 設定初期化コマンド
- Server Setup Wizard for WWW 環境設定
- Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

[意味]

Setup Wizard に関連するコマンドが実行中のため、環境設定が行えません。

[対処]

Setup Wizard に関連するコマンドが終了してから、再度環境設定を実行してください。

KDGM052-I

ssssssss のポート番号が設定されていません。

[意味]

ポート番号が指定されていません。ssssssss にはエラーとなった項目の名称が設定されます。

[対処]

エラーとなった項目のポート番号を指定してください。

KDGM053-I

ssssssss のポート番号が不正です。ポート番号の指定範囲は 5001～49999 です。

[意味]

指定したポート番号が、指定できる範囲を超えています。ssssssss にはエラーとなった項目の名称が設定されます

[対処]

エラーとなった項目のポート番号の指定を確認してください。

KDGM054-I

以下のプログラムのポート番号が重複しています。変更してください。ssssssss

[意味]

[ポート番号設定] ダイアログボックスで指定したポート番号と、システムの services ファイルに登録されている他のアプリケーションプログラムのポート番号が重複しているため、services ファイルの更新ができません。ssssssss にはポート番号が重複しているサーバプログラムの名称が設定されます。

[対処]

[ポート番号設定] ダイアログボックス又はシステムの services ファイルで、重複しているポート番号を変更してください。

KDGM055-I

ssssssss と tttttttt のポート番号が重複しています。

[意味]

指定されたポート番号に重複があります。ssssssss と tttttttt にはポート番号が重複している項目の名称が設定されます。

[対処]

重複しているポート番号を変更してください。

KDGM076-E

サーバをセットアップするためのパラメタの生成に失敗しました。詳細情報：ssssssss

[意味]

Groupmax サーバのセットアップに必要なパラメタファイルの生成に失敗しました。ssssssss には生成に失敗したファイルの名称が設定されます。

[対処]

当該ファイルのディレクトリがファイル生成できる状態になっているかを確認してください。

KDGM102-I

ユーザ数を範囲で指定する場合は、プルダウンリストから選択してください。

[意味]

ユーザ数の範囲指定の形式が不正です。プルダウンリストによる選択以外で、ユーザ数の範囲指定をすることはできません。

[対処]

プルダウンリストからユーザ数の範囲指定を選択するか、又は数字でユーザ数を指定してください。

KDGM103-I

全組織数が指定されていません。

[意味]

「全組織数」の項目が指定されていません。

[対処]

「全組織数」の項目を指定してください。

KDGM104-I

送信メール1通あたりの宛先数の平均が指定されていません。

[意味]

「送信メール1通あたりの宛先数の平均」の項目が指定されていません。

[対処]

「送信メール1通あたりの宛先数の平均」の項目を指定してください。

KDGM105-I

全マスタ掲示板数が指定されていません。

[意味]

「全マスタ掲示板数」の項目が指定されていません。

[対処]

「全マスタ掲示板数」の項目を指定してください。

KDGM106-I

1つのメールボックスが保持する受信メールの平均が指定されていません。

[意味]

「1つのメールボックスが保持する受信メールの平均」の項目が指定されていません。

[対処]

「1つのメールボックスが保持する受信メールの平均」の項目を指定してください。

KDGM107-I

1人が1日に送信するメール数が指定されていません。

[意味]

「1人が1日に送信するメール数」の項目が指定されていません。

[対処]

「1人が1日に送信するメール数」の項目を指定してください。

KDGM108-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

電子アドレス帳/メールの「ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

電子アドレス帳/メールの「ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM109-I

登録するユーザ数が変更されました。「電子アドレス帳/メール詳細画面」,「ワークフロー詳細画面」,「文書管理詳細画面」の設定値をユーザ数に対応した推奨値に変更しますか？

[意味]

「システム内のユーザ数」又は「このサーバに登録するユーザ数」が変更されたときに、各サーバプログラムの詳細画面の値を、指定されたユーザ数に対応した推奨値に変更するかどうかを確認するメッセージです。

[対処]

[[はい] のボタンをクリックした場合、各サーバプログラムの詳細画面の値を、指定されたユーザ数に対応した推奨値に変更します。[[いいえ] のボタンをクリックした場合、変更をしないで処理を続行します。

KDGM113-I

文書管理のディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

文書管理の「ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

文書管理の「ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM115-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM116-I

文書管理のディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM117-I

1日あたりのワーク数が指定されていません。

[意味]

「1日あたりのワーク数」の項目が指定されていません。

[対処]

「1日あたりのワーク数」の項目を指定してください。

KDGM118-I

ワーク処理日数が指定されていません。

[意味]

「ワーク処理日数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ワーク処理日数」の項目を指定してください。

KDGM119-I

ワーク保存日数が指定されていません。

[意味]

「ワーク保存日数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ワーク保存日数」の項目を指定してください。

KDGM120-I

1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数が指定されていません。

[意味]

「1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数」の項目が指定されていません。

[対処]

「1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数」の項目を指定してください。

KDGM121-I

ビジネスプロセス定義数が指定されていません。

[意味]

「ビジネスプロセス定義数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ビジネスプロセス定義数」の項目を指定してください。

KDGM122-I

ワーク内のケース数が指定されていません。

[意味]

「ワーク内のケース数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ワーク内のケース数」の項目を指定してください。

KDGM123-I

ケース内の文書数が指定されていません。

[意味]

「ケース内の文書数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ケース内の文書数」の項目を指定してください。

KDGM124-I

ロール数が指定されていません。

[意味]

「ロール数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ロール数」の項目を指定してください。

KDGM125-I

最大ログインユーザ数が指定されていません。

[意味]

「最大ログインユーザ数」の項目が指定されていません。

[対処]

「最大ログインユーザ数」の項目を指定してください。

KDGM127-I

ワークフローのディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

ワークフローの「ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

ワークフローの「ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM129-I

ワークフローのディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM130-W

データベースの作成先として推奨するドライブ E:が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。データベースの作成先のデフォルトとしてドライブ s を仮定します。

[意味]

Setup Wizard がデータベースの作成先として推奨するドライブ E:が存在しないか又は固定ディスクではなかったため、データベースの作成先のデフォルトとして s で示したドライブを仮定しました。

[対処]

性能及び運用の観点から、データベースは Windows NT や Groupmax サーバプログラムのインストール先とは別の、独立したボリュームに作成することを推奨します。必要に応じてデータベースの作成先ドライブを変更してください。

KDGM131-W

ステータスファイルの作成先として推奨するドライブ s が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。ステータスファイルの作成先のデフォルトとしてドライブ t を仮定します。

[意味]

Setup Wizard がステータスファイルの作成先として推奨するドライブ s(F:又は G:)が存在しないか、又は固定ディスクではなかったため、ステータスファイルの作成先のデフォルトとして t で示したドライブを仮定しました。

[対処]

性能及び運用の観点から、ステータスファイルは Windows NT や Groupmax サーバプログラムのインストール先とは別の、独立したボリュームに作成することを推奨します。必要に応じてステータスファイルの作成先ドライブを変更してください。

KDGM132-W

ジャーナルファイルの作成先として推奨するドライブ s が、存在しないかまたは固定ディスクではありません。ジャーナルファイルの作成先のデフォルトとしてドライブ t を仮定します。

[意味]

Setup Wizard がジャーナルファイルの作成先として推奨するドライブ s(F:又は G:)が存在しないか、又は固定ディスクではなかったため、ジャーナルファイルの作成先のデフォルトとして t で示したドライブを仮定しました。

[対処]

性能及び運用の観点から、ジャーナルファイルは Windows NT や Groupmax サーバプログラムのインストール先とは別の、独立したボリュームに作成することを推奨します。必要に応じてジャーナルファイルの作成先ドライブを変更してください。

KDGM140-I

ユーザ内履歴数が指定されていません。

[意味]

「ユーザ内履歴数」の項目が指定されていません。

[対処]

「ユーザ内履歴数」の項目を指定してください。

KDGM141-I

ワーク下のオブジェクト数（最大値）が指定されていません。

[意味]

「ワーク下のオブジェクト数（最大値）」の項目が指定されていません。

[対処]

「ワーク下のオブジェクト数（最大値）」の項目を指定してください。

KDGM152-I

サーバに登録するユーザ数の最大値は 3000 です。

[意味]

「サーバに登録するユーザ数」の指定値が 3000 を超えています。

[対処]

「サーバに登録するユーザ数」は 1～3000 の範囲で指定してください。

KDGM153-I

サーバに登録するユーザ数の最小値は 1 です。

[意味]

「サーバに登録するユーザ数」の指定値が 1 未満になっています。

[対処]

「サーバに登録するユーザ数」は 1～3000 の範囲で指定してください。

KDGM154-I

サーバに登録するユーザ数の指定が不正です。

[意味]

「サーバに登録するユーザ数」として半角数値以外の文字が指定されています。

[対処]

「サーバに登録するユーザ数」は半角の数値で指定してください。

KDGM157-I

データベース作成ディレクトリ名称が不正です。

[意味]

データベース作成ディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

データベース作成ディレクトリ名称の指定内容を確認してください。データベース作成ディレクトリ名称の指定規則は次のとおりです。

- 長さ：175 文字以内
- 使用できない文字：半角の空白

KDGM158-I

データベース名称が指定されていません。

[意味]

「データベース名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「データベース名称」の項目を指定してください。

KDGM160-I

サーバに登録するユーザ数が指定されていません。

[意味]

「サーバに登録するユーザ数」の項目が指定されていません。

[対処]

「サーバに登録するユーザ数」の項目を指定してください。

KDGM161-I

データベース作成ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM164-I

1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が指定されていません。

[意味]

「1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値」の項目が指定されていません。

[対処]

「1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値」の項目を指定してください。

KDGM165-I

1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が指定されていません。

[意味]

「1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値」の項目が指定されていません。

[対処]

「1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値」の項目を指定してください。

KDGM166-I

フォルダ数が指定されていません。

[意味]

「フォルダ数」の項目が指定されていません。

[対処]

「フォルダ数」の項目を指定してください。

KDGM167-I

フォルダ数の指定範囲は2~1000000です。

[意味]

「フォルダ数」の指定値が2~1000000の範囲外になっています。

[対処]

「フォルダ数」は2~1000000の範囲で指定してください。

KDGM168-I

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均が指定されていません。

[意味]

「サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均」の項目が指定されていません。

[対処]

「サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均」の項目を指定してください。

KDGM169-I

データベース名称（スキーマ名称）に不正な文字または文字列が指定されています。

[意味]

データベース名称（スキーマ名称）として不適切な文字又は文字列が指定されています。

[対処]

データベース名称（スキーマ名称）は、次に示す規則に従って指定してください。

- 長さ：63文字以内
- 使用できる文字：英大文字,英小文字,数字,「_（アンダーライン）」,空白以外の2バイトコード
- 使用できない文字：「IS_」,「WF_」,「_（アンダーライン）」で始まる文字列,「MASTER」を含む文字列

KDGM172-I

ホスト名称の長さが 255 文字を超えています。

[意味]

サーバマシンのホスト名称が 255 文字を超えています。

[対処]

サーバマシンのホスト名称を 255 文字以内に設定してください。ホスト名称にはドメインネームシステムのホスト名が適用されます。

KDGM184-I

E-mail アドレスの平均長が指定されていません。

[意味]

「E-mail アドレスの平均長」の項目が指定されていません。

[対処]

「E-mail アドレスの平均長」の項目を指定してください。

KDGM185-I

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均が指定されていません。

[意味]

「1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均」の項目が指定されていません。

[対処]

「1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均」の項目を指定してください。

KDGM188-I

プリンタを選択してください。

[意味]

使用するプリンタが選択されていません。

[対処]

使用するプリンタを選択してください。

KDGM189-I

ホスト名称が指定されていません。

[意味]

サーバマシンのホスト名称が設定されていません。

[対処]

サーバマシンのホスト名称を設定してください。ホスト名称にはドメインネームシステムのホスト名が適用されます。

KDGM191-I

ホスト名称に不正な文字が含まれています。

[意味]

サーバマシンのホスト名称に不適切な文字が含まれています。

[対処]

サーバマシンのホスト名称を、次に示す規則に従って設定してください。ホスト名称にはドメインネームシステムのホスト名が適用されます。

- 長さ：255 文字以内
- 使用できる文字：半角英数字, 「- (ハイフン)」, 「. (ピリオド)」

KDGM193-I

サイト名が指定されていません。

[意味]

「サイト名」の項目が指定されていません。

[対処]

「サイト名」の項目を指定してください。

KDGM194-I

サーバ名が指定されていません。

[意味]

「サーバ名」の項目が指定されていません。

[対処]

「サーバ名」の項目を指定してください。

KDGM195-I

プリンタ名が指定されていません。

[意味]

「プリンタ名」の項目が指定されていません。

[対処]

「プリンタ名」の項目を指定してください。

KDGM196-I

サイト名に不正な文字が含まれています。

[意味]

サイト名として不適切な文字が指定されています。

[対処]

サイト名は、次に示す規則に従って指定してください。

- 長さ：全角 16 文字以内, 半角 32 文字以内
- 使用できない文字：半角及び全角の空白, 「¥」, 「” (ダブルクォーテーション)」

KDGM197-I

サーバ名に不正な文字が含まれています。

[意味]

サーバ名として不適切な文字が指定されています。

[対処]

サーバ名は、次に示す規則に従って指定してください。

- 長さ：全角 16 文字以内，半角 32 文字以内
- 使用できない文字：半角及び全角の空白，「¥」，「”（ダブルクォーテーション）」

KDGM200-I

E-mail アドレスの平均長の指定範囲は 1～256 です。

[意味]

「E-mail アドレスの平均長」の指定値が 1～256 の範囲外になっています。

[対処]

「E-mail アドレスの平均長」は 1～256 の範囲で指定してください。

KDGM201-I

文書実体ディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「文書実体ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「文書実体ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM202-I

文書実体ディレクトリ名称が不正です。

[意味]

文書実体ディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

文書実体ディレクトリ名称の指定内容を確認してください。文書実体ディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：58 文字以内
- 使用できない文字：「'（シングルクォーテーション）」，「?」，「”（ダブルクォーテーション）」，「/」，「\」，「|」，「<」，「>」，「*」，「!」，「¥」，半角のスペース

KDGM203-I

文書実体ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM204-I

作業領域ディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「作業領域ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「作業領域ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM205-I

作業領域ディレクトリ名称が不正です。

[意味]

作業領域ディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

作業領域ディレクトリ名称の指定内容を確認してください。作業領域ディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：56 文字以内
- 使用できない文字：' (シングルクォーテーション)], [?], " (ダブルクォーテーション)], [/], [()], [<], [>], [*], [;], [¥], 半角のスペース

KDGM206-I

作業領域ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM207-I

スプールディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「スプールディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「スプールディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM208-I

スプールディレクトリ名称が不正です。

[意味]

スプールディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

スプールディレクトリ名称の指定内容を確認してください。スプールディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：55 文字以内

- 使用できない文字：「'」（シングルクォーテーション）, 「?」, 「"」（ダブルクォーテーション）, 「/」, 「\」, 「|」, 「<」, 「>」, 「*」, 「!」, 「¥」, 半角のスペース

KDGM209-I

スプールディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM210-I

文書実体ディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「文書実体ディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「文書実体ディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM211-I

文書実体ディレクトリ名称が不正です。

[意味]

文書実体ディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

文書実体ディレクトリ名称の指定内容を確認してください。文書実体ディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：122 文字以内
- 使用できない文字：「'」（シングルクォーテーション）, 「?」, 「"」（ダブルクォーテーション）, 「/」, 「\」, 「|」, 「<」, 「>」, 「*」, 「!」, 「¥」, 半角のスペース

KDGM212-I

文書実体ディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM213-I

ワークエリアディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「ワークエリアディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「ワークエリアディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM214-I

ワークエリアディレクトリ名称が不正です。

[意味]

ワークエリアディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

ワークエリアディレクトリ名称の指定内容を確認してください。ワークエリアディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：119 文字以内
- 使用できない文字：' (シングルクォーテーション), [?], " (ダブルクォーテーション), [/], [], [)], [<], [>], [*], [|], [¥], 半角のスペース

KDGM215-I

ワークエリアディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM216-I

ログ情報エリアディレクトリ名称が指定されていません。

[意味]

「ログ情報エリアディレクトリ名称」の項目が指定されていません。

[対処]

「ログ情報エリアディレクトリ名称」の項目を指定してください。

KDGM217-I

ログ情報ディレクトリ名称が不正です。

[意味]

ログ情報エリアディレクトリ名称として不適切な文字が含まれています。

[対処]

ログ情報エリアディレクトリ名称の指定内容を確認してください。ログ情報エリアディレクトリ名称の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：120 文字以内
- 使用できない文字：' (シングルクォーテーション), [?], " (ダブルクォーテーション), [/], [], [)], [<], [>], [*], [|], [¥], 半角のスペース

KDGM218-I

ログ情報エリアディレクトリ名称に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

当該ディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM219-I

組織 ID が指定されていません。

[意味]

「組織 ID」の項目が指定されていません。

[対処]

「組織 ID」の項目を指定してください。

KDGM222-I

組織日本語名が指定されていません。

[意味]

「組織日本語名」の項目が指定されていません。

[対処]

「組織日本語名」の項目を指定してください。

KDGM225-I

ユーザ ID が指定されていません。

[意味]

「ユーザ ID」の項目が指定されていません。

[対処]

「ユーザ ID」の項目を指定してください。

KDGM228-I

日本語氏名が指定されていません。

[意味]

「日本語氏名」の項目が指定されていません。

[対処]

「日本語氏名」の項目を指定してください。

KDGM231-I

英語姓が指定されていません。

[意味]

「英語姓」の項目が指定されていません。

[対処]

「英語姓」の項目を指定してください。

KDGM234-I

英語名が指定されていません。

[意味]

「英語名」の項目が指定されていません。

[対処]

「英語名」の項目を指定してください。

KDGM237-I

ニックネームが指定されていません。

[意味]

「ニックネーム」の項目が指定されていません。

[対処]

「ニックネーム」の項目を指定してください。

KDGM303-E

システムのファイルをオープン出来ません。処理を中断します。ファイル名：ssssss 詳細内容：dddddd

[意味]

Windows NT のシステムファイルのオープンに失敗しました。ssssss にはオープンに失敗したシステムファイルの名称、dddddd には失敗した要因の詳細情報が設定されます。

[対処]

ssssss で示されたファイルが削除又は破壊されている可能性があります。ファイルの再作成又は WindowsNT の再インストールを実行してください。

KDGM304-E

システムの環境変数が設定されていません。処理を中断します。環境変数：ssssss

[意味]

Windows NT のシステム環境変数が設定されていません。ssssss には、設定されていない環境変数の名称が設定されます。

[対処]

ssssss で示された環境変数の設定をしてください。

KDGM309-E

環境設定の情報を格納するためのディレクトリの初期化(削除)に失敗したため、処理を中断します。ディレクトリ名：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

Setup Wizard で使用しているディレクトリの削除に失敗しました。ssssss には削除に失敗したディレクトリの名称、nnnnnn には失敗した要因の詳細情報が設定されます。

[対処]

ssssss で示されたディレクトリが他のアプリケーション(ファイルマネージャ, エクスプローラなど)によって選択されている可能性があります。動作中のアプリケーションの状態を確認してください。

KDGM310-I

全組織数の指定範囲は 1~9999 です。

[意味]

「全組織数」の指定値が 1~9999 の範囲外になっています。

[対処]

「全組織数」は 1~9999 の範囲で指定してください。

KDGM311-I

送信メール 1 通あたりの宛先数の平均の指定範囲は 1~999 です。

[意味]

「送信メール 1 通あたりの宛先数の平均」の指定値が 1~999 の範囲外になっています。

[対処]

「送信メール 1 通あたりの宛先数の平均」は 1~999 の範囲で指定してください。

KDGM312-I

全マスタ掲示板数の指定範囲は 1~9999 です。

[意味]

「全マスタ掲示板数」の指定値が 1~9999 の範囲外になっています。

[対処]

「全マスタ掲示板数」は 1~9999 の範囲で指定してください。

KDGM313-I

1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均の指定範囲は 1~999 です。

[意味]

「1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均」の指定値が 1~999 の範囲外になっています。

[対処]

「1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均」は 1~999 の範囲で指定してください。

KDGM314-I

1 人が 1 日に送信するメール数の指定範囲は 1~999 です。

[意味]

「1 人が 1 日に送信するメール数」の指定値が 1~999 の範囲外になっています。

[対処]

「1 人が 1 日に送信するメール数」は 1~999 の範囲で指定してください。

KDGM315-I

サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均の指定範囲は 1~999999 です。

[意味]

「サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均」の指定値が 1~999999 の範囲外になっています。

[対処]

「サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均」は 1~999999 の範囲で指定してください。

KDGM316-I

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均の指定範囲は 1~8 です。

[意味]

「1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均」の指定値が 1~8 の範囲外になっています。

[対処]

「1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均」は 1~8 の範囲で指定してください。

KDGM320-I

全フォーム文書数が指定されていません。

[意味]

「全フォーム文書数」の項目が指定されていません。

[対処]

「全フォーム文書数」の項目を指定してください。

KDGM321-I

全フォーム文書数の平均の指定範囲は 1~1000000 です。

[意味]

「全フォーム文書数の平均」の指定値が 1~1000000 の範囲外になっています。

[対処]

「全フォーム文書数の平均」は 1~1000000 の範囲で指定してください。

KDGM322-I

文書あたりに保持するバージョン数が指定されていません。

[意味]

「文書あたりに保持するバージョン数」の項目が指定されていません。

[対処]

「文書あたりに保持するバージョン数」の項目を指定してください。

KDGM323-I

文書あたりに保持するバージョン数の指定範囲は 1~99 です。

[意味]

「文書あたりに保持するバージョン数」の指定値が 1~99 の範囲外になっています。

[対処]

「文書あたりに保持するバージョン数」は1～99の範囲で指定してください。

KDGM324-I

分類、分類索引の総数が指定されていません。

[意味]

「分類、分類索引の総数」の項目が指定されていません。

[対処]

「分類、分類索引の総数」の項目を指定してください。

KDGM325-I

分類、分類索引の総数の指定範囲は1～1000000です。

[意味]

「分類、分類索引の総数」の指定値が1～1000000の範囲外になっています。

[対処]

「分類、分類索引の総数」は1～1000000の範囲で指定してください。

KDGM326-I

全一般文書数が指定されていません。

[意味]

「全一般文書数」の項目が指定されていません。

[対処]

「全一般文書数」の項目を指定してください。

KDGM327-I

全一般文書数の指定範囲は1～1000000です。

[意味]

「全一般文書数」の指定値が1～1000000の範囲外になっています。

[対処]

「全一般文書数」は1～1000000の範囲で指定してください。

KDGM328-I

フォーム文書データベース数が指定されていません。

[意味]

「フォーム文書データベース数」の項目が指定されていません。

[対処]

「フォーム文書データベース数」の項目を指定してください。

KDGM329-I

フォーム文書データベース数の指定範囲は0～5000です。

[意味]

「フォーム文書データベース数」の指定値が0～5000の範囲外になっています。

[対処]

「フォーム文書データベース数」は0～5000の範囲で指定してください。

KDGM330-I

一般文書データベース数が指定されていません。

[意味]

「一般文書データベース数」の項目が指定されていません。

[対処]

「一般文書データベース数」の項目を指定してください。

KDGM331-I

一般文書データベース数の指定範囲は1～5000です。

[意味]

「一般文書データベース数」の指定値が1～5000の範囲外になっています。

[対処]

「一般文書データベース数」は1～5000の範囲で指定してください。

KDGM332-I

1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数の指定範囲は0～100です。

[意味]

「1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数」の指定値が0～100の範囲外になっています。

[対処]

「1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数」は0～100の範囲で指定してください。

KDGM333-I

1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数の指定範囲は0～100です。

[意味]

「1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数」の指定値が0～100の範囲外になっています。

[対処]

「1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数」は0～100の範囲で指定してください。

KDGM334-I

1ユーザあたりの同時アクセス文書数が指定されていません。

[意味]

「1ユーザあたりの同時アクセス文書数」の項目が指定されていません。

[対処]

「1 ユーザあたりの同時アクセス文書数」の項目を指定してください。

KDGM335-I

1 ユーザあたりの同時アクセス文書数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「1 ユーザあたりの同時アクセス文書数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「1 ユーザあたりの同時アクセス文書数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM340-I

1 日あたりのワーク数の指定範囲は 1～9999 です。

[意味]

「1 日あたりのワーク数」の指定値が 1～9999 の範囲外になっています。

[対処]

「1 日あたりのワーク数」は 1～9999 の範囲で指定してください。

KDGM341-I

ワーク処理日数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「ワーク処理日数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「ワーク処理日数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM342-I

ワーク保存日数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「ワーク保存日数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「ワーク保存日数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM343-I

1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM344-I

ビジネスプロセス定義数の指定範囲は 1～9999 です。

[意味]

「ビジネスプロセス定義数」の指定値が 1～9999 の範囲外になっています。

[対処]

「ビジネスプロセス定義数」は 1～9999 の範囲で指定してください。

KDGM345-I

ワーク内のケース数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「ワーク内のケース数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「ワーク内のケース数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM346-I

ケース内の文書数の指定範囲は 1～999 です。

[意味]

「ケース内の文書数」の指定値が 1～999 の範囲外になっています。

[対処]

「ケース内の文書数」は 1～999 の範囲で指定してください。

KDGM347-I

ロール数の指定範囲は 1～9999 です。

[意味]

「ロール数」の指定値が 1～9999 の範囲外になっています。

[対処]

「ロール数」は 1～9999 の範囲で指定してください。

KDGM348-I

同時ログインするユーザ数の指定範囲は 1～1000 です。

[意味]

「同時ログインするユーザ数」の指定値が 1～1000 の範囲外になっています。

[対処]

「同時ログインするユーザ数」は 1～1000 の範囲で指定してください。

KDGM350-I

プリンタ名に不正な文字が含まれています。

[意味]

プリンタ名として不適切な文字が含まれています。

[対処]

プリンタ名の指定内容を確認してください。プリンタ名の指定には、次に示す規則があります。

- 長さ：128 文字以内

- 使用できない文字：半角の空白

KDGM352-E

レジストリの読み込みに失敗しました。対象 PP：ssssss エラー箇所：dddddd エラー番号：nnnnnn

[意味]

Groupmax サーバのレジストリの読み込みに失敗しました。ssssss には読み込みに失敗した Groupmax サーバの名称, ddddd には読み込みに失敗したレジストリの名称, nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

Groupmax サーバのインストールが失敗している可能性があります。ssssss に示される Groupmax サーバのインストール状態を確認してください。

KDGM353-I

指定されたディレクトリは作成できません。

[意味]

指定されたディレクトリは作成できません。

[対処]

ディレクトリの指定内容を確認してください。

KDGM354-I

設定の途中でキャンセルを実行した場合、設定内容はすべて無効になります。キャンセルを実行しますか？

[意味]

Setup Wizard のキャンセルを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、キャンセルを実行します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、キャンセルの処理は取り消されます。

KDGM402-I

ファイルをオープンできません。ファイル名：ssssss 詳細内容：dddddd

[意味]

指定されたファイルのオープンに失敗しました。ssssss にはオープンに失敗したファイルの名称, ddddd にはエラーの詳細を示す情報が設定されます。

[対処]

ファイルの指定内容を確認してください。

KDGM407-E

システムのファイルへの出力に失敗しました。処理を中断します。ファイル名：ssssss

[意味]

Windows NT のシステムファイルの出力に失敗しました。ssssss には出力に失敗したファイルの名称が設定されます。

[対処]

ssssss で示されたファイルが書き込み可能な状態になっていることを確認してください。

KDGM414-I

データベース作成ディレクトリが指定されていません。

[意味]

「データベース作成ディレクトリ」の項目が指定されていません。

[対処]

「データベース作成ディレクトリ」の項目を指定してください。

KDGM415-I

サーバの起動を中止します。再セットアップを行う場合、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより設定の初期化を行う必要があります。起動を中止しますか？

[意味]

Setup Wizard のサーバ起動処理の中止を確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、中止を実行します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、中止の処理は取り消されます。中止を実行した後に再度設定をする場合は、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンで設定の初期化をする必要があります。

KDGM418-I

キャンセルボタンによりサーバ起動処理が中止されました。

[意味]

サーバの起動処理の中止完了を通知するメッセージです。

[対処]

特にありません。

KDGM419-E

サーバの起動に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：ssssss

[意味]

サーバの起動に失敗しました。ssssss には起動に失敗したサーバの名称および詳細情報が設定されません。

[対処]

イベントビューア等によりサーバの起動失敗の要因を調査してください。要因が不明の場合、メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

※：Address Server のサービスに誤ったログオンアカウント／パスワードが設定されている場合や、ログオンアカウントに Administrators 権限及びサービスのログオン権限がない場合、Address Server の起動が失敗します。「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより設定の初期化を行い、再度 Server Setup Wizard を実行してください。

KDGM420-E

サーバの停止に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：ssssss

[意味]

サーバの停止に失敗しました。ssssss には停止に失敗したサーバの名称及び詳細情報が設定されます。

[対処]

イベントビューア等によりサーバの停止失敗の要因を調査してください。要因が不明の場合、メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM421-E

サーバのセットアップに失敗しました。再セットアップを行う場合、「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより設定の初期化を行う必要があります。

[意味]

セットアップに失敗したため、処理を中止しました。失敗した要因については、このメッセージの直前に表示されます。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化を実行してから、Server Setup Wizard 環境設定を再実行してください。

KDGM422-E

前回のセットアップが、キャンセルによる中断または異常終了により終了しているため、サーバの構成変更を行うことが出来ません。「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

前回のセットアップが正常に終了していないため、構成変更ができません。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化を実行してから、Server Setup Wizard 環境設定を再実行してください。

KDGM500-I

アカウントが指定されていません。

[意味]

「アカウント」の項目が指定されていません。

[対処]

「アカウント」の項目を指定してください。

KDGM501-E

システム関数でエラーが発生しました。関数名称：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

システムの関数でエラーが発生しました。ssssss にはエラーとなった関数の名称、nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて

KDGM502-W

サービス制御データベースがロックされています。自動起動の設定およびアカウントの変更を行わずに処理を続行しますか？

[意味]

サービスのデータベースが「コントロールパネル」の「サービス」などによってロックされているため、サービスの自動起動及びアカウントの設定ができません。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、サービスの自動起動及びアカウントの設定をしないで処理を終了します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、再び自動起動設定の画面に戻ります。

※：「はい」のボタンをクリックして処理を終了した場合、「コントロールパネル」の「サービス」を選択して自動/手動起動の設定及び Groupmax Address Server のログオンアカウントの設定を手作業でする必要があります。

KDGM503-I

指定されたアカウントが不正です。

[意味]

指定されたアカウントの内容が不正又は存在しません。

[対処]

アカウントの内容を確認してください。

KDGM504-I

ファイルが作成できません。 ファイル名：ssssss エラー番号：dddddd

[意味]

指定されたファイルの作成に失敗しました。ssssss には作成に失敗したファイルの名称、dddddd にはエラーの詳細を示す情報が設定されます。

[対処]

ファイルの指定内容を確認してください。

KDGM505-E

Server Setup Wizard のファイルに不正を検出しました。ファイル名：ssssss

[意味]

Server Setup Wizard が使用するファイルの内容に不正を検出しました。ssssss には不正を検出したファイルの名称が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて

KDGM506-E

レジストリの読み込みに失敗しました。レジストリ名：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

Groupmax サーバのレジストリの読み込みに失敗しました。ssssss には読み込みに失敗したレジストリの名称, nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

Groupmax サーバのインストールが失敗している可能性があります。ssssss に示されるレジストリに対応した Groupmax サーバのインストール状態を確認してください。

KDGM507-E

ユーザ ID のチェックに失敗しました。コマンド名：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

ユーザ ID のチェックコマンドの実行に失敗しました。ssssss には実行に失敗したコマンドの名称, nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM508-E

ユーザ ID の登録に失敗しました。コマンド名：ssssss ログファイル名：dddddd

[意味]

ユーザ ID の登録コマンドの実行に失敗しました。ssssss には実行に失敗したコマンドの名称、dddddd にはエラーログのファイル名称が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM509-E

ユーザ ID 登録コマンドの実行に失敗しました。コマンド名：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

ユーザ ID の登録コマンドの実行に失敗しました。ssssss には実行に失敗したコマンドの名称、nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM510-I

削除するユーザを選択してください。

[意味]

削除するユーザが選択されていません。

[対処]

削除するユーザを選択してください。

KDGM511-I

すべてのユーザ情報を削除することは出来ません。

[意味]

すべてのユーザ情報のエントリを削除しようとしてしました。

[対処]

ユーザ情報のエントリは 1 つ以上必要です。

KDGM512-I

最終行以外では、入力項目の省略はできません。

[意味]

ユーザ情報エントリのすべての入力項目が省略されています。

[対処]

最終行以外では、ユーザ情報エントリのすべての入力項目の省略はできません。

KDGM513-I

ユーザ ID が入力されていません。

[意味]

「ユーザ ID」の項目が指定されていません。

[対処]

「ユーザ ID」の項目を指定してください。

KDGM514-I

ユーザ ID の登録が終了しました。

[意味]

ユーザ ID の登録が正常に終了したことを通知するメッセージです。

[対処]

特にありません。

KDGM520-W

ユーザ ID の登録に失敗しました。処理を続行しますが、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。

[意味]

ユーザ ID の登録が異常終了したことを通知するメッセージです。

[対処]

ユーザ ID の登録が行われていない可能性があるため、Setup Wizard 終了後、手作業でユーザ ID の登録をする必要があります。

KDGM521-W

サービスの自動起動登録に失敗しました。Groupmax サーバの自動起動が行えない可能性があります。

[意味]

サービスの自動起動又はログオンアカウントの登録が異常終了したことを通知するメッセージです。

[対処]

サービスの自動起動又はログオンアカウントが登録されていない可能性があるため、Setup Wizard 終了後、「コントロールパネル」の「サービス」を選択して自動/手動起動の設定及び Groupmax Address Server のログオンアカウントの設定を手作業でする必要があります。

KDGM522-I

ユーザ ID の登録をキャンセルした場合、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。キャンセルしますか？

[意味]

ユーザ ID の登録キャンセルを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、ユーザ ID の登録をキャンセルして処理を続行します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、キャンセルの処理は取り消されます。キャンセルを実行した場合は、Setup Wizard 終了後、手作業でユーザ ID の登録をする必要があります。

KDGM523-I

サービスの自動起動および起動時のログオン情報の設定をキャンセルした場合、Groupmax サーバの起動が失敗する可能性があります。キャンセルしますか？

[意味]

サービスの自動起動及びログオンアカウントの設定キャンセルを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、サービスの自動起動及びログオンアカウントの設定をキャンセルして Setup Wizard を終了します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、キャンセルの処理は取り消されます。キャンセルを実行した場合は、「コントロールパネル」の「サービス」を選択して自動/手動起動の設定及び Groupmax Address Server のログオンアカウントの設定を手作業でする必要があります。

KDGM524-I

ユーザの登録やサービスの起動設定を行わずにキャンセルした場合、Groupmax サーバの起動/ログインに失敗する可能性があります。キャンセルしますか？

[意味]

ユーザ ID の登録、サービスの自動起動及びログオンアカウントの設定キャンセルを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、ユーザ ID の登録、サービスの自動起動及びログオンアカウントの設定をキャンセルして Setup Wizard を終了します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、キャンセルの処理は取り消されます。キャンセルを実行した場合は、ユーザ ID の登録、「コントロールパネル」の「サービス」での自動/手動起動の設定及び Groupmax Address Server のログオンアカウントの設定を手作業でする必要があります。

KDGM525-I

入力されたパスワードとパスワード確認の項目の内容が異なります。再度入力してください。

[意味]

「パスワード」と「パスワード確認」の項目で指定された内容が異なります。

[対処]

「パスワード」と「パスワード確認」の項目を再度入力してください。

KDGM526-E

サーバの自動起動登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：dddddd

[意味]

サービスの自動登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ssssss にはオープンに失敗したファイルの名称, dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。再度 Setup Wizard のインストールをしてください。

KDGM527-E

ユーザ ID の登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：ddddd

[意味]

ユーザ ID の登録に必要なファイルのオープンに失敗しました。ssssss にはオープンに失敗したファイルの名称, dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。再度 Setup Wizard のインストールをしてください。

KDGM528-I

ファイルの内容が不正です。指定されたファイルはユーザ ID 登録ファイルではありません。

[意味]

ユーザ ID 登録ファイル以外のファイルが指定されました。

[対処]

ファイル名称を確認して、再度ユーザ ID 登録ファイルを指定してください。

KDGM529-E

Server Setup Wizard のファイルの操作に失敗しました。ファイル名：ssssss 詳細情報：ddddd

[意味]

Server Setup Wizard が使用するファイルの内容に不正を検出しました。ssssss には不正を検出したファイルの名称, dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて

KDGM530-I

日本語氏名の指定が重複しています。

[意味]

日本語氏名の指定が重複しています。

[対処]

日本語氏名の指定内容を確認してください。

KDGM531-I

英語姓, 英語名の指定が重複しています。

[意味]

英語姓, 英語名の指定が重複しています。

[対処]

英語姓, 英語名の指定内容を確認してください。

KDGM532-I

入力されたユーザ ID は Groupmax で予約されているため使用できません。

[意味]

入力されたユーザ ID は Groupmax システムで使用されるため, 一般のユーザとしては使用できません。

[対処]

以下に示すユーザ ID 以外を使用してください。

- system
- DMMSERV
- DMSxxxxx (xxxxx は任意の 5 桁の数字を示す)
- WFMSERV
- WFSxxxxx (xxxxx は任意の 5 桁の数字を示す)

KDGM533-I

入力されたニックネームは Groupmax で予約されているため使用できません。

[意味]

入力されたニックネームは Groupmax システムで使用されるため, 一般のユーザとしては使用できません。

[対処]

以下に示すニックネーム以外を使用してください。

- s.system
- D.DMMSERV
- D.DMSxxxxx (xxxxx は任意の 5 桁の数字を示す)
- W.WFMSERV
- W.WFSxxxxx (xxxxx は任意の 5 桁の数字を示す)

KDGM550-E

ssssss の環境を設定するコマンドが異常終了しました。コマンド名: ddddddd エラー番号: nnnnnn

[意味]

サーバの環境設定を行うコマンドの実行に失敗しました。ssssss にはサーバの名称, ddddddd には実行に失敗したコマンドの名称, nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM551-E

sssss の環境を設定するコマンドの実行に失敗しました。 コマンド名：dddddd

[意味]

サーバの環境を設定するコマンドの実行に失敗しました。 ssssss にはサーバの名称, dddddd には実行に失敗したコマンドの名称が設定されます。

[対処]

メッセージ及び次に示す資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM560-E

Groupmax Version x のプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を行えません。

[意味]

Groupmax Version x のプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を実行できません。

x は Setup Wizard の前提バージョンを示します。

[対処]

Groupmax Version x のプログラムプロダクトをインストールしてください。

KDGM561-E

Groupmax Version x より古いバージョンのプログラムプロダクトが混在しているため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。

[意味]

Groupmax Version x より古いバージョンのプログラムプロダクトが混在しているため、環境設定を実行できません。

x は Setup Wizard の前提バージョンを示します。

[対処]

表示されているプログラムプロダクトを、Version x にバージョンアップしてください。

KDGM563-E

環境設定済みの Groupmax Version x プログラムプロダクトが存在するため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。

[意味]

環境設定済みの Groupmax Version x プログラムプロダクトが存在するため、環境設定を実行できません。

x は Setup Wizard の前提バージョンを示します。

[対処]

「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンを使用して、設定の初期化をしてください。設定の初期化をしてもこのメッセージが出力される場合は、該当プログラムプロダクトの再インストールをしてください。また、再インストールをしても Groupmax Workflow Server が環境設定済みとなる場合は、次に示す手順で Groupmax Workflow Server の初期化をしてください。

(1) Workflow Server の環境設定時に指定した文書実体ディレクトリ、ワークエリアディレクトリ、ログ情報エリアディレクトリを手動で削除する。

(2) Workflow Server のデータベースディレクトリ*を手動で削除する。

※通常は共通設定画面の「データベース作成ディレクトリ」で指定したディレクトリとなりますが、「プログラム毎の設定」チェックボックスを指定した場合は、ワークフロー詳細画面の「ディレクトリ名称」で指定したディレクトリとなります。

(3) 「Server Setup Wizard 設定初期化」アイコンで設定の初期化をする。

KDGM565-E

IP アドレスが設定されていないため、環境設定を実行することができません。

[意味]

TCP/IP の IP アドレスが設定されていないため、環境設定を実行できません。

[対処]

WindowsNT の TCP/IP の設定を確認してください。

KDGM566-E

以下のプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を行えません。該当プログラムプロダクトを次に示します。

[意味]

環境設定に必要なプログラムプロダクトがインストールされていないため、環境設定を実行できません。

[対処]

表示されているプログラムプロダクトをインストールしてください。

KDGM568-E

以下のプログラムプロダクトが動作中のため、環境設定を実行することが出来ません。プログラムプロダクトの停止を行い、再度環境設定を実行してください。

[意味]

環境設定の対象となるプログラムプロダクトが動作中のため、環境設定を実行できません。

[対処]

表示されているプログラムプロダクトを停止させて、再度、環境設定を実行してください。

KDGM569-I

構成変更の場合、「iiii」の項目は現在の設定値よりも小さな値を設定することはできません。

[意味]

構成変更をする場合、iiii で示された項目には、設定済みの値よりも小さな値は設定できません。

[対処]

設定済みの値と同じ値、又は大きな値を設定してください。

KDGM570-I

「iiii」の指定範囲はaaaaa~bbbbbb です。

[意味]

iiii で示された項目の指定値が、指定できる範囲を超えています。

[対処]

aaaaa~bbbbbb で示される範囲内で、値を再設定してください。

KDGM571-I

「iiii」の項目が指定されていません。

[意味]

iiii で示された項目が指定されていません。

[対処]

項目を指定してください。

KDGM572-I

「iiii」に固定ディスク以外のドライブは指定できません。

[意味]

iiii で示されたディレクトリには固定ディスク以外は指定できません。

[対処]

固定ディスクのディレクトリを指定してください。

KDGM573-I

「iiii」の指定内容が不正です。

[意味]

iiii で示された項目の指定内容が不正です。

[対処]

項目の内容を確認してください。各項目の指定内容については、各画面の「ヘルプ」ボタンでヘルプを参照してください。

KDGM574-I

[iiii] の項目には [jjjj] の項目よりも小さい値は指定できません。

[意味]

iiii で示された項目には jjjj で示された項目よりも小さい値は指定できません。

[対処]

jjjj で示された項目よりも大きな値を指定してください。

KDGM575-W

クライアントに対する保留ダイアログが Agent Server に存在しているため、Agent Server の構成変更が行えません。処理を続行しますが、Agent Server の構成変更は行われません。

[意味]

クライアントに対する保留ダイアログが存在する場合、「クライアント未起動時の最大保留メッセージ数」、「クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間」及び「同時にログインできるユーザの最大数」は変更できません。

[対処]

保留ダイアログが存在する状態で「クライアント未起動時の最大保留メッセージ数」、「クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間」及び「同時にログインできるユーザの最大数」を変更する場合には、Groupmax Agent Server の運用コマンド agmgr コマンドで変更してください。agmgr コマンドで上記の設定を変更すると、クライアントに対して保留しているダイアログはすべて破棄されます。

agmgr コマンドの詳細は、マニュアル「Windows NT Groupmax Agent Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。

KDGM576-I

[iiii] で指定されたファイルが存在しません。処理を続行しますか？

[意味]

iiii で示された項目で指定されたファイルが存在しません。

[対処]

指定したファイルの名称が正しいかどうかを確認してください。プログラムプロダクトのインストールなどによって当該ファイルが後で作成される場合は、「はい」ボタンをクリックして処理を続行してください。

KDGM577-E

前回行ったセットアップの情報の読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

前回行ったセットアップ情報の読み込みに失敗しました。Setup Wizard 関連のファイルが破壊されている可能性があります。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化アイコンで設定の初期化をしてから、再度環境設定を実行してください。

KDGM578-E

前回セットアップされていた sssss がセットアップ未完了の状態になっているため、処理を中止します。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

前回セットアップされていたプログラムプロダクト sssss が、セットアップ未完了の状態になっています。プログラムプロダクトが削除された可能性があります。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化アイコンで設定の初期化をしてから、再度環境設定を実行してください。

KDGM579-E

前回セットアップされていない sssss がセットアップ完了済みの状態になっているため、処理を中止します。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

前回セットアップされていないプログラムプロダクト sssss が、セットアップ完了済みの状態になっています。プログラムプロダクト固有のセットアップコマンドでセットアップされた可能性があります。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化アイコンで設定の初期化をしてから、再度環境設定を実行してください。

KDGM580-W

sssss のユーザ情報の更新処理に失敗しました。処理を続行しますが、Groupmax サーバへのログインが出来ない可能性があります。

[意味]

サーバの構成変更時に、sssss で示したサーバのユーザ情報の更新処理に失敗しました。

[対処]

サーバのセットアップ完了後に、sssss で示したサーバのユーザ情報を手作業で更新してください。

KDGM581-I

セットアップ済みのサーバが存在するため、構成変更を行います。構成変更時の障害によるデータの破壊を防ぐため、各サーバプログラムプロダクトのデータのバックアップを取得してください。

[意味]

サーバの構成変更に備えて、データのバックアップ取得を促すメッセージです。

[対処]

各サーバプログラムプロダクトのデータのバックアップを取得してください。

KDGM582-I

iiii のポート番号は Groupmax により予約されています。再度入力してください。

[意味]

iiii で示したポート番号は Groupmax に予約されているため、使用できません。

[対処]

iiii 以外のポート番号を使用してください。

KDGM583-I

[iiii] で指定されたファイルが存在しません。処理を続行しますが、当該ファイルの作成またはインストールを行う必要があります。

[意味]

iiii で示したファイルが存在しないため、サーバの運用に支障が出る可能性があります。

[対処]

サーバの運用を開始する前に、iiii で示したファイルをインストール又は作成してください。

KDGM584-I

xxxxx より以前のバージョンの Server Setup Wizard によりセットアップが行われているため、構成変更が行えません。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

xxxxx で示したバージョンより前の Setup Wizard でセットアップが行われているため、構成変更が行えません。

[対処]

Server Setup Wizard 設定初期化を実行してから、環境設定を再実行してください。

KDGM585-I

マルチサーバにより環境が構築されているため、構成変更が行えません。環境を新たに構築する場合は、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

マルチサーバで環境が構築されているため、構成変更が行えません。

[対処]

マルチサーバ環境の構成変更はできません。構成変更をする場合は、各サーバプログラムが提供する設定コマンドを使用してください。また、環境を設定し直す場合は、Server Setup Wizard 設定初期化を実行してから、環境設定を再実行してください。

KDGM586-I

セットアップ情報の出力に失敗したため、処理を中断します。ファイル名：sssss

[意味]

セットアップの情報を格納するためのファイル sssss へのデータの出力に失敗しました。

[対処]

sssss で示したファイルがアクセス可能かどうかを確認して、Server Setup Wizard 設定初期化を実行してください。

KDGM587-I

sssss から ttttt への環境の移行は行えません。Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

sssss で示したサーバプログラムが、ttttt で示したサーバプログラムに移行されているため、構成変更ができません。

(例)sssss : Groupmax Object Server

ttttt : Groupmax High-end Object Server

[対処]

High-end サーバプログラムへの環境の移行は支援していません。Server Setup Wizard 設定初期化を実行してから、環境設定を再実行してください。

KDGM588-I

Address Server でマスタ管理サーバのみを環境設定することは出来ません。マスタ管理サーバ+運転席をインストールしてください。

[意味]

Groupmax Address Server がマスタ管理サーバだけでインストールされているため、環境設定ができません。

[対処]

Groupmax Address Server をマスタ管理サーバとして設定する場合、メール運転席が必要となります。マスタ管理サーバ+運転席をインストール後、環境設定を再実行してください。

KDGM589-I

Address Server をシングルサーバとしてセットアップする場合、その他のサーバを親サーバまたは子サーバとしてセットアップすることは出来ません。

[意味]

Groupmax Address Server をシングルサーバとして設定する場合、その他のサーバを親サーバ又は子サーバとして設定できません。

[対処]

マルチサーバ構成の場合は、Groupmax Address Server をマスタ管理サーバ又はアドレスサーバとして設定してください。

KDGM590-I

[iiii] のディレクトリとして「sssss」は指定できません。

[意味]

iiii で示された項目には、sssss で示されたディレクトリは指定できません。

[対処]

sssss で示された以外のディレクトリを再度指定してください。

KDGM591-I

[iiii] で指定されたファイルの名称が不正です。ファイルの名称は完全パス名で指定する必要があります。

[意味]

iiii で示された項目で指定されたファイルの名称が不正です。

[対処]

正しいファイル名称を、完全パス名で入力してください。

KDGM592-W

[iiii] で指定されたファイル「sssss」は既に存在します。指定されたファイルは環境設定時に上書きされます。再度ファイル名を指定しますか？

[意味]

iiii で示された項目で指定されたファイル sssss は既に存在します。ファイル sssss が環境設定時に上書きされてもよいかを確認するメッセージです。

[対処]

指定したファイルの名称が正しいかどうかを確認してください。再度ファイル名称を指定する場合は [はい] ボタンをクリックしてください。指定したファイルが上書きされてもよい場合は [いいえ] ボタンをクリックして処理を続行してください。

KDGM593-I

[iiii] の長さが nnnnn 文字を超えています。

[意味]

iiii で示された項目の長さが nnnnn で示した文字数を超えています。

[対処]

iiii の項目は nnnnn で示した文字数以内で指定してください。

KDGM594-I

[iiii] で指定された「sssss」は既に使用されています。

[意味]

iiii で示された項目で指定された sssss は、既にほかの項目で使用されています。

[対処]

他の項目と重複しないように、iiii で示された項目を再度指定してください。

KDGM595-I

iiii と jjjj で示された項目に同一のファイル名称が指定されています。

[意味]

iiii と jjjj で示された項目に同一のファイル名称が指定されています。

[対処]

ファイル名称が重複しないように再度 iiiii または jjjjj の項目を指定してください。

KDGM596-E

TCP/IP が使用できません。Windows NT にて TCP/IP が使用できる環境を構築してください。詳細情報：
sssss(nnnnn)

[意味]

Windows NT の TCP/IP の通信環境が構築されていません。sssss には実行に失敗した処理の名称、nnnnn には障害の詳細コードが表示されます。

[対処]

Setup Wizard を使用するには、Windows NT の TCP/IP の通信環境が構築されている必要があります。TCP/IP の通信環境を構築後、Setup Wizard を起動してください。

KDGM597-E

services ファイルに sssss が登録されていません。Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥sample ¥services ファイルを参考にして、services ファイルの登録内容を確認してください。

[意味]

Windows NT の services ファイルに、sssss で示したポート番号が登録されていません。

[対処]

sssss で示したポート番号を services ファイルに登録してください。Windows NT の services ファイルは、Windows NT のインストール先ディレクトリ¥system32¥drivers¥etc に格納されています。また、登録するポートの番号は Setup Wizard インストール先ディレクトリ¥samples¥services に記述されています。

KDGM598-E

セットアップ管理デーモンへの接続に失敗しました。「電子アドレス帳/メール」設定画面の管理サーバ名の確認および、管理サーバ上でセットアップ管理デーモンが起動されていることを確認してください。また、既にセットアップ管理デーモンが他の Server Setup Wizard と接続している場合は、接続している Server Setup Wizard の処理が終了してから再度接続を行ってください。詳細情報：sssss(nnnnn)

[意味]

マルチサーバ環境を構築するための管理デーモンである Server Setup Wizard セットアップ管理デーモンへの接続が失敗しました。sssss には実行に失敗した処理の名称、nnnnn には障害の詳細コードが表示されます。

[対処]

以下の要因が考えられます。

- (1) 「電子アドレス帳/メール」設定画面の「管理サーバ名」で指定した名称が誤っている。
 - (2) 「管理サーバ名」で指定したサーバで Server Setup Wizard セットアップ管理デーモンが起動されていない。
 - (3) 「Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン」が既にはかの Setup Wizard と接続している。
- (3) の場合は、接続している Server Setup Wizard の処理が終了してから再度接続をしてください。

KDGM599-E

ファイルの作成に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)

[意味]

環境設定の情報を格納するためのファイル sssss へのデータの出力に失敗しました。nnnnn には障害の詳細コードが表示されます。

[対処]

sssss で示したファイルがアクセス可能かどうかを確認して、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンで設定の初期化をしてください。

KDGM601-I

初期化を実行します。よろしいですか？

[意味]

設定の初期化実行を確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、設定の初期化を実行します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、初期化をしないで処理を終了します。

KDGM602-I

環境の初期化が終了しました。環境設定が正常に終了していない状態で環境の初期化を行った場合、環境の再設定が正常に行えないことがあります。この場合は、Groupmax サーバプロダクトの再インストールを実行してください。

[意味]

設定初期化の終了を通知するメッセージです。

[対処]

特にありません。

KDGM603-I

初期化の実行を中止しました。

[意味]

設定初期化の処理の中止を通知するメッセージです。

[対処]

特にありません。

KDGM604-E

初期化に失敗しました。再セットアップを行うためには Groupmax サーバプロダクトの再インストールが必要です。

[意味]

設定の初期化処理に失敗しました。

[対処]

このメッセージの前に表示されたメッセージに従って対処してください。

KDGM605-E

サーバプロダクトがインストールされていません。

[意味]

Groupmax サーバプロダクトがインストールされていません。

[対処]

Groupmax サーバプロダクトをインストールしてください。

KDGM606-I

以下のサーバプロダクトが稼働中です。初期化実行時にすべてのサーバプロダクトを停止しますがよろしいですか？

[意味]

Groupmax サーバプロダクトが稼働中のため、Groupmax サーバプロダクトを停止して設定の初期化を実行するかを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、Groupmax サーバプロダクトを停止して設定の初期化を実行します。「いいえ」のボタンをクリックした場合、初期化をしないで処理を終了します。

KDGM607-E

Groupmax Version x 以前のサーバプロダクトが混在しているため、初期化を行えません。

[意味]

Groupmax Version 3 より古いバージョンのサーバプロダクトが混在しているため、設定の初期化を行えません。

x は Setup Wizard の前提バージョンを示します。

[対処]

Setup Wizard の処理対象となっているサーバプロダクトを Version 3 にアップデートしてください。

KDGM608-E

プログラムを実行するために必要なファイル (ssssss) が存在しません。Server Setup Wizard の再インストールを実行してください。

[意味]

Setup Wizard 設定初期化を起動するために必要なファイルが不足しています。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。再度 Setup Wizard のインストールをしてください。

KDGM609-E

Object Server の定義ファイル (XODRC) の編集に失敗しました。

[意味]

Groupmax Object Server のデータベース定義ファイル (XODRC) の編集に失敗しました。

[対処]

Groupmax Object Server のデータベース定義ファイル (XODRC) が書き込み可能な状態になっていることを確認してください。

KDGM611-E

Object Server の起動に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

Groupmax Object Server の起動に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Groupmax Object Server が起動できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプログラムの再インストールをしてください。

KDGM617-E

プログラムを実行するために必要なレジストリが存在しません。Server Setup Wizard の再インストールを実行してください。

[意味]

Setup Wizard 設定初期化の起動に必要なレジストリが不足しています。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。再度 Setup Wizard のインストールをしてください。

KDGM618-E

プログラムを実行するために必要なファイル (ssssss) を生成できませんでした。

[意味]

設定の初期化に必要なファイルの生成に失敗しました。sssssss には生成に失敗したファイルの名称が設定されます。

[対処]

当該ファイルのディレクトリが、ファイル生成のできる状態になっているかを確認してください。

KDGM619-E

削除ファイル一覧の取得に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

Groupmax Object Server からのデータベースファイル一覧の取得に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

データベースファイル一覧が取得できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプログラムの再インストールを実行してください。

KDGM622-E

Object Server の停止に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

Groupmax Object Server の停止に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Groupmax Object Server が停止できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプログラムを再インストールしてください。

KDGM623-E

Address/Mail Server のセットアップ情報の削除に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

Groupmax Address/Mail Server のセットアップ情報の削除に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Groupmax Address/Mail Server のセットアップ情報が削除できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプログラムを再インストールしてください。

KDGM625-E

Document Manager のセットアップ情報の削除に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

Groupmax Document Manager のセットアップ情報の削除に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Groupmax Document Manager のセットアップ情報が削除できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプログラムを再インストールしてください。

KDGM628-E

稼働中サーバプロダクトの停止に失敗しました。詳細：dddddd

[意味]

稼働中サーバプロダクトの停止に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

稼働中サーバプロダクトが停止できないため、設定の初期化を実行できません。環境の再設定をする場合は、サーバプロダクトを再インストールしてください。

KDGM630-W

Object Server の起動に失敗しました。初期化処理の続行は可能ですが、サーバプロダクトの設定情報が残る可能性があります。処理を続行しますか？

[意味]

Groupmax Object Server の起動に失敗しましたが、Groupmax Object Server のデータベースが格納されているディレクトリをすべてのサーバプログラムのデータベースが格納されているディレクトリと仮定して処理を続行するかどうかを確認するメッセージです。

[対処]

「はい」のボタンをクリックした場合、設定の初期化を続行しますが、データベースファイルが残る可能性があります。「いいえ」のボタンをクリックした場合、初期化をしないで処理を終了しますが、環境の再設定をする場合は、サーバプログラムの再インストールが必要です。

KDGM631-E

Administrators の権限がないため、初期化を行うことが出来ません。

[意味]

ログインしているユーザに Administrators の権限がありません。

[対処]

Administrators の権限を持っているユーザで再度ログインしてください。

KDGM632-W

すべての環境設定ファイルを削除することが出来ませんでした。環境の再設定が失敗する可能性があります。

[意味]

いくつかのデータベースファイル又は環境設定ファイルの削除に失敗しました。

[対処]

データベースファイル又は環境設定ファイルが残っているため、環境の再設定が失敗する可能性があります。環境の設定が失敗する場合は、サーバプログラムの再インストールが必要です。

KDGM634-E

以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境初期化が行えません。

- Server Setup Wizard 環境設定
- Server Setup Wizard for WWW 環境設定
- Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

[意味]

Setup Wizard に関連するコマンドが実行中のため、環境初期化ができません。

[対処]

Setup Wizard に関連するコマンドが終了してから、環境初期化を再実行してください。

KDGM639-W

Object Server の起動に失敗したため、環境の再設定が失敗する可能性があります。環境の再設定が失敗する場合は、サーバプログラムの再インストールを行ってください。

[意味]

Groupmax Object Server の起動に失敗したため、環境の再設定が失敗することがあることを警告するメッセージです。

[対処]

Setup Wizard で環境の再設定が失敗する場合は、サーバプログラムの再インストールをしてください。

KDGM640-E

Object Server のシステムジャーナル定義ファイル (sysjnl) の編集に失敗しました。

[意味]

Groupmax Object Server のシステムジャーナル定義ファイル (sysjnl) の編集に失敗しました。

[対処]

Groupmax Object Server のシステムジャーナル定義ファイル (sysjnl) が書き込み可能な状態になっていることを確認してください。

KDGM700-E

ファイル「ssssss」を開く事が出来ませんでした。

[意味]

ssssss で示すファイルをオープンできませんでした。

[対処]

ssssss で示すファイルがアクセス可能な状態になっているかを確認してください。また、ssssss で示すファイルがない場合は Groupmax WWW のインストールが失敗している可能性があります。この場合は Groupmax WWW を再インストールしてください。

KDGM701-E

ファイル「ssssss」を閉じる事が出来ませんでした。

[意味]

ssssss で示すファイルをクローズできませんでした。

[対処]

ssssss で示すファイルがアクセス可能な状態になっているかを確認してください。また、ssssss で示すファイルがない場合は Groupmax WWW のインストールが失敗している可能性があります。この場合は Groupmax WWW を再インストールしてください。

KDGM702-E

services ファイルの編集に失敗しました。

[意味]

Windows NT のシステムファイルである services ファイルの編集に失敗しました。

[対処]

services ファイルがアクセス可能な状態になっているかを確認してください。

services ファイルは次に示す場所に格納されています。

Windows NT のインストール先ディレクトリ¥system32¥drives¥etc¥services

KDGM703-E

Config ファイルの編集に失敗しました。(dddddd)

[意味]

Groupmax WWW の定義ファイルである Config ファイルの編集に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

Config ファイルがアクセス可能な状態になっているかを確認してください。

KDGM704-E

wbp.cnf ファイルの編集に失敗しました。(dddddd)

[意味]

Groupmax WWW の定義ファイルである wbp.cnf ファイルの編集に失敗しました。dddddd にはエラーの詳細情報が設定されます。

[対処]

wbp.cnf ファイルがアクセス可能な状態になっているかを確認してください。

KDGM705-E

システム関数でエラーが発生しました。関数名称：ssssss エラー番号：nnnnnn

[意味]

システムの関数でエラーが発生しました。ssssss にはエラーとなった関数の名称、nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて

KDGM706-E

Groupmax World Wide Web の起動に失敗しました。処理を中断します。詳細情報：dddddd

[意味]

Groupmax WWW の起動に失敗しました。dddddd には詳細情報が設定されます。

[対処]

イベントビューア等によりサーバの起動失敗の要因を調査してください。要因が不明の場合、メッセージ及び以下の資料を取得してシステム管理者に連絡してください。

- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥reset ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥files ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥log ディレクトリ下のファイルすべて
- Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥tmp ディレクトリ下のファイルすべて
- イベントビューアのアプリケーションログ

KDGM707-E

Groupmax WWW がインストールされていません。Groupmax WWW をインストールしてください。

[意味]

Groupmax WWW がインストールされていないため、環境設定ができません。

[対処]

Groupmax WWW をインストールしてください。

KDGM708-E

Groupmax WWW のバージョンが環境設定の対象範囲外です。対象バージョンの Groupmax WWW をインストールしてください。

[意味]

Groupmax WWW のバージョンが環境設定の対象範囲外であるため、環境設定ができません。

[対処]

Version 5 以降の Groupmax WWW をインストールしてください。

KDGM709-E

レジストリの読み込みに失敗しました。対象 PP:Groupmax WWW エラー箇所:dddddd エラー番号:nnnnnn

[意味]

Groupmax WWW のレジストリの読み込みに失敗しました。dddddd には読み込みに失敗したレジストリの名称、nnnnnn にはエラーの詳細を示す番号が設定されます。

[対処]

Groupmax WWW のインストールが失敗している可能性があります。Groupmax WWW のインストール状態を確認してください。

KDGM720-I

Groupmax WWW が動作中のため設定は出来ません。

[意味]

環境設定の対象となる Groupmax WWW が動作中のため、環境設定を実行できません。

[対処]

Groupmax WWW を停止してから、環境設定を再実行してください。

KDGM721-I

「iiiiii」の項目の設定値が不正です。デフォルトの「dddddd」を仮定します。

[意味]

iiiiii で示された項目の設定値が不正のため、dddddd で示したデフォルトの値を仮定しました。

[対処]

必要に応じて、画面上の項目の設定値を修正してください。

KDGM722-I

「iiiiii」の項目に「aaaaaa」、「bbbbbb」以外の値が指定されています。「dddddd」を仮定します。

[意味]

iiiiii で示された項目の設定値が、Setup Wizard で認識できる aaaaaa 及び bbbbbb で示した値以外であるため、dddddd で示したデフォルトの値を仮定しました。

[対処]

必要に応じて、画面上の項目の設定値を修正してください。

KDGM723-I

「iiiiii」の項目が指定されていません。デフォルトの「dddddd」を仮定します。

[意味]

iiiiii で示された項目の設定値が不正のため、dddddd で示したデフォルトの値を仮定しました。

[対処]

必要に応じて、画面上の項目の設定値を修正してください。

KDGM725-I

「iiiiii」の指定値が不正です。指定範囲は aaaaaa～bbbbbb です。

[意味]

iiiiii で示された項目の設定値が、aaaaaa～bbbbbb で示す指定可能な範囲を超えています。

[対処]

aaaaaa～bbbbbb で示す範囲で値を再設定してください。

KDGM726-I

「iiiiii」が設定されていません。aaaaaa～bbbbbb の範囲で指定してください。

[意味]

iiiiii で示された項目が指定されていません。

[対処]

aaaaaa～bbbbbb で示す範囲で値を設定してください。

KDGM727-I

「iiiiii」が設定されていません。

[意味]

iiiiii で示された項目が指定されていません。

[対処]

項目を設定してください。

KDGM728-W

連携サーバのホスト名称/IP アドレスとして設定されている内容が Scheduler Server と Facilities Manager で異なります。

- Scheduler Server(gam_scheduler_name):ssssss
- Facilities Manager(gam_facilities_name):ffffff

Scheduler Server の設定値を使用して、設定処理を続行します。Scheduler Server と Facilities Manager で異なるホスト名称/IP アドレスを設定する必要がある場合には、Server Setup Wizard による環境設定終了後に、config ファイルを直接修正してください。

[意味]

連携サーバのホスト名称/IP アドレスとして設定されている内容が、Scheduler Server と Facilities Manager で異なっているため、Scheduler Server の設定値を使用して画面に表示します。ssssss には、Scheduler Server のホスト名称/IP アドレス、ffffff には、Facilities Manager のホスト名称/IP アドレスが入ります。

[対処]

必要に応じて、画面上の項目の設定値を修正してください。Scheduler Server と Facilities Manager で異なるホスト名称/IP アドレスを設定する必要がある場合には、Server Setup Wizard による環境設定終了後に、config ファイルを直接修正してください。

KDGM747-E

以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、環境設定が行えません。

- Server Setup Wizard 設定初期化コマンド
- Server Setup Wizard 環境設定
- Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

[意味]

Setup Wizard に関連するコマンドが実行中のため、環境設定ができません。

[対処]

Setup Wizard に関連するコマンドが終了してから、環境設定を再実行してください。

KDGM748-I

キャンセルを実行した場合、設定内容はすべて無効になります。キャンセルを実行しますか？

[意味]

Setup Wizard のキャンセルを確認するメッセージです。

[対処]

キャンセルを実行するには [はい] ボタンをクリックします。キャンセルを取り消すには [いいえ] ボタンをクリックします。

KDGM749-I

サーバの起動および自動起動の設定を行わずに、構成定義ファイルの変更のみを実施します。処理を続行しますか？

[意味]

Groupmax WWW の起動及びサービスの自動起動の設定をしないで、構成定義ファイルの変更だけを実行するかを確認するメッセージです。

[対処]

構成定義ファイルの変更だけを実行するには [はい] ボタンをクリックします。設定画面に戻るには [いいえ] ボタンをクリックします。

KDGM750-E

システムリソースが不足しているため処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)

[意味]

Windows NT のシステム資源が不足しているため、処理を中断しました。sssss にはシステム資源の確保に失敗した関数の名称、nnnnn には詳細コードが表示されます。

[対処]

使用していないアプリケーションやサービスを終了して、Setup Wizard 設定初期化を実行した後、環境設定を再実行してください。

KDGM751-E

TCP/IP による通信で障害が発生したため処理を中断します。詳細情報：sssss(nnnnn)

[意味]

子サーバ上の Setup Wizard と管理サーバ上のマルチサーバセットアップ管理デーモンとの TCP/IP 通信で障害が発生したため、処理を中断しました。sssss には障害となった関数の名称、nnnnn には詳細コードが表示されます。

[対処]

マルチサーバセットアップ管理デーモンが動作しているサーバの状態と、接続されている回線の状態を確認してください。障害から回復した後、設定の初期化をしてから環境設定を再実行してください。

KDGM752-E

管理サーバに対する「ttttt」の要求の実行に失敗しました。管理サーバでの環境設定が終了してサーバが正常に動作していることを確認してください。詳細情報：sssss(nnnnn)

[意味]

子サーバ上の Setup Wizard からマルチサーバセットアップ管理デーモンへの要求の実行に失敗しました。ttttt には実行に失敗した要求、sssss には障害となった処理の名称、nnnnn には詳細コードが表示されます。

[対処]

マルチサーバセットアップ管理デーモンが動作しているサーバの環境が正しく構築されているかを確認後、設定の初期化をしてから環境設定を再実行してください。

KDGM753-I

管理サーバ名が自サーバ名と同一です。

[意味]

管理サーバ名の項目に自サーバ名が指定されています。

[対処]

正しい管理サーバ名を指定してください。

KDGM754-I

「iiii」には英大文字、英小文字、数字、'_'(アンダーライン)以外を使用することは出来ません。また、先頭の文字には数字を使用することは出来ません。

[意味]

iiii で示された項目に、英大文字、英小文字、数字、_ (アンダーバー) 以外が使用されています。または、先頭の文字に数字が使用されています。

[対処]

iiii の項目は英大文字、英小文字、数字、_ (アンダーバー) で指定してください。また、先頭の文字には数字以外を指定してください。

KDGM755-I

マルチサーバの環境設定が必要なプログラムプロダクトが追加インストールされているため、構成変更が行えません。環境を新たに構築する場合は、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行ってください。

[意味]

シングルサーバとして環境構築後、マルチサーバの環境設定が必要なサーバプログラムが追加インストールされたため、構成変更ができません。

[対処]

環境を新たに構築する場合は、設定の初期化をしてから環境設定を再実行してください。

KDGM756-I

High-end Object Server を使用する場合は、「High-end Object Server の設定」ボタンにより、High-end Object Server に関する設定を行ってください。

[意味]

Groupmax High-end Object Server の環境設定をする場合は [High-end Object Server の設定] ボタンをクリックして Groupmax High-end Object Server に関する項目を設定する必要があります。

[対処]

[High-end Object Server の設定] ボタンをクリックして Groupmax High-end Object Server に関する項目を設定してください。

KDGM757-W

全てのステータスファイルの作成先が、同一のディスクになっています。1つのハードディスクの障害で全てのステータスファイルが障害とならないように、ステータスファイルは複数のディスクに作成することを推奨します。再度ステータスファイルの指定を行いますか？

[意味]

ステータスファイルの作成先として指定したファイルが、すべて同一のディスクになっているため、再度ステータスファイルを指定するかを確認するためのメッセージです。

[対処]

再度ステータスファイルを指定する場合、[はい] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリックすると、そのままの指定で処理を続行しますが、1つのハードディスクの障害ですべてのステータスファイルが障害とならないように、ステータスファイルは複数のディスクに作成することを強く推奨します。

KDGM758-W

ジャーナルファイルの作成先に、データベースの作成ディスクと同一のディスクが指定されています。ジャーナルファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを推奨します。再度ジャーナルファイルの指定を行いますか？

[意味]

ジャーナルファイルの作成先として指定したファイルが、データベースの作成先と同一のディスク上にあるファイルのため、再度ジャーナルファイルを指定するかを確認するためのメッセージです。

[対処]

再度ジャーナルファイルを指定する場合、[はい] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリックすると、そのままの指定で処理を続行しますが、1つのハードディスクの障害でジャーナルファイル及びデータベースが共に障害とならないように、ジャーナルファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを強く推奨します。

KDGM759-W

ステータスファイルの作成先に、データベースの作成ディスクと同一のディスクが指定されています。ステータスファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを推奨します。再度ステータスファイルの指定を行いますか？

[意味]

ステータスファイルの作成先として指定したファイルが、データベースの作成先と同一のディスク上にあるファイルのため、再度ステータスファイルを指定するかを確認するためのメッセージです。

[対処]

再度ステータスファイルを指定する場合、[はい] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリックすると、そのままの指定で処理を続行しますが、1つのハードディスクの障害でステータス

ファイル及びデータベースが共に障害とならないように、ステータスファイルはデータベースとは別のディスクに作成することを強く推奨します。

KDGM760-I

2つ以上のジャーナルファイルで「オンライン開始と同時にオープンする」の指定を行ってください。

[意味]

ジャーナルファイルの「オンライン開始と同時にオープンする」の指定は、2つ以上必要です。

[対処]

2つ以上のジャーナルファイルに対して「オンライン開始と同時にオープンする」の指定をしてください。

KDGM761-E

管理サーバに Mail Server がインストールされていないため、Mail Server の環境設定を行うことが出来ません。

[意味]

管理サーバに Groupmax Mail Server がインストールされていないため、アドレスサーバでの Groupmax Mail Server の環境設定はできません。

[対処]

管理サーバで Groupmax Mail Server のインストール及び環境設定をしてください。

KDGM762-E

管理サーバの Mail Server が起動されていないため、Mail Server の環境設定を行うことが出来ません。

[意味]

管理サーバの Groupmax Mail Server が起動されていないため、アドレスサーバでの Groupmax Mail Server の環境設定はできません。

[対処]

管理サーバで Groupmax Mail Server の環境設定及び起動をしてください。

KDGM763-W

全てのジャーナルファイルの作成先が、同一のディスクになっています。1つのハードディスクの障害で全てのジャーナルファイルが障害とならないように、ジャーナルファイルは複数のディスクに作成することを推奨します。再度ジャーナルファイルの指定を行いますか？

[意味]

ジャーナルファイルの作成先として指定したファイルが、すべて同一のディスク上のファイルのため、再度ジャーナルファイルを指定するかを確認するためのメッセージです。

[対処]

再度ジャーナルファイルを指定する場合、[はい] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリックすると、そのままの指定で処理を続行しますが、1つのハードディスクの障害ですべてのジャーナルファイルが障害とならないように、ジャーナルファイルは複数のディスクに作成することを強く推奨します。

KDGM764-I

[iiiiii] の項目は nnnnn 個以上指定を行う必要があります。

[意味]

iiii で示された項目には、nnnn で示した個数以上の定義をする必要があります。

[対処]

iiii で示された項目に、nnnn で示した個数以上の定義をしてください。

KDGM765-W

High-end Object Server を使用している環境で構成変更を実行します。構成変更の終了後に必ずデータベースのバックアップの取得を行ってください。

[意味]

構成変更によって High-end Object Server のデータベースが変更されるため、構成変更が終了した後にデータベースのバックアップの取得を促すメッセージです。

[対処]

構成変更終了後に、データベースのバックアップを取得してください。

KDGM766-W

マルチサーバの環境が構築されました。サーバ間の情報の整合性を取るため、運用を開始する前に全てのサーバマシンの Groupmax サーバ (Object Server または High-end Object Server を除く) の再起動を実施してください。再起動の順序については、各 Groupmax サーバのマニュアルを参照願います。

[意味]

マルチサーバの環境を構築した場合に、すべての Groupmax サーバの再起動が必要であることを通知するメッセージです。

[対処]

すべてのサーバマシンの環境設定終了後に、Groupmax サーバの再起動をしてください。Groupmax サーバの再起動をしなかった場合、サーバ間の関係機能が正しく動作しません。

KDGM767-E

指定されたマスタ管理サーバ (sssss) には、アドレスサーバとして既に ttttt が登録されています。ttttt をアドレスサーバとして再度登録する場合は、マスタ管理サーバ、アドレスサーバともに、Server Setup Wizard 設定初期化アイコンにより、設定の初期化を行う必要があります。

[意味]

マスタ管理サーバとして指定されている sssss で示したサーバには、アドレスサーバとして既に ttttt で示したサーバが登録されています。

[対処]

アドレスサーバの再登録をする場合は、マスタ管理サーバ、アドレスサーバともに Server Setup Wizard 設定初期化を実行してください。

KDGM768-W

Workflow Server がマルチサーバとして構築されています。Workflow Server の「ワークフローディレクトリサービス (WFserver Directory Function)」の再起動を行う場合は、スタートアップパラメタとして「-r」を指定してください。システムのレポートによりサービスの自動起動を行った場合、スタートアップパラメタが指定されていない状態でサービスが起動されますのでご注意ください。

[意味]

Workflow Server でマルチサーバの環境を構築した場合の、再起動についての注意を促すメッセージです。

[対処]

Workflow Server の「ワークフローディレクトリサービス (WFserver Directory Function)」は、スタートアップパラメタとして「-r」を指定して再起動を実施してください。

KDGM769-I

「iiiiii」で指定された名称を IP アドレスに変換することができませんでした。以下のいずれかの問題が考えられます。

- 指定内容に誤りがある。
- 指定された名称が HOSTS ファイルに登録されていない。
- ドメインネームシステム (DNS) の指定に誤りがある。

[意味]

iiiiii で示された項目で指定した名称を、IP アドレスに変換することができませんでした。

[対処]

iiiiii で示された項目で指定する名称は、HOSTS ファイルに登録されているか、またはドメインネームシステムによるアドレス解決が行える必要があります。名称の指定に誤りがない場合は、HOSTS ファイルに名称が登録されているか、またはドメインネームシステムによりアドレス解決が行えることを確認してください。

KDGM770-W

static_shmpool_size の値が上限を超えました。Resipool パラメタ DICTIONARY の -m オペランド値を減らしてパラメタ生成処理を続行する場合、「OK」をクリックして下さい。但し、この場合、Groupmax システム全体の性能が低下する可能性があります。パラメタの調整を行う場合は、「キャンセル」をクリックして、以下のパラメタの見直しを行ってください。

- 一般文書データベース数
- フォーム文書データベース数
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 複数グループアクセス権機能

[意味]

システム共通定義ファイルの static_shmpool_size が上限を超え、通常の丸め処理では丸めきれませんでした。

[対処]

resipool パラメタ DICTIONARY の -m オペランド値を減らしてパラメタ生成処理を続行する場合、「OK」をクリックして下さい。但し、この場合、Groupmax システム全体の性能が低下する可能性があります。パラメタの調整を行う場合は、「キャンセル」をクリックして、以下のパラメタの見直しを行ってください。

- 一般文書データベース数
- フォーム文書データベース数
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値

- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 複数グループアクセス権機能

KDGM801-I

サーバ制御用 DLL の読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。

[意味]

サーバの制御をするためのライブラリファイルの読み込みに失敗しました。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。Setup Wizard の再インストールをしてください。

KDGM802-I

Address Server が起動されていません。Address Server の起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

[意味]

Groupmax Address Server が起動されていません。

[対処]

Groupmax Address Server を起動してから、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再起動してください。

KDGM803-I

Address Server がインストールされていません。Address Server のインストール、セットアップおよび起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

[意味]

Groupmax Address Server がインストールされていません。

[対処]

Groupmax Address Server のインストール、環境設定及び起動をしてから、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再起動してください。

KDGM804-I

Address Server のセットアップが完了していません。Address Server のセットアップおよび起動を行った後、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

[意味]

Groupmax Address Server の環境設定が完了していません。

[対処]

Groupmax Address Server の環境設定及び起動をしてから、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再起動してください。

KDGM805-E

Server Setup Wizard のレジストリの読み込みに失敗しました。Server Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。

[意味]

Setup Wizard を起動するために必要なレジストリが不足しています。

[対処]

Setup Wizard のインストールが失敗している可能性があります。Setup Wizard を再インストールしてください。

KDGM806-E

システムリソースが不足しています。いくつかのアプリケーションプログラムを終了して、再度サーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

[意味]

Windows NT のシステム資源が不足しているため、処理を中断しました。

[対処]

使用していないアプリケーションやサービスを終了して、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再起動してください。

KDGM807-E

TCP/IP 通信の処理でエラーが発生したため処理を終了します。関数名：sssss エラーコード：nnnnn

[意味]

TCP/IP 通信で障害が発生したため処理を終了しました。sssss には障害の発生した処理の名称、nnnnn には障害の詳細コードが表示されます。

[対処]

Windows NT の TCP/IP の通信環境が構築されていない可能性があります。TCP/IP の通信環境を構築してから、マルチサーバセットアップ管理デーモンを起動してください。

KDGM808-I

バージョンが x より前の Address Server がインストールされているため、処理を中止します。

[意味]

バージョンが x より前の Groupmax Address Server がインストールされているため、処理を中止します。

[対処]

バージョンが x 以降の Groupmax Address Server のインストール、環境設定及び起動をした後、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再起動してください。

KDGM809-I

マスタ管理+運転席以外の Address Server がインストールされているため、処理を中止します。

[意味]

マスタ管理+運転席以外の Groupmax Address Server がインストールされているため、マルチサーバセットアップ管理デーモンの処理を中止します。

[対処]

マルチサーバセットアップ管理デーモンを使用する場合、マスタ管理+運転席オプションでインストールしてください。

KDGM810-E

以下に示すいずれかのコマンドが実行中のため、サーバセットアップ管理デーモンの実行が行えません。

- Server Setup Wizard 設定初期化コマンド
- Server Setup Wizard 環境設定
- Server Setup Wizard for WWW 環境設定
- Server Setup Wizard セットアップ管理デーモン

[意味]

Setup Wizard に関連するコマンドが実行中のため、マルチサーバセットアップ管理デーモンを実行できません。

[対処]

Setup Wizard に関連するコマンドが終了してから、マルチサーバセットアップ管理デーモンを再実行してください。

KDGM811-E

services ファイルに sssss が登録されていません。Server Setup Wizard インストールディレクトリ¥sample¥services ファイルを参考にして、services ファイルの登録内容を確認してください。

[意味]

Windows NT の services ファイルに、sssss で示したポート番号が登録されていません。

[対処]

sssss で示したポート番号を services ファイルに登録してください。Windows NT の services ファイルは、Windows NT インストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc に格納されています。また、登録するポートの番号は、Setup Wizard インストールディレクトリ¥samples¥services に記述されています。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ1

セットアップ済みのサーバが存在しないため、新規セットアップとなります。

[意味]

セットアップが完了しているサーバが存在しないため、新規セットアップの処理をします。

[対処]

特にありません。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ2

Mail - SMTP は、Mail Server がないと設定は出来ません。

[意味]

Groupmax Mail - SMTP の前提となる Groupmax Mail Server が、セットアップ対象のサーバとして選択されていません。

[対処]

Groupmax Mail Server をセットアップ対象のサーバとして選択してください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ3

セットアップ済みのサーバが存在するため、構成変更を行います。

[意味]

セットアップが完了しているサーバが存在するため、構成変更の処理をします。

[対処]

特にありません。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ4

Workflow Multi-Server は、Workflow Server がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax Workflow Multi-Server の前提となる Groupmax Workflow Server が、セットアップ対象のサーバとして選択されていません。

[対処]

Groupmax Workflow Server をセットアップ対象のサーバとして選択してください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ5

Workflow Multi-Server は、Mail Server がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax Workflow Multi-Server の前提となる Groupmax Mail Server が、セットアップ対象のサーバとして選択されていません。

[対処]

Groupmax Mail Server をセットアップ対象のサーバとして選択してください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ6

High-end Workflow Server は、Workflow Server がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax High-end Workflow Server の前提となる Groupmax Workflow Server が、セットアップ対象のサーバとして選択されていません。

[対処]

Groupmax Workflow Server をセットアップ対象のサーバとして選択してください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ7

High-end Workflow Server は、High-end Object Server がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax High-end Workflow Server の前提となる Groupmax High-end Object Server が、インストールされていません。

[対処]

Groupmax High-end Object Server をインストールしてください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ8

High-end Document Manager は、Document Manager がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax High-end Document Manager の前提となる Groupmax Document Manager が、セットアップ対象のサーバとして選択されていません。

[対処]

Groupmax Document Manager をセットアップ対象のサーバとして選択してください。

[Groupmax サーバインストール状況一覧] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ9

High-end Document Manager は、High-end Object Server がないと設定は出来ません

[意味]

Groupmax High-end Document Server の前提となる Groupmax High-end Object Server が、インストールされていません。

[対処]

Groupmax Document Server をインストールしてください。

[設定確認] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ1

DB 容量の計算結果が 200GB を超えています。設定値を確認してください。

[意味]

データベース容量の計算結果が 200GB を超えているため、データベースを作成できません。

[対処]

各プロパティページ及び詳細ダイアログボックスの設定値を確認して、計算結果が 200GB 以内となるように調整してください。

[設定確認] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ2

ディスク容量が不足しています。格納ディレクトリや設定値を確認してください。

[意味]

データベースを作成しようとしているドライブの容量が不足しています。

[対処]

データベースを作成するドライブの空き領域を確保するか、又は各プロパティページ及び詳細ダイアログボックスの設定値を確認して、ディスク容量が不足しないように調整してください。もしくは、[共通設定] プロパティページ及び各詳細ダイアログボックスのデータベース作成ディレクトリの項目で、データベースの作成先ドライブを変更してください。

[設定確認] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ3

指定したドライブは FAT 形式でフォーマットされています。NTFS に変更してください。

[意味]

データベースを作成しようとしているドライブが FAT 形式でフォーマットされています。

[対処]

FAT 形式のドライブにはデータベースを作成できません。データベースを作成するドライブには、NTFS 形式のファイルシステムを使用してください。

[設定確認] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ4

システムドライブ ddd の容量が不足しています。nnnnn MB 確保してください。

[意味]

ddd で示したシステムドライブのディスク容量が不足しています。

[対処]

システムドライブに nnnnn で示した容量の空き領域を確保してください。

[設定確認] プロパティページでの警告メッセージ

メッセージ5

構成変更のための一時ファイルを作成するドライブ ddd の容量が不足しています。nnnnn MB 確保してください。

[意味]

構成変更のための一時的なファイルを作成する、ddd で示したドライブの容量が不足しています。

[対処]

ddd で示したドライブに、nnnnn で示した容量の空き領域を確保してください。又は、[共通設定] プロパティページで指定する「構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ」の項目で、一時ファイルを作成するドライブを変更してください。

付録 C.8 使用上の注意

(1) Setup Wizard のサポート範囲

Setup Wizard を実行できるハードウェア構成は、シングルサーバ構成及びマルチサーバ構成です。ただし、マルチサーバ構成の場合は新規導入時の環境設定だけとなり、構成変更はできません。

上記以外のシステム構成でシステムを構築する場合は、各サーバプログラムのマニュアルを参照して環境を設定してください。

また、データベースの大きさは、次に示す算出値を使用して計算されます。この算出値と実際の運用時の値が大きく違う場合、ディスクの容量不足などの障害が発生する場合があります。その場合も、各サーバプログラムで環境を設定してください。

参照

電子アドレス帳／メールの算出値

文書管理の算出値

ワークフローの算出値

(a) 電子アドレス帳／メールの算出値

電子アドレス帳／メールの算出値を示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

Groupmax Address Server 及び Groupmax Mail Server を環境設定の対象とする場合の算出値を、次に示します。

項目	記号	算出値
送信メール1通あたりの宛先数の平均	a	入力値
全マスタ掲示板数（下位掲示板も含む）	B	入力値
全レプリカ掲示板数（下位掲示板も含む）	b	$B \times 0.3$
全掲示板に1日あたりに掲示される全記事数の平均	C	Bと同じ値
全サーバ数	e	T/Z
E-mail アドレス利用者数	E	Tと同じ値
全グループ数	g	oと同じ値
ユーザ1人が権利を所有する組織の数	h	1
組織1つが保持する保留メール数の平均	k	5
データベースの運用期間（日数）	n	30
全組織数	o	入力値
サーバ1台に登録する組織メールボックス数	O	o/e
掲示板1つあたりのレプリカ数の平均	p	※1
1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均	r	入力値
サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均	R	入力値
1つのメールボックスが保持する送信メール数の平均	s	rと同じ値
サーバ1台が1日あたりに発信するメール数の平均	S	R/a
全最上位組織数	t	$T/500$
全ユーザ数	T	入力値
Mailのメールボックスを持つ全ユーザ数	u	Tと同じ値
宛先ユーザとMailのメールボックスを持つ全ユーザ数	U	Tと同じ値
送信メール1通あたりの送信先サーバ数の平均	v	※2
サーバ1台に登録するメールボックス数	x	$Z+o/e$
E-mailアドレスの平均長(byte)	X	入力値
Scheduler ユーザ数	Y	※3
1人が1日に送信するメール数	z	入力値
当該サーバに登録するユーザ数	Z	入力値
1ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均	HE	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

注※1 eと250のどちらか小さい方の値になります。

注※2 aとeのどちらか小さい方の値になります。

注※3 Schedulerが指定されている場合はTと同じ値になります。指定されていない場合は0になります。

Groupmax Address Server だけを環境設定の対象とし Groupmax Mail を対象としない場合の算出値を、次に示します。

項目	記号	算出値
送信メール1通あたりの宛先数の平均	a	1
全マスタ掲示板数（下位掲示板も含む）	B	1
全レプリカ掲示板数（下位掲示板も含む）	b	1
全掲示板に1日あたりに掲示される全記事数の平均	C	1
全サーバ数	e	T/Z
全グループ数	g	oと同じ値
ユーザ1人が権利を所有する組織の数	h	1
組織1つが保持する保留メール数の平均	k	1
データベースの運用期間（日数）	n	30
全組織数	o	入力値
サーバ1台に登録する組織メールボックス数	O	1
掲示板1つあたりのレプリカ数の平均	p	1
1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均	r	1
サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均	R	1
1つのメールボックスが保持する送信メール数の平均	s	1
サーバ1台が1日あたりに発信するメール数の平均	S	1
全最上位組織数	t	T/500
全ユーザ数	T	入力値
Mailのメールボックスを持つ全ユーザ数	u	Tと同じ値
宛先ユーザとMailのメールボックスを持つ全ユーザ数	U	1
送信メール1通あたりの送信先サーバ数の平均	v	1
サーバ1台に登録するメールボックス数	x	1
1人が1日に送信するメール数	z	1
当該サーバに登録するユーザ数	Z	入力値
1ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均	HE	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

(b) 文書管理の算出値

文書管理の算出値を、次に示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
文書データベース数	N	$n+j$
分類あたりのリンク文書数	x	m/v ※1
全文書数	M	$m+q$
一般文書データベースあたりの一般文書数	b	m/n
総分類数	v	入力値
バージョン数	p	入力値
サーバに登録するユーザ数	u	入力値
1 ユーザあたりの文書アクト数	k	2
フォルダ数	f	入力値
1 フォルダあたりの平均格納文書数	h	m/f
同時ログインユーザ数	A	※2
全フォーム文書数	q	入力値
フォーム文書データベース数	j	入力値
1 ユーザあたりの同時アクセス文書数	E	入力値
1 文書あたりのファイル数	F	2
全一般文書数	m	入力値
一般文書データベース数	n	入力値
1 つの一般文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	a	s と同じ値
1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	s	入力値
1 つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均長	l	64
1 つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fa	$s*0.9$
1 つのフォーム文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	ab	$sb+4$
1 つのフォーム文書データベースの符号付き整数型ユーザ定義属性数の平均値	ib	2
1 つのフォーム文書データベースの日付型ユーザ定義属性数の平均値	tb	2
1 つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	sb	入力値
1 つのフォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fb	$sb*0.9$
全フォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均属性長	lb	64
配布文書グループ数	g	入力値
1 サーバ内の配布対象文書の総数	w	$m*0.8$
1 配布文書グループあたりの配布先サーバ数の平均	y	※3
配布で取り込まれた文書の総数	r	入力値

項目	記号	算出値
複数グループアクセス権機能	o	1:on/0:off
1 文書データベースに追加される平均ユーザ定義属性数 (オブジェクトリスト型)	oo	0
1 フォーム文書データベースに追加される平均ユーザ定義属性数 (オブジェクトリスト型)	ob	0
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性の総数	AA	$a*n+ab*j$
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性のインデックスの総数	I	$a*n+ab*j$
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性の属性型が文字列型の総数	C	$s*n+sb*j$
文書配布機能の環境有無 (1:on/0:off)	H	1

注 表中の商はすべて切り上げです。

注※1 $v=0$ のときは 0 です。

注※2 u と同じ値になります。ただし、Groupmax Document Manager の場合の最大値は 256、Groupmax High-end Document Manager の場合の最大値は 1,000 です。

注※3 $g=0$ のときは 0 です。 $g>0$ のときは(システムに登録するユーザ数)/u です。

(c) ワークフローの算出値

ワークフローの算出値を、次に示します。

算出値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま算出値となることを示します。また、算出値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
再構成間隔	a	30
1 日あたりのワーク数	b	入力値
ワーク処理日数	c	入力値
ワーク保存日数	d	入力値
1 ケースあたりの Workflow データベース格納メモ数	e	1
1 メモの Workflow データベース格納メモサイズ (KB)	f	2
1 ロールあたりの自動配布キー	g	1
1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数	h	入力値
Workflow マネージャスリープ時間 (秒)	i	60
1 日あたりの運用時間 (時)	j	8
全ビジネスプロセス定義数	k	入力値
最大ワーク数	m	$b*(c+d)$
ワーク内のケース数	n	入力値
ワーク内の履歴数	o	※1
ワーク内のロール数	p	※2

項目	記号	算出値
最大ケース数	q	$m \cdot n$
ケース内のメモ数	r	l
ケース内の文書数	s	入力値
ケース内の下位ケース数	t	l
ケース内の相談件数	u	2
ケース内の拡張ユーザ属性数	v	2
1 ビジネスプロセスあたりのケース定義数	w	l
ケース属性数	x	$v+15$
ロール数	y	入力値
サーバに登録するユーザ数	z	入力値
自動配布キー総数	A	$g \cdot y$
階層連携ビジネスプロセスの最大ケース数	B	$q \cdot 0.3$
階層連携ビジネスプロセスの案件を処理したユーザ数	C	$h \cdot 0.5$
全データオブジェクト数	D	$q \cdot e$
データオブジェクトサイズ (KB)	E	fと同じ値
全ワーク数 (削除分も含む)	F	$a \cdot b$
全ノード数	G	$h \cdot k \cdot ss$
全ケース定義数	H	$ss \cdot w \cdot k$
全ケース数	I	$n \cdot F$
全代行数	J	$F \cdot 0.01$
全文書数	K	$s \cdot I$
全メモ数	L	$r \cdot I$
全データオブジェクト数	M	$e \cdot I$
ワークIDの重複が200個以下のワークIDの種類	N1	Fと同じ値
ワークIDの重複が200個以下のワークIDの平均重複数	O1	l
ワークの処理期限の重複が200個以下のワークの処理期限の種類	P1	※3
ワークの処理期限の重複が200個以下のワークの処理期限の平均重複数	Q1	※4
ワークの処理期限の重複が201個以上のワークの処理期限の種類	P2	※5
ワークの処理期限の重複が201個以上のワークの処理期限の平均重複数	Q2	※6
ワークの遷移状態の重複が200個以下のワークの遷移状態の種類	R1	※7
ワークの遷移状態の重複が200個以下のワークの遷移状態の平均重複数	S1	※8

項目	記号	算出値
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の種類	R2	※9
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の平均重複数	S2	※10
送付待ち案件数	T	※11
自動配布キーあたりのユーザ数	U	1
全サーバ数	V	ZZ/z
転送待ち案件数	W	1
ユーザが属する作業機数	X	$k*pp*0.02$
最大ログインユーザ数	Y	入力値
1 メモあたりのメモサイズ (KB)	Z	0.01
1 ビジネスプロセスあたりのユーザ数	cc	$pp*hh$
ユーザ処理リスト数	dd	$k*h$
ユーザ処理リスト内作業数	ee	2
ロールに留まっている案件数	ff	1
ロールに関連するビジネスプロセス数	gg	2
1 ロールあたりのユーザ数	hh	z/y
ユーザに留まっているケース数	ii	$b*c*n/z$
ユーザ内ヒストリ数	jj	50
ユーザに関連するロール数	kk	5
1 ユーザあたりの代行者数	mm	1
ビジネスプロセス定義の最大実行形式サイズ (KB)	nn	150
ソースノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	oo	$k*0.8$
BP 内ロール数	pp	$h*0.6$
ノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	qq	$k*0.8$
ビジネスプロセス定義あたりの BP 管理者数	rr	NN/k
定義更新世代	ss	5
最大文書数と最大メモ数の和	tt	$q*(r+s)$
ユーザに関連するビジネスプロセス数	uu	kk と同じ値
ビジネスプロセス定義あたりの BP モニタリング権限者数	vv	$r*0.1$
全ケース定義数	ww	$k*w$
全組織ロール数	xx	YY*0.5
そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数	yy	xx/V

項目	記号	算出値
階層化ロール数	zz	y*0.1
階層化ロールに含まれるロール数	AA	5
平均ロール内ユーザ数	CC	hh と同じ値
ロール配布権限を持つユーザ数	DD	PP と同じ値
ロール更新権限を持つユーザ数	EE	HH と同じ値
自動配布キーあたりのビジネスプロセス定義数	FF	k/A
全階層ロール数	GG	zz と同じ値
ドメイン管理者、ワークフロー運用管理者、ビジネスプロセス管理者のどれかである又はビジネスプロセス定義に参照権限を持っているユーザの数	HH	ZZ*0.05
ビジネスプロセス定義あたりの BP 配布権限者数	JJ	rr*0.1
ロール定義あたりの自動配布キー数	KK	g と同じ値
代行者を持つユーザ数	LL	z*0.1
1 ユーザあたりの、ビジネスプロセス管理者に指定されているビジネスプロセス数	MM	k/NN
ビジネスプロセス管理者数	NN	HH と同じ値
1 ユーザあたりの、ビジネスプロセス配布権限を持つビジネスプロセス数	OO	k/PP
ビジネスプロセス配布権限を持つユーザ数	PP	ZZ*0.01
1 ユーザあたりの、参照権限を持つビジネスプロセス数	QQ	k/RR
ビジネスプロセス定義の参照権限を持つユーザ数	RR	HH と同じ値
1 ユーザあたりの、ロール配布権限を持つロール数	SS	y/DD
1 ユーザあたりの、ロール更新権限を持つロール数	TT	y/EE
1 ビジネスプロセス定義あたりの自動配布キー数	UU	A/k
全組織数	YY	※12
全ユーザ数	ZZ	入力値
ビジネスプロセス定義名称長 (平均値)	aaa	32
ビジネスプロセスファイル名称長 (平均値)	bbb	32
添付ファイル名称長 (平均値)	ccc	32
V1 のビジネスプロセス定義で他のビジネスプロセスで処理中の案件数 (平均値)	ddd	1
そのサーバをビジネスプロセス登録サーバとするビジネスプロセス定義での他のサーバで処理中の案件数 (平均値) 及びそのサーバに配布されたビジネスプロセス定義で処理中の案件数 (平均値)	eee	T と同じ値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の種類	BB1	k と同じ値

項目	記号	算出値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB2	1
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の種類	BB3	0
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB4	0
1 ユーザあたりの同時接続セッション数	as	入力値
キャッシュメモリサイズ (MB)	cm	入力値
ワークフローデータベースへの同時アクセス数	fff	入力値 ^{※13}
マルチサーバの総サーバ数	ggg	入力値
管理者用最大ログインユーザ数	hhh	64
ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能	ID	1:on/0:off
1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数	lll	入力値
1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるケース数	mmm	入力値 ^{※14}
Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値 ^{※15}	nnn	入力値
ワーク下のオブジェクト数 (最大値)	ooo	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

注※1 $\uparrow((\text{通過ノード数}/\text{ワーク}) * 2 + (\text{応用フローモデル数}/\text{ワーク}))/2 \uparrow$

(通過ノード数/ワーク) : h*通過率, (応用フローモデル数/ワーク) : 1

通過率は、次に示すようにノード数に対応します。

ノード数	通過率
1~10	0.75
11~50	0.5
51~100	0.3
101~	0.25

注※2 $\uparrow((\text{通過ノード数}/\text{ワーク}) * 0.6)/2 \uparrow$ です。

注※3 $b \leq 200$ のとき a, $b > 200$ のとき 0 です。

注※4 $b \leq 200$ のとき b, $b > 200$ のとき 0 です。

注※5 $b > 200$ のとき a, $b \leq 200$ のとき 0 です。

注※6 $b > 200$ のとき b, $b \leq 200$ のとき 0 です。

注※7 $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき 3, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ のとき 0 です。

注※8 $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき $\uparrow m * 0.01 \uparrow$, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ のとき 0 です。

注※9 $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき 2, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ のとき 5 です。

注※10 $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ のとき $\uparrow m * 0.99 \uparrow$, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ のとき m です。

注※11 $\uparrow (b * (\text{通過ノード数}/\text{ワーク})) / (j * 3600 / i) \uparrow$ です。

注※12 $\uparrow ZZ/20 \uparrow + \uparrow ZZ/100 \uparrow + \uparrow ZZ/500 \uparrow$ です。

注※13 Groupmax Workflow Server の場合は固定で2です。Groupmax High-end Workflow Server の場合は最大32です。

注※14 ただし、bの範囲内です。

注※15 分単位で、0から70560までの値を指定します。デフォルトは2520です。

(2) サーバプログラムで構成変更をするときの注意事項

Setup Wizard で初期設定をした後に各サーバプログラムで構成変更をすると、以降は Setup Wizard で構成変更できなくなる場合があります。

各サーバプログラムの機能で構成変更をする場合の注意事項を次に示します。

- Groupmax Object Server
データベースの構成変更や再作成はしないでください。
構成変更や再作成をした場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。
- Groupmax Address/Mail Server
組織、ユーザ、掲示板以外の設定はしないでください。
これらの項目以外の値を変更した場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。
- Groupmax Workflow Server
最大ログインユーザ数は変更しないでください。
最大ログインユーザ数を変更した後に Setup Wizard で構成変更をした場合、最大ログインユーザ数は Setup Wizard で前回設定した値に上書きされます。
- Groupmax Scheduler Server/Facilities Manager
Address 認証の設定、Address ホスト名及びポート番号は変更しないでください。
これらの項目を変更した後に Setup Wizard で構成変更をした場合、各項目の値は Setup Wizard で前回設定した値に上書きされます。
- Groupmax Agent Server
管理ツールによる設定内容の変更はしないでください。
設定内容の変更をした場合、以降の Setup Wizard での構成変更はエラーとなります。

付録C.9 用語について

(1) 用語解説

このヘルプで使用する用語を次に示します。用語をクリックすると、解説がポップアップで表示されます。

sendmail

一般文書データベース

運転席

永続メモリ

ケース

構成変更

サイト

作業領域

システムジャーナルファイル

ステータスファイル

生存期間

バージョン(版)

ビジネスプロセス定義

フォーム文書データベース

文書実体ファイル

分類索引

マスタ管理サーバ

ロール

ワーク

sendmail

ネットワークと Groupmax Mail - SMTP との間で SMTP のメールの受け渡しをするデーモンです。

一般文書データベース

Word などのアプリケーションプログラムで作成したファイルを、一般文書として管理するための文書データベースです。

運転席

各種のシステム管理プログラムを実行して、ユーザ情報とサーバ情報の設定・監視・保守をする機能です。

永続メモリ

エージェントの生存期間に保持される記憶領域です。ユーザプログラム間での情報の引き継ぎをする場合に、永続メモリのデータを参照・更新します。

ケース

ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物です。

構成変更

いったん初期化した Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)の、データベースの構成を変更することです。

サイト

アドレス管理ドメイン内のサーバを管理する単位です。

作業領域

文書を編集するための領域です。作業領域は、ユーザ毎に割り当てられます。

システムジャーナルファイル

Groupmax High-end Object Server で、システムの履歴情報を格納するファイルです。システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

ステータスファイル

Groupmax High-end Object Server で、システムの稼働状態や構成状態を格納するファイルです。システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

生存期間

エージェントの活動が有効になる期間です。クライアントがエージェントを生成するときに、生存期間を指定します。

バージョン(版)

文書管理では、更新前と更新後の一般文書が時系列に管理されています。このとき、作成及び更新した順番に、文書に付けられる番号です。

ビジネスプロセス定義

ワークフローで実行する業務の流れの定義です。

フォーム文書データベース

フォームを基に作成された文書を格納するデータベースです。

文書実体ファイル

一般文書として一般文書データベースで管理する、Wordなどのアプリケーションプログラムで作成したファイルです。

分類索引

文書管理で一般文書を管理するため、複数の一般文書をグループ化した単位です。

マスタ管理サーバ

アドレス管理ドメイン全体の管理をするサーバです。1つのアドレス管理ドメインに1つだけ存在し、サーバマシンで動作します。

ロール

ワークフローで仕事をする上での役割です。個々のユーザは、ロールでグループ化できます。

ワーク

ビジネスプロセス定義のソースノードから投入された案件を、シンクノードまでの各ノードでユーザが処理することで成し遂げられる仕事です。

付録 D 用語解説

このマニュアルで使用する用語の意味を、次に説明します。

(英字)

sendmail

ネットワークと Groupmax Mail - SMTP との間で SMTP のメールの受け渡しをするデーモンです。

(ア行)

一般文書データベース

Word などの AP で作成したファイルを、一般文書として管理するための文書データベースです。

運転席

各種のシステム管理プログラムを実行して、ユーザ情報とサーバ情報の設定・監視・保守をする機能です。

永続メモリ

エージェントの生存期間に保持される記憶領域です。ユーザプログラム間での情報の引き継ぎをする場合に、永続メモリのデータを参照・更新します。

(カ行)

ケース

ワークフローで回覧される文書又はメモを格納する入れ物です。

構成変更

いったん初期化した Groupmax Object Server(又は Groupmax High-end Object Server)のデータベースの構成を変更することです。

(サ行)

サイト

アドレス管理ドメイン内のサーバを管理する単位です。

作業領域

文書を編集するための領域です。作業領域は、ユーザ毎に割り当てられます。

システムジャーナルファイル

Groupmax High-end Object Server で、システムの履歴情報を格納するファイルです。システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

ステータスファイル

Groupmax High-end Object Server で、システムの稼働状態や構成状態を格納するファイルです。システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

生存期間

エージェントの活動が有効である期間です。クライアントがエージェントを生成するときに、生存期間を指定します。

(ハ行)

バージョン(版)

文書管理では、更新前と更新後の一般文書が時系列に管理されています。このとき、作成及び更新した順番に、文書に付けられる番号です。

ビジネスプロセス定義

ワークフローで実行する業務の流れの定義です。

フォーム文書データベース

フォームを基に作成された文書を格納するデータベースです。

文書実体ファイル

一般文書として一般文書データベースで管理する、WordなどのAPで作成したファイルです。

分類索引

文書管理で一般文書を管理するため、複数の一般文書をグループ化した単位です。

(マ行)

マスタ管理サーバ

アドレス管理ドメイン全体の管理をするサーバです。1つのアドレス管理ドメインに1つだけ存在し、サーバマシンで動作します。

(ラ行)

ロール

ワークフローで仕事をする上での役割です。個々のユーザは、ロールでグループ化できます。

(ワ行)

ワーク

ビジネスプロセス定義のソースノードから投入された案件を、シンクノードまでの各ノードでユーザが処理することで成し遂げられる仕事です。

索引

数字

- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数 17, 50
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均数 17, 50
- 1つのメールボックスが保持する受信メールの平均数 14, 43
- 1日あたりのワーク数 19, 54
- 1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数 19, 54
- 1ユーザあたりの同時アクセス文書数 18, 50
- 1人が1日に送信するメール数 14, 44

A

- A系ファイル名 13, 35, 36

B

- B系ファイル名 13, 35, 36

E

- E-mail アドレスの平均長 14, 44
- E-Mail のサーバ名 22, 58
- E-Mail を使用する 22, 58

G

- Groupmax Mail のサーバ名 22, 59
- Groupmax Mail を使用する 22, 59
- Groupmax WWW の設定項目 24
- Groupmax コンテンツを表示する 84
- Groupmax サーバインストール状況一覧 28
- Groupmax サーバの起動・停止 107

H

- High-end Object Server の設定 34

I

- INTERNET ドメイン名 16, 45
- IP アドレス 12, 33

P

- PP サーバ未起動時のリトライ間隔 22, 59

S

- sendmail の実行ファイル名称 16, 45
- Setup Wizard の概要 5
- SMTP 詳細 46
- SMTP の固定値 46
- SMTP の設定 (構成変更) 71
- SMTP の設定 (新規導入) 45
- SMTP の設定項目 16

あ

- アクセスログを出力する 24, 82
- アンロードされていないファイルを交代選択先の対象とする 13, 38

い

- 一般文書データベース数 17, 49
- イベントログファイル 115

え

- 英語姓 64
- 英語名 64
- 永続メモリファイル格納ディレクトリ 23, 61
- エージェント詳細 59
- エージェント情報格納ディレクトリ 23, 61
- エージェント生存期間の監視インターバル値 22, 59
- エージェントの設定 (構成変更) 74
- エージェントの設定 (新規導入) 58
- エージェントの設定項目 22
- エラーログを出力する 24, 82

お

- 親サーバ名称 21, 57
- オンライン開始と同時にオープンする 13, 39

か

- 開始状態 37
- 回覧を使用する 14, 42
- 活動ログファイル格納ディレクトリ 23, 61
- 簡易ジャーナルファイル作成ディレクトリ 12, 33
- 簡易ジャーナルファイルの作成 33
- 管理サーバ名 14, 42
- 管理サーバ名称 19, 53

き

起動時にカレンダーを表示する 83
 共通設定（構成変更） 69
 共通設定（新規導入） 31
 共通設定の項目 12

く

クライアント未起動時の最大保留メッセージ数 22, 60
 クライアント未起動時の保留メッセージ生存期間 22, 60
 クラス別スレッド数 22, 60
 クラス別動作期限監視時間 23, 60
 グループ名 37

け

掲示板の作成 98
 ケース 19
 ケース内の文書数 19, 55

こ

構成変更のための一時ファイル格納ディレクトリ 12, 33, 69
 このサーバに登録するユーザ数 12, 32

さ

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均 14, 44
 サーバ起動 62
 サーバ設定ウィザード終了 65
 サーバプログラムの環境設定 2
 サーバ名 14, 41
 最上位組織の設定 63
 最大ユーザ数 24, 80
 最大ログインユーザ数 20, 55
 サイト名 14, 41
 作業領域ディレクトリ名称 17, 48
 作成サイズ 13, 39

し

システム環境の設定 31
 システム再開時にジャーナルをスワップする 13, 38
 システムジャーナルファイルの設定 37
 システム停止時のデバッグ情報の出力先 12, 32
 システム内の全ユーザ数 12, 31
 ジャーナルファイルの容量見積り 39
 受信メールの表示 84

す

スケジューラ／施設予約管理 57
 スケジューラ／施設予約管理の設定項目 21
 ステータスファイルの設定 35
 スプールディレクトリ名称 17, 48

せ

性能優先モード(共有メモリ上限拡大) 12, 32
 接続状態の表示 88
 接続するPPサーバの最大数 23, 60
 設定確認（構成変更） 75
 設定確認（新規導入） 62
 設定種別 29
 セットアップサーバ種別の選択 29
 全一般文書数 17, 50
 全組織数 14, 43
 全フォーム文書数 17, 50
 全マスタ掲示板数 14, 43

そ

送信者名称 22, 58
 送信メール1通あたりの宛先数の平均 14, 43
 組織ID 63
 組織日本語名 63

ち

チェックポイントを取得する間隔 13, 38
 着信監視間隔 83
 着信監視を利用する 83

つ

通信環境の設定 33

て

ディレクトリ名称 15
 データベース作成ディレクトリ 12, 32
 データベースの作成 32
 データベース名称(スキーマ名称) 12, 32
 電子アドレス帳／メール詳細 42
 電子アドレス帳／メールの算出値 118
 電子アドレス帳／メールの設定（構成変更） 70
 電子アドレス帳／メールの設定（新規導入） 41
 電子アドレス帳／メールの設定項目 14
 テンプレート格納ディレクトリ 23, 61

と

同時に接続できるユーザの最大数 23, 60
 同時にログインできるユーザの最大数 23, 60
 同時ログインユーザ数 18, 50
 登録するエージェントの最大数 23, 60
 トレースファイル 115

に

ニックネーム 64
 ニックネームログイン機能を使用する 24
 日本語氏名 64

は

ハードウェア構成 110
 パスワード有効期限の通知日数 24, 81

ひ

ビジネスプロセス定義数 19, 55

ふ

ファイアウォール 127
 ファイルグループ名 13, 38
 ファイル転送用ファイル格納ディレクトリ 23, 61
 フォーム文書データベース数 17, 50
 フォルダ数 18, 50
 複数グループアクセス機能を使用する 18, 50
 物理ファイル名 13, 37, 39
 プリンタの選択 42
 プリンタ名 14, 42
 プログラム毎の設定 12, 33
 文書あたりに保持するバージョン数 18, 50
 文書管理詳細 49
 文書管理データベースへの同時アクセス数 18, 51
 文書管理の算出値 120
 文書管理の設定 99
 文書管理の設定 (構成変更) 72
 文書管理の設定 (新規導入) 48
 文書管理の設定項目 17
 文書実体ディレクトリ名称 17, 19, 48, 52
 分類, 分類索引の総数 18, 50

ほ

ポート番号 12
 ポート番号設定 33
 ホスト名称 12, 33

ま

マルチサーバ環境設定後の作業 89
 マルチサーバセットアップ管理デーモン 88
 マルチサーバの総サーバ数 20, 56

み

未読の記事だけ表示する 84

む

無通信監視時間 23, 61

め

メール ID 設定 63
 メール登録ユーザの設定 63
 メールを着信監視の対象とする 83

ゆ

ユーザ ID 64
 ユーザアカウント制御 127
 ユーザ内履歴数 20, 55
 ユーザの登録 96

り

リストビューでフレームを表示する 84

ろ

ロール数 20, 55
 ログアウトし忘れ監視時間 24, 80
 ログイン方法の初期設定 81
 ログインユーザ名称 22, 59
 ログインリトライ回数 24, 80
 ログ情報エリアディレクトリ名称 19, 52
 ログファイルの最大サイズ 16, 46
 ログファイルのバックアップ数 16, 46
 論理ファイル名 13, 35, 36

わ

ワークエリアディレクトリ名称 19, 52
 ワーク下のオブジェクト数(最大値) 20, 56
 ワーク処理日数 19, 54
 ワーク内のケース数 19, 55
 ワークフロー詳細 53
 ワークフローデータベース同時アクセス数 20, 56
 ワークフローの運用環境の設定 104
 ワークフローの算出値 121
 ワークフローの設定 (構成変更) 73

索引

ワークフローの設定（新規導入）	52
ワークフローの設定項目	19
ワークフローを着信監視の対象とする	83
ワーク保存日数	19, 54